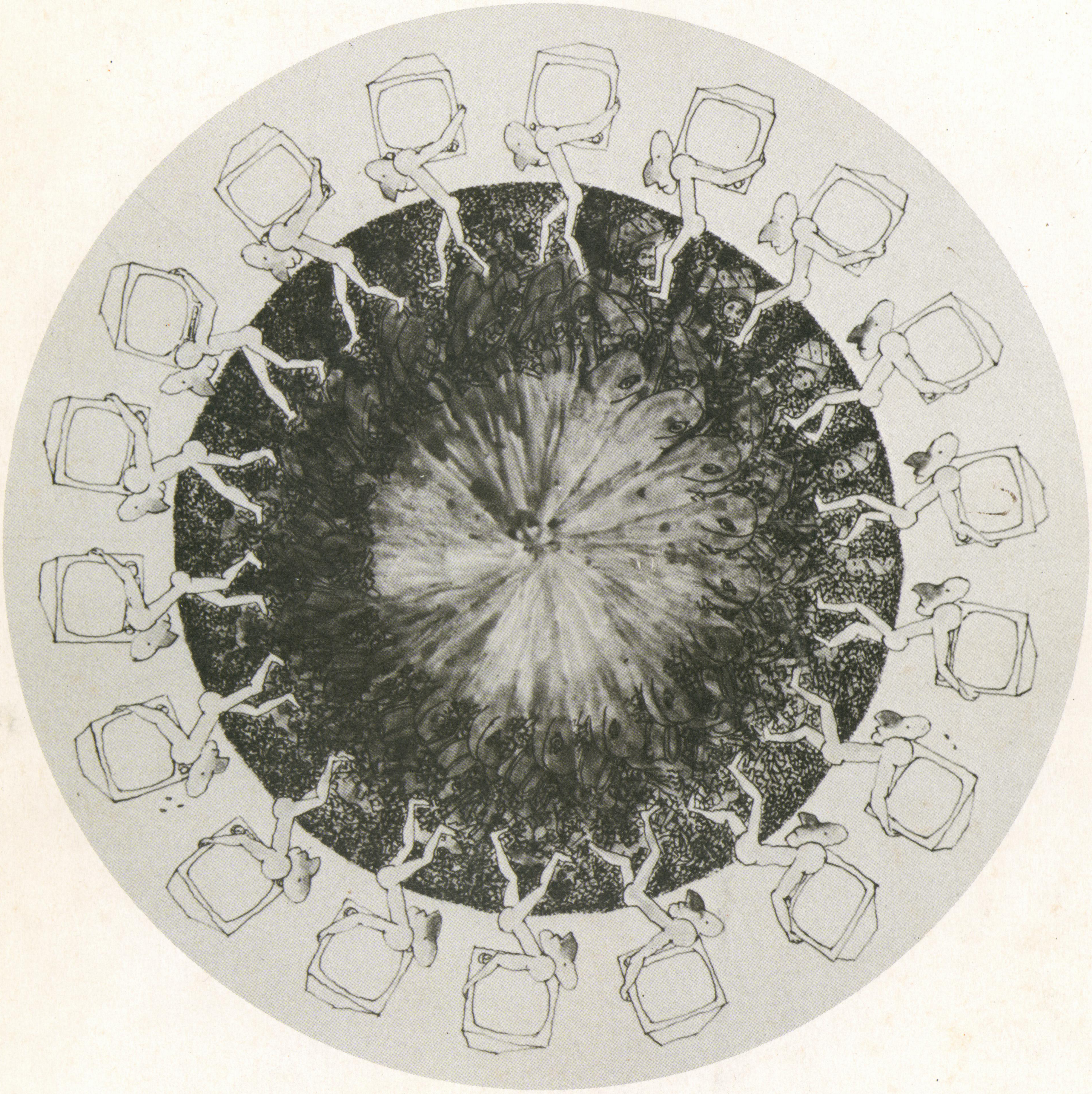
FANTOCHE

PHENAKISTISCOPE「驚き盤」



ノーマン・マクラレンの世界

「目で聞き、耳で見る」─邦訳

あなたも上映会を…の1「波の彼方のアニメーション」

スーパーマンとはなにか　小野耕世

VOL.1

FANTOCHE

創刊にぶちあたって

代表　並木　孝

ＴＶではこの10月から、史上最高18本というＴＶアニメが流れ、それに再放送が加わって、ずらっとマンガが揃った。

劇上用作品は、東映を始めサンリオやタックで作るという。

久里洋二、古川タク、川本喜八郎、岡本忠成、相原信洋氏らのフィルム個展も行なわれ各アニメサークル、大学アニメ研などの制作も活発化しているようだ。上映も、グループの主催や文化祭でアニメが多くなっている。

こうして、何かとアニメ界の話題にはこと欠かないのだが、商業ベースの制作、自主作品の制作、アニメ上映運動、とどれをとっても切実な問題を抱えていて、それらが係り合い混沌とした様相を呈している。東映は東洋のディズニーからいちじるしく後退し、虫プロは倒産し、ＴＶアニメは粗製乱造とさわがれつつも増え、自主アニメ制作費は制作者の首をしめ、サークルの会計は郵便料金の値上にダメージをうける。

このような時期にFANTOCHEを創刊することは嵐にのりだす一艘の小舟というべき所業で、原稿を頼まれた方々、定期購読を申しこまれた方々、そして我々と、疑惑に満ち満ちた二ヶ月だった。

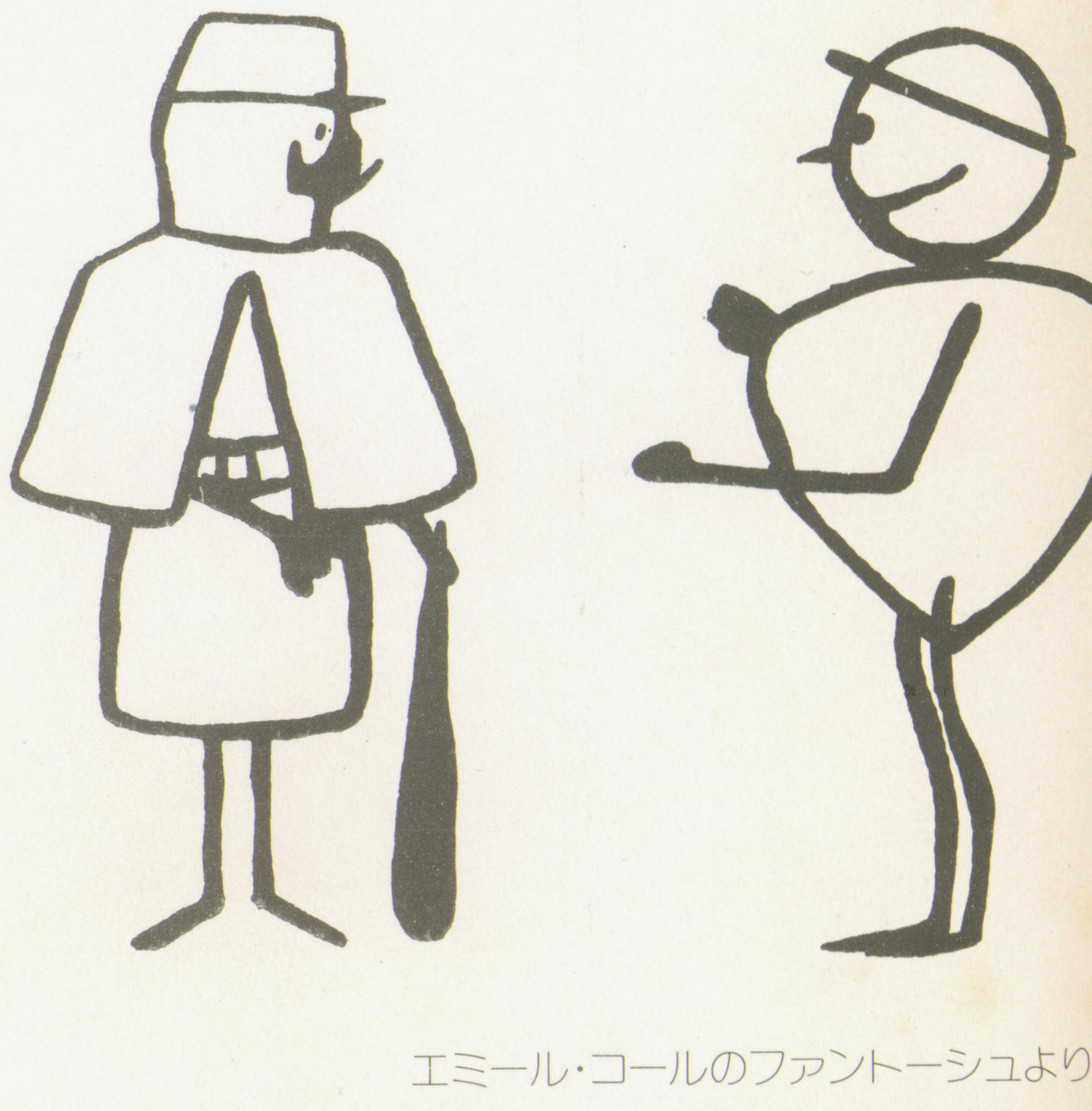
とにかくアニメーションについての何事でも、アニメという言葉は、お金が逃げるという意味らしく、長続きしないようだ。その中でもそれの雑誌など世の中で考える一番長続きしそうもないものだ。どなたもそう思っていることは、僕がそう思っていることでも解る。よろしい、これでこそ、長続きのさせがいがあるというものだ。(しかし、アニメファンは期待しないから、やりやすいともいえるけれど)

編集に入って一ケ月、いろいろな人にお話をうかがったり、原稿をいただいたりした。みるにみかねて、精神的援助よりもありがたい金銭的援助を申し出る方もあった。ありがたいと思うと同時にそこまで甘えるだけのホンができるか、御期望にそえるか、不安感が終始つきまとった。それにめげなかったのは毎日２～３通送られてくる定期申し込みの郵便がいやでもひっぱって来てくれたおかげです。広島や、山形や日本全国の愛読者のみなさん!!もしかしたら御期待をうらぎったかも知れませんが、FANTOCHEはこれからの本です。どうかこれからも、よろしく、どうか、どうかお願いします。

ANIMATIONの限りない可能性に
ANIMATIONの技術によって生まれるすべてのファンタジックな映像に愛をこめて

発行責任者　並木　孝

スタッフ　広瀬和好
須藤　隆
甲谷　勝



エミール・コールのファントーシュより

フランスのアニメ雑誌

FANTASMAGORIE誌・特約

● 創刊にあたって —— 1

Fantoshe 創刊に …… 2.3

アヌシーフェスティバルに参加して 4.5.6

アニメ全国総会開催 —— 7

BBC放送・制作「インタビュー・フィルム ノーマン・マクラレンの世界—目で聞き、耳で見る」
1時間番組の完全邦訳〔前〕 8.9.10

○『全国縦断プライベート・アニメ・フェスティバル』報告 11

TVアニメ 小視考「アルプスの少女・ハイジ」 12 13

自主作品解明（1） 妄動 14

☆スーパーマンとは何か
★ 小野耕世 15.16

○アニメーターが語る(1) 鈴木伸一氏(スタジオ0) 1718

テーマソング歌手に聞く—(1) ほりえみつこ—18才 19

● TVアニメ新作紹介 …………… 20

○ 話題の新作ETC.

映画用の標準フィルムはなぜ
16ミリフィルムはなぜ
一番小さいフィルムはなぜ
不燃性フィルムはいつ、なぜ 24
………… 杉本五郎 25

○ヤング・フランケンシュタイン 26.27

★レイ・ハリーハウゼン研究（1） 27.28

● NEWS & トピック 30.31

—大使館フィルムの借り方— 32

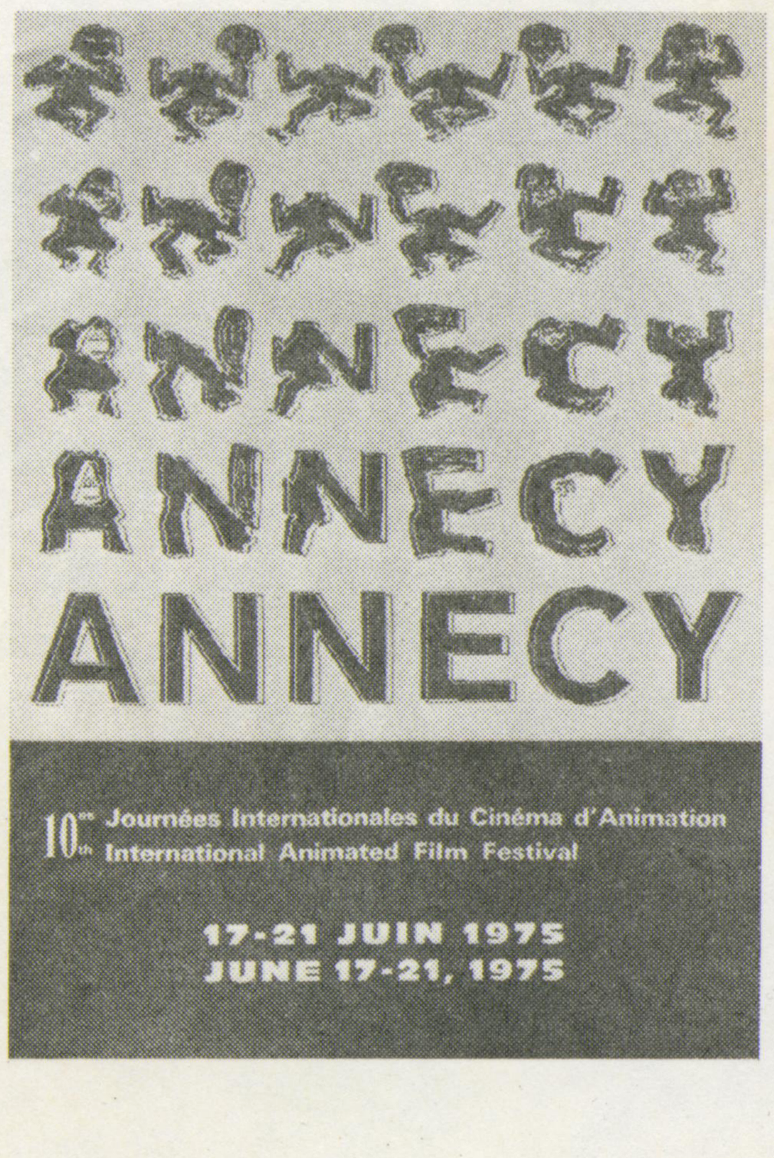
＊波の彼方のアニメーション 33

日本人形アニメーションの歴史（1） 中村武雄 34 35

新作映画紹介 36

「わんぱく王子のおろち退治」シナリオ 37—41

• 読者のおたより 42
• アニメ・サークル紹介 43
• 編集後記 44



アヌシーフェスティバルの
パンフレット・表紙

季刊 FANTOCHE 創刊に・・・・・・・

真実をより善く、より美しく　政岡憲三

創刊号にこぎつけられた由、兎も角もおめでとう。僕は君達の実行力を高く評価します。

僕は元々無宗教であったが、学校でならった真善美の調和を信条としてきました。上にたつものは結果を、下っぱは動機を重視します。だから、これからは未来を洞察することが必要で、真実をより善く、より美しく、という事を心掛けて下さい。それは幾多の矛盾を抱含している事とは思いますが、予想と期待とを混同してはいけません。大東亜戦争でも敗戦を予想する事は、それを期待するという風に誤解されて、非国民ときめつけられました。

勇気をもって冷静に判断して実行せられる事を祈ります。

私のなかの〈6歳〉　小野耕世

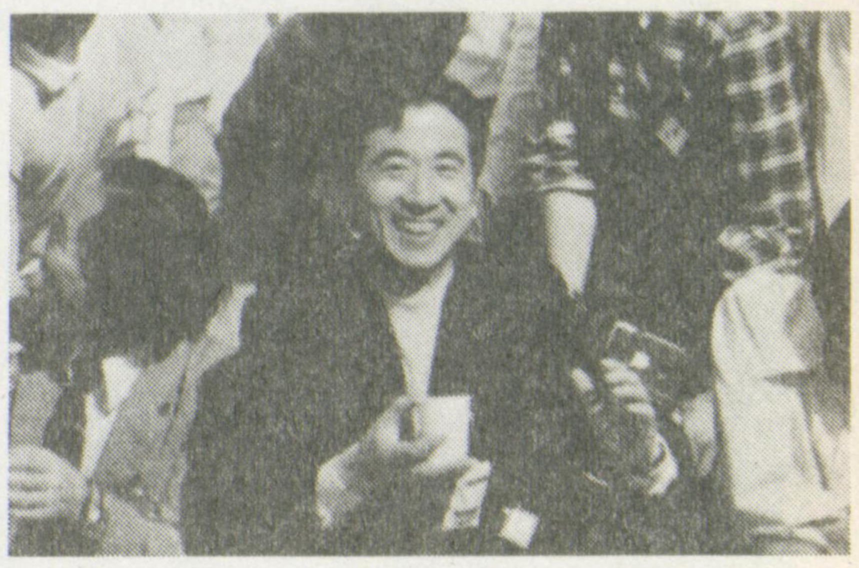
ベティ・ブープの悩ましき姿をプリントしたTシャツを、ニューヨークで貰ってきた。私の名前もプリントされている。喜んだら、6歳の男の子にも同じものをプレゼントしたといわれた。つまり、私の精神年齢はそのくらいだと思われたのですね。本邦最初のアニメーション専門雑誌が発刊されるときい豪華て、私のなかの〈6歳〉は、早くもわくわくしているのです。

入りきるのかしら？　森　卓也

創刊予告のチラシを拝見すると、これほどの内容がＡ４判・40ページに入りきるのかしら？　と心配なほどです。

でも「大使館フィルムの借り方」等は、重宝する人が多いと思います。（ついでながら、プリントの取扱いはくれぐれも慎重に――と付記しといて下さいよ）

定期購読を受付けると、読者への責任が重くなります。経済的にも大変でしょうが、あまり一度に欲ばらないで息の長いＦＡＮＴＯＣＨＥを期待しています。



しっかりした根を、　薮下泰治

兄は聡明で理論的で、すべてものごとを根源にさかのぼって考えるたちです。あとから生れた弟は人づきあいもよく大勢の人々から親しまれ、愛されるようになりました。弟の言うことは大変わかり易く人々の心にピッタリとくるので人々は彼の言葉に泣いたりもし笑ったりもします。ですから人々の心は段々と弟の方に移っていったのです。

これは兄の言うことが決してむつかしいとかわかりにくいからではありません。その証こに弟の人気とは逆でありますが兄は小さい子供たちを相手に結構彼らを楽しませ、よろこばしているのです。純粋な心の子供たちは兄を大変親しんでいるのに大人の人たちは兄の方をふりむこうとはしません。それは兄の言葉が実生活に苦しんでいる大人の人たちには現実的な魅力がないからなのでしょう。兄は理想家であり才能のある人です。そのうちに大人の人たちも子供のような美しい心をもつようになったら兄の言葉によろこんで耳をかたむけるようになるにちがいありません。その時こそ「文化が一段階進んだ」といえるのではないでしょうか。

弟の事についてはその人柄や主張や彼の功績や彼への希望を書いた本は数限りなく出ています。それなのに兄の事については彼の生い立ちと彼を尊敬するわずかな人の本しか出ていないのが現状です。こうした時に兄のファンである若人たちが「ファントーシュ」によって兄の人柄を互に勉強しあおうという。この情熱は誠に貴重です。これが兄に冷たかった人々に兄の理想をみなおす動機を与えてくれることを願わずにはいられません。

「ファントーシュ」がきびしい風に立枯れせずにしっかりした根をおろしてほしいと祈っています。　―兄を尊敬する一人として―

正当な評価が、　大塚康生

ファントーシュの創刊おめでとうございます。情報の氾濫する今日、アニメーションに関する専門誌の一つぐらいあってもいいのにと、常日頃願っていました。

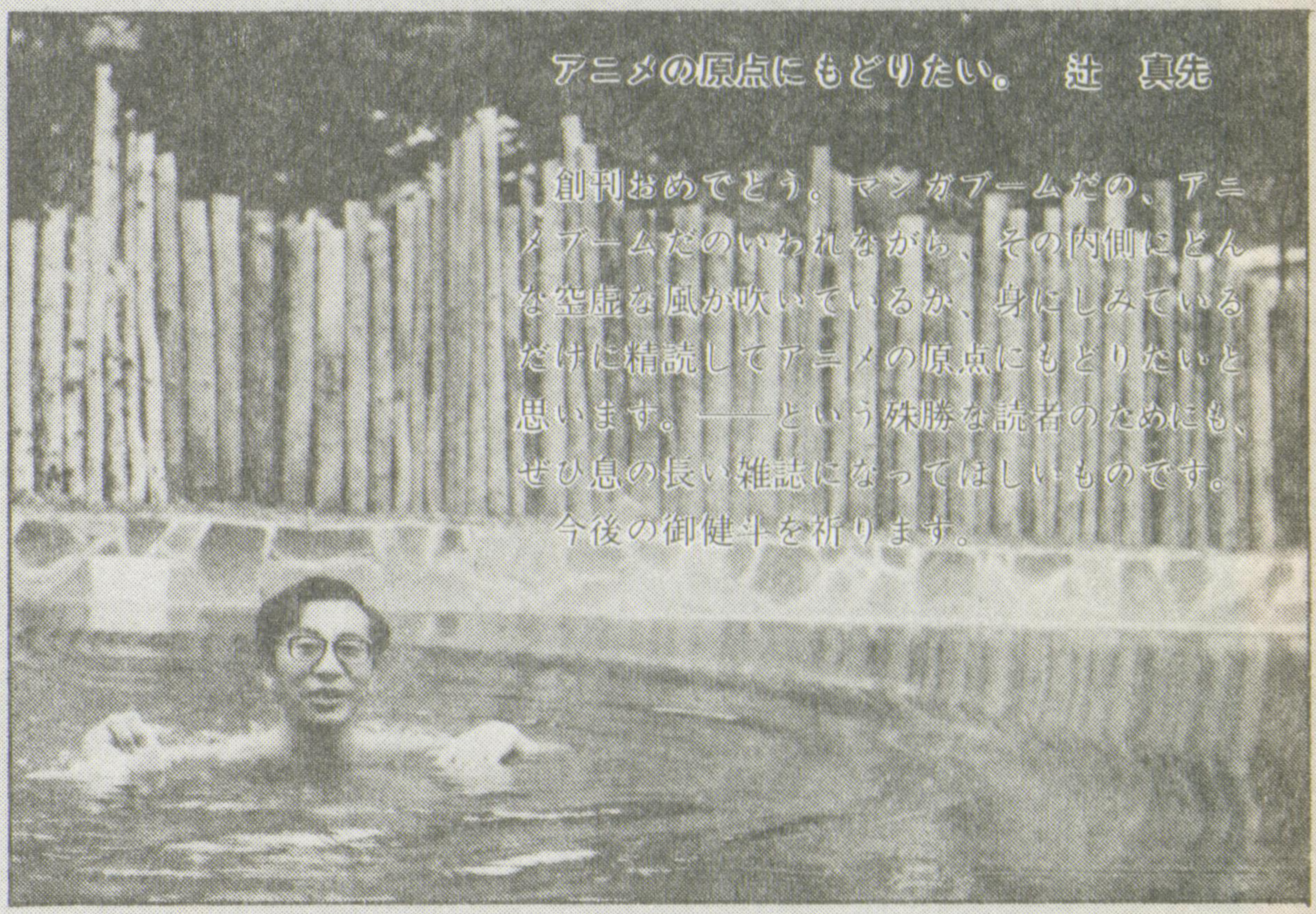
現在、アニメーションをとりまく諸事情は良心的に創作活動を行おうとするものにとって劣悪の状態ですが、ジャーナリズムをとおして受取る側の正当な評価が、与えられることこそがこうした人達を勇気ずけ、すぐれた作品を生み出すバネになるものと思います。

大変でしょうが、息切れせずにガンバッテ下さい。

アニメの原点にもどりたい。　辻　真先

創刊おめでとう。マンガブームだの、アニメブームだのいわれながら、その内側にどんな空虚な風が吹いているか、身にしみているだけに精読してアニメの原点にもどりたいと思います。――という殊勝な読者のためにも、ぜひ息の長い雑誌になってほしいものです。

今後の御健斗を祈ります。



創刊にあたって　相原信洋

過去に於て、俗に「早く覚えて早く出す」といった様なアニメの基本・歴史・評論といった事務的な本は現在でも数冊ほど書店で見ますが、何かしら密度が少ないことはつくづく前から思っていました。そういった中に於て、今度アニメ関係での新分野とも言える雑誌が創刊されるとのことは、とても嬉しいことです。今日異状なほど増大したテレビアニメ以外のアニメ映画や作家達は内外問わず、全般に底迷している様なことは、良く耳にします。しかしアニメ関係以外の制作者を含め各グループ、個人のアニメ制作者の数は2～3年前に比べれば驚くほどですし、現在も増え続けているのを忘れてはいけません。ですから創刊にあたっては、過去の行動的にも老いた人達の行った先細り形態ではなく、アニメの歴史的事柄・内容も結構ですが、中心はやはり現在だということを認識してほしいと思います。国際的にも連帯できる本にしてほしい等です。

ますます私は日常的に作り続けるし、続けてユニークな形で刊行してもらうことを望みます。

ホンモノを見つけよう。　おかだえみこ

アニ同例会のスクリーンで、私はやっと、ほんとのベティ・ブープを見ることができた。かつてテレビから何十本も放映され、その時はやはりショックを受け、「見られてよかった」と思っていたのだが。

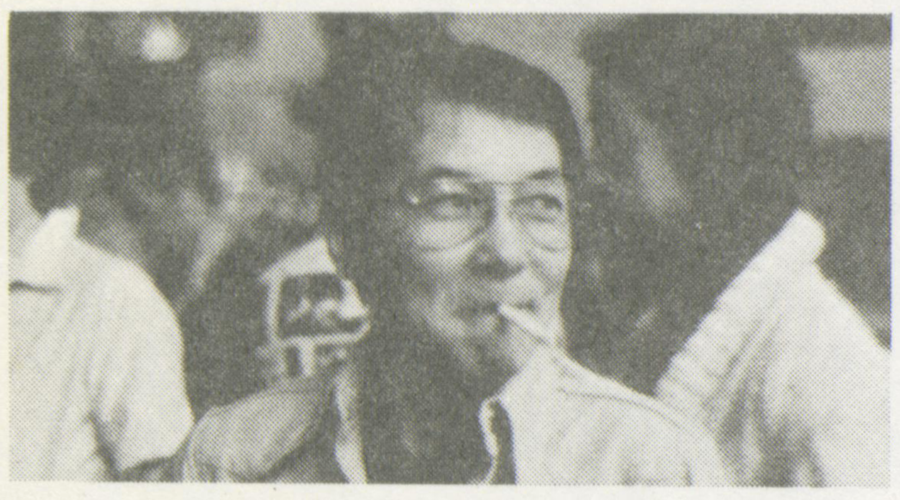
映画館のために作られたフィルムは、スクリーンで見てこそ本来の姿がわかる、その当り前の事実を、やっぱり今度も痛感した。ブラウン管のそれとは較べようもない、ベティの魅力、迫力。これはまさにホンモノである……やっと、見られた。

「ホンモノ」に出逢うこと、そしてその「ホンモノ」が時間を越え得ることの確認。生きがいというものは、年の取りがいというものは、そのへんにしかない、ということが、近頃どうやらわかりはじめた。お互い、なるべくたくさんホンモノを見つけるようにしたいものですね。

何か始めましょう　　古川タク

アヌシー映画祭に参加した折、日本からきたひとりの熱心な青年がいた。黒いスーツ、黒いシャツに身を固めたこの青年は、期間中、神出鬼没、まるで忍者のように会場のあちらこちらに現われ、世界のアニメーションを、ひとり吸い取ってる感じがした。

この並木君たちが、アニメーションの専門誌を出すというニュースは、アニメ界、久々の刺激剤だ。上映する機会がないから、映画を作らないとか、売れないから雑誌を作らないとか言っていては何事も始まらない。僕はどうせアニメ馬鹿だから作らにゃそんそん！という気持で映画を作っていきます。こんどのニュースは、「おっ、山の向うに、またひとり馬鹿が顔だしたな！」という感じで、やはり、これは昔から言うとおり、死ななきゃ、なおらないのです。



「ファトーシュ」に期待。　　川本喜八郎

今年の夏、国際アニメ映画祭に出席するために乗った。パリからアヌシーまでの汽車の中で、向い側に腰かけていた若い長髪の青年が、アニメーションの本など読んでいるので話しかけると、彼はフランスで唯一のアニメ映画の雑誌「FANTASMAGORIE・ファンタスマゴリー」の記者だ、と名乗った。実はどんな雑誌か大して期待もしていなかったのだが、アヌシーに着いた後、彼がその雑誌を見せて呉れたところ、大変キチンとした立派な本で、編集もしっかりしているように見うけられた。その時、同行の並木君が、「負けた！」と叫んだのを覚えている。

日本ではじめての、アニメ映画専門誌を発行したいという意向は、彼から前にきいていて、これには双手をあげて賛成なのだが、今までのニュース紙は、情報は的確で、アニメ史からテレビ漫画、長編からミニ作品まで、国の内外を問わず、よくもまあこれだけ集められると、驚く外ないのだけれど、如何にも素人臭く汚くて、編集も仲間うちの楽しみといった幼稚なところが気になっていた。

万人に公開する雑誌を作る以上、プロ根性に徹して、アニメーション映画を制作、研究する者にとっても、アニメーション映画ファンにとっても、なくてはならないような立派な雑誌にならなければ勿体ない。

そして何時か、外国の雑誌の人たちに、「負けた！」と叫ばせるような「ファントーシュ」に育って欲しい。頑張って下さい。

手塚治虫

まだ見てないけど、とにかくすごい！

直射日光が大敵！　　月岡貞夫

アニメ総合専門誌を発刊するんだってねえ、スゴイことだな、それは……。

なんとか文化などという云い方がありますね、アニメ文化などと呼ばれています。このアニメ文化というヤツ、本来おてんとうさまの当らないとこで栄えるもんなんでしょうねえ。なんとか文化というもの評論などが栄える頃には、もう文化とは云えないものになってるそうで……カビの如きアニメ文化には直射日光が大敵です。

FANTOCHEの発展を……。

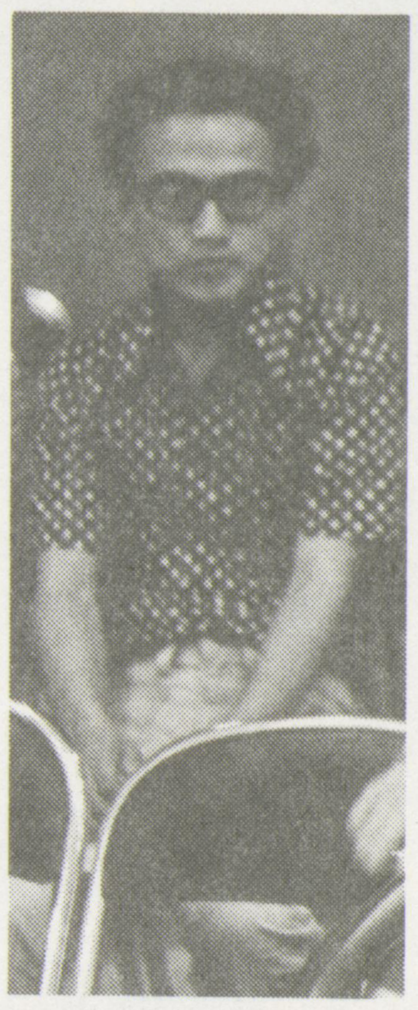
「ファントーシュ」創刊によせて　　岡本忠成

映画の本や雑誌を読んでいてじれったいのは、そこで話題になり議論されている映画を自分がみていないことです。当り前のことだが、それが名論卓説であればある程、みていない当方が悪いような気になってくる。しかしファントーシュ誌のスタッフはフィルム集めの名人揃いでもあるので、誌上の記事に関連ある古今のアニメの名作珍作の数々を上映する機会を作って下さるにちがいない。そうなれば、これこそ花も実もある雑誌ということになりましょう。欲張りすぎかもしれませんが、期待しています。がんばって下さい。

創刊を祝す　　杉本五郎

アニ同の並木君がアヌシーで買ったという、フランスのアニメ機関誌「FANTASMAGORIE」を見せてくれた、フランスの本はフランス語だからさっぱり読めないが、写真だけ見ていてもなかなかたのしい本だ、これの日本版を出そうと思うというので、翻訳本を発行するのかと思ったら、日本で同種の本を出すのだと言う、どうせアニ同で出す機関誌の事だからガリ版で300部も刷るのだろうとたかをくくっていたら、上質の紙を使ってオフセット印刷にし絵や写真も沢山いれて、海外の機関誌との交換する事も予定しているそうだ、アニメファンの全国総会も今年で第6回になった、いよいよ世界的規模に発展するらしい。

何はともあれその壮挙は以て快とするに足りる、目下沈滞気味のアニメ界の奮起に貢献される事を期待する。



気狂いでなきゃ　　鈴木伸一

この前は楽しかった……アニ同の上映会で「桃太郎の海鷲」や「ポパイ」「ベティ」を見て……それから暫くの間はテレビアニメを見なかった。

いい夢をみている時は、これは夢なんだ、と思いながらも目をさますのがおしい……そんな気持だったのだ。

でもあんな作品を作る人は気狂いだな、と思う。気狂いでなきゃ出来る仕事じゃない。「ファントーシュ」も気狂いが集っているに違いない。狂っているから出来る仕事なのだ。

発展を祈っています。

狂気こそが！　　中村武雄

まあ、大変なことを始めたものだ。

どうみても金がある人達のようにみえないし、かといってもしかすると爆発的に売れゆきが伸びて大儲けし得る様な類いのものとも思えないし……。

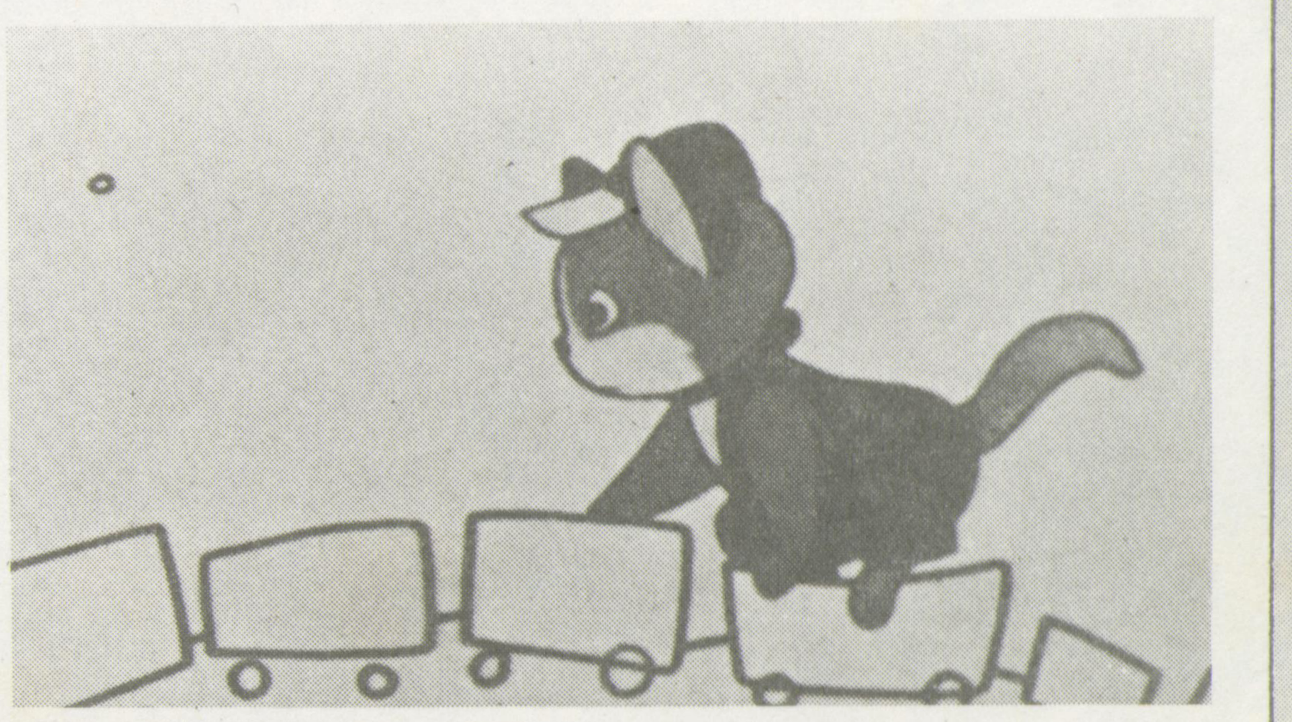
とても正気の沙汰ではない。

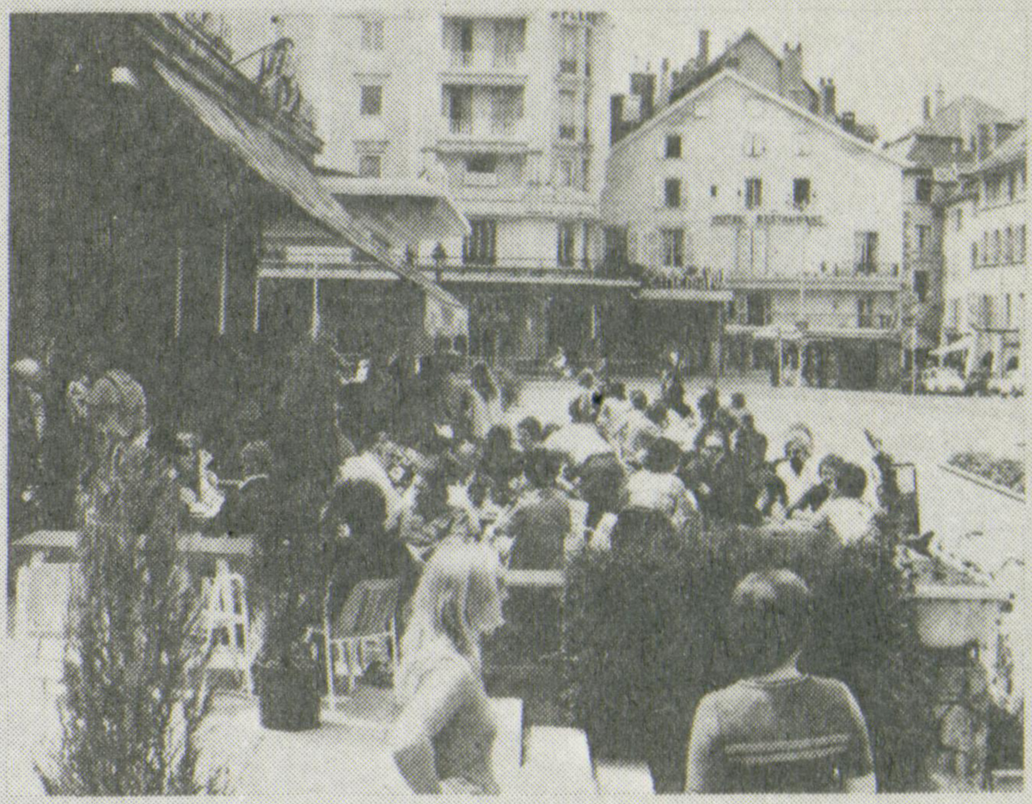
併し、アニメーション同好会を、ここ迄もってきたことすらそうである様に、あえてこれに挑むサムライ達の狂気が私には嬉しい。

狂気こそが、ものを創り出すのだ。

暗がりの中で あかりをつけて 箱の中にこもっている モグラのような
アニメーター仲間の「ファントーシュよ」！
太陽のまぶしい広場になってほしい 語りあうもいい 肩をくんで
歌も唱おう 広い知識も得られよう
おい仲間 乾杯しよう。

森やすじ

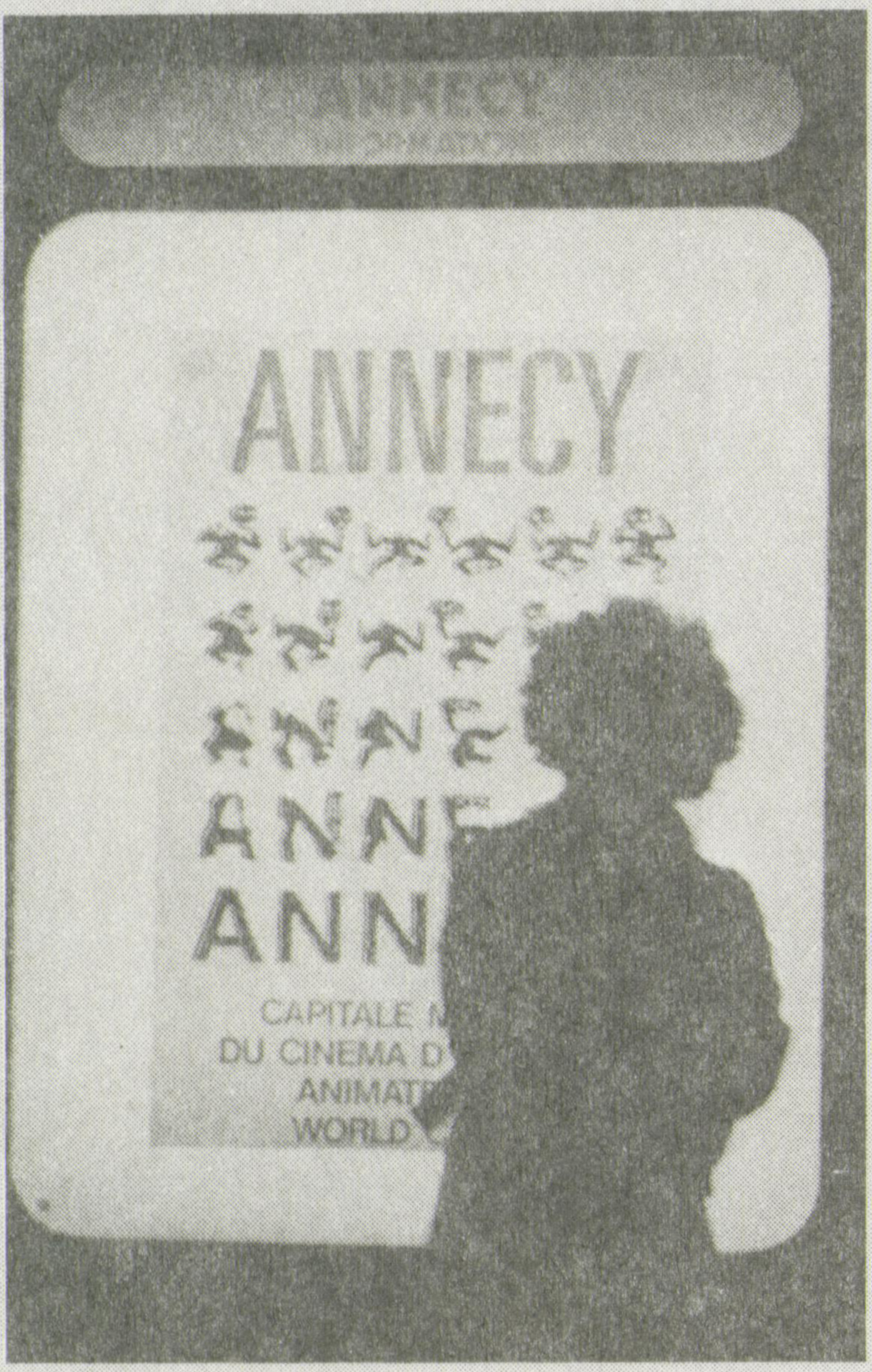




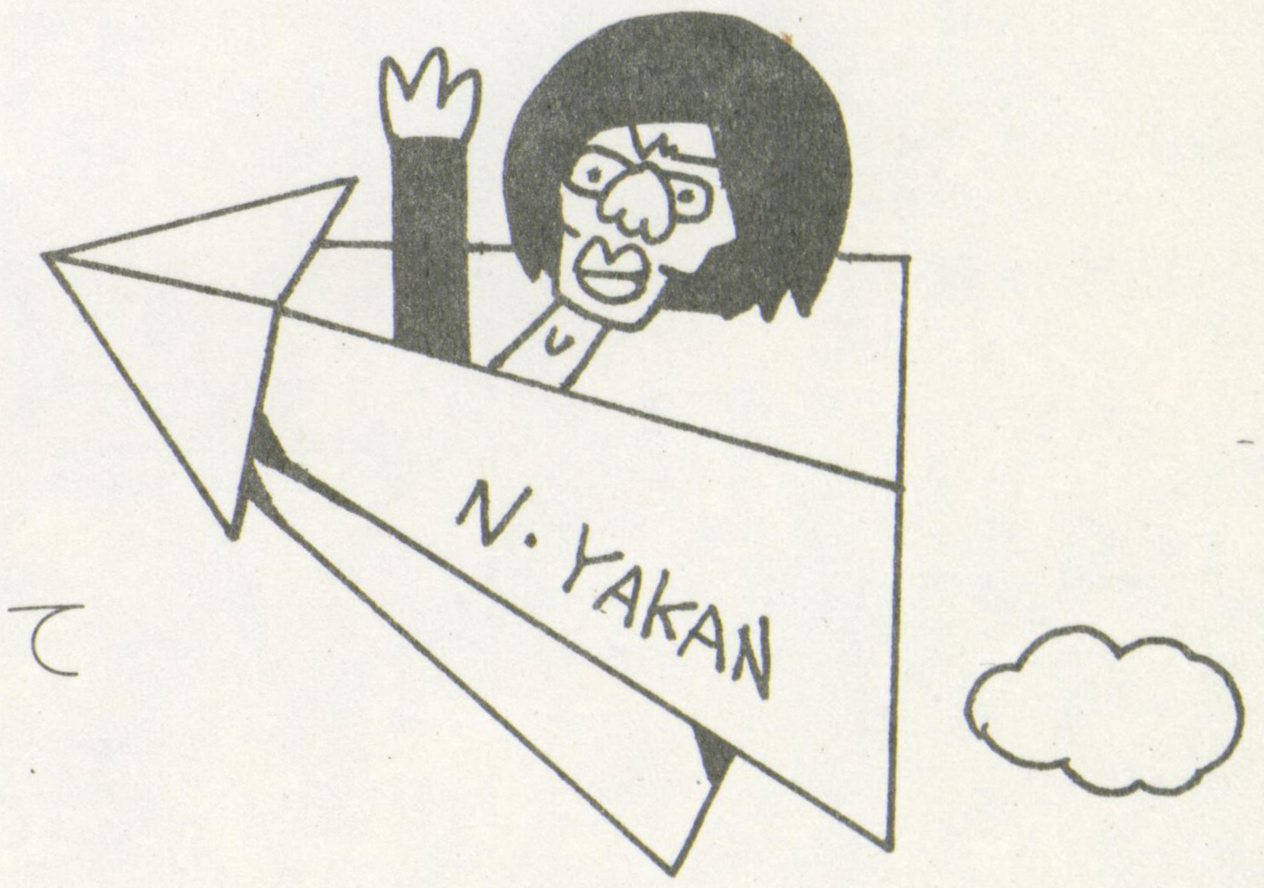
▲会場のカフェ。真向いは特設会場の映画館シネマ・ボックス。

◀ホールで開場を待つ各国アニメ関係者。

◀アヌシーのあちこちにあるこのポスターが外国人のたくさんいる訳を夜も教えている。



第10回アヌシー国際アニメーションフェスティバルに参加しての長雑記



ふらんすに行きたしと
思って行ったけど
せめて新しき背広を着て
旅に出たかった

フランスへ行ったと言えば聞こえはいいが何のことはない、アニメを観ていただけで、日本と変らない。しかし、そこは世界のフェスティバル、量と毛色の違うアニメは桁違いにある。三百本のフィルムの五日間に及ぶ乱舞に日本で鍛えた眼も踊らんばかりだった。フラ公、アメ公かきわけ、イタ公ふみつけ、窓から荷物を入れるように良い席をとって、見狂ってきた。以下その雑記。

プログラムの組み方がまず気にいった。日本でやるアニメ特集みたいになんとなく義理で年代順・作家別にわけている無味かんそなものじゃなくて、本当にアニメが好きで組んでいるよーな気がしてくるんだ。

全部で20プログラムあるんだけど、1日1回入選作の上映・入選外の上映・学生達の作品をやる。ここで印象的なのは、やはり入選のものに多い。アニメの場合、良いものはいざ知らず、ひどいものは誰が見てもひどいのではないかという変な考えが湧いた。

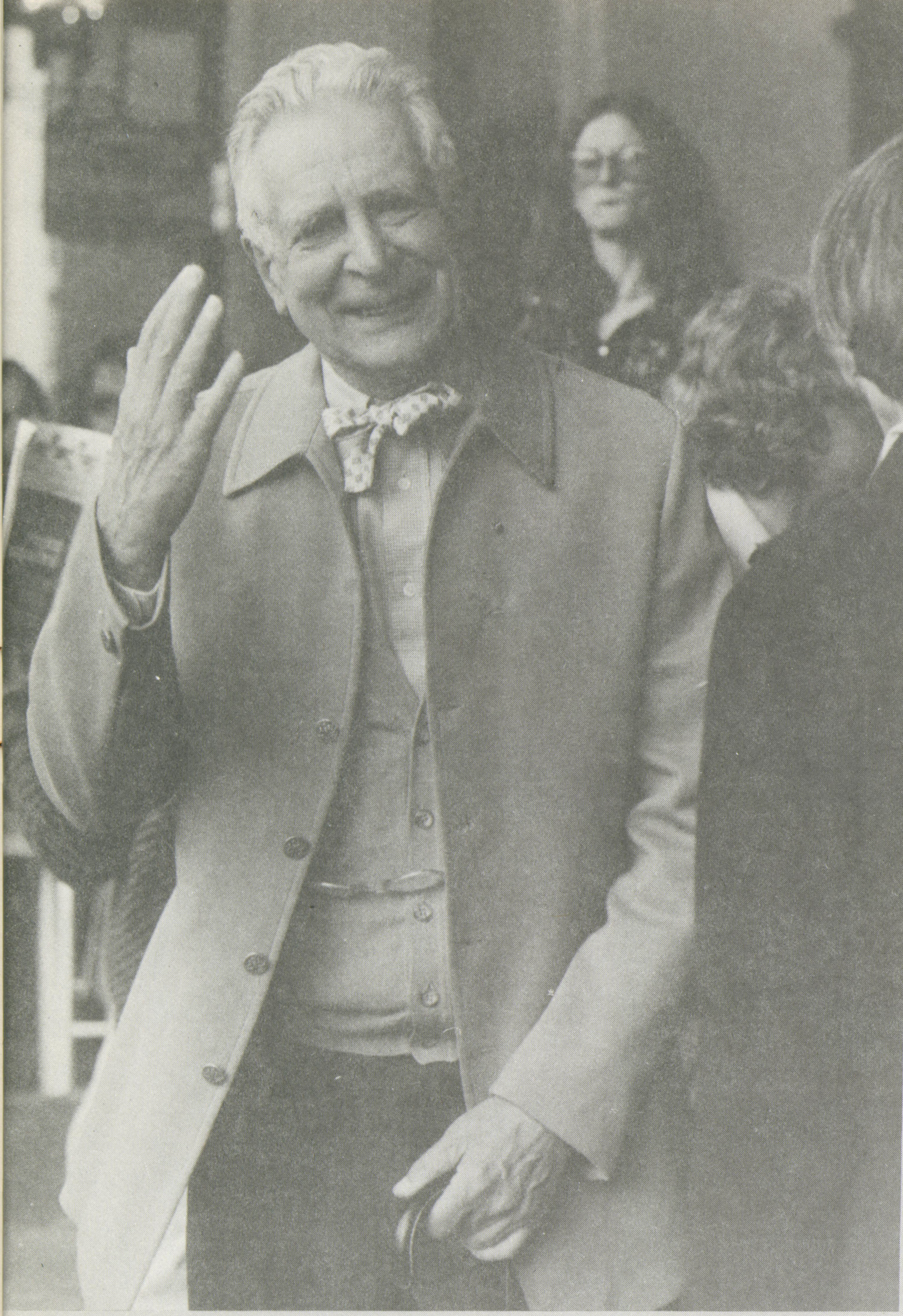
トイレに座っている男の足拍子に隣の男が同調して、そのまた隣も——そして三人が一緒になってトレペをまきつけてトイレ狭しと踊り出す、タイミング抜群のDADADAや、データーを読みあげる冷い声のナレーションをつけて太陽系の惑星をつぎつぎに紹介するSATELLITES OF THE SUNなど個々の作品も、忘れがたいが、数多く入選しているNFBの作品がどれもすばらしく、NFBという制作システムの充実を感じ、またまたNFBの実際をのぞいてみたく思うのだ。マクラレンの作品こそないが、実にさまざま試みががなされ成功しているようだ。マクレレン個人でNFBをいいつくすことは完全にできなくなったようだ。

入選内外などに加えてスペシャルなもの、たとえば日本の特集とか、アレクセイエフの特集とかをせっせとやるんだ。長編を二、三本続けてやるのもあった。

DUNDERKLUMPENという96分の長編は民話に材をとった実写と合成のとりたてのエキサイティングなところのない作品なんだけど、なんとなく他国の人の生活感情がわかるような気がして良かったのだけれど、あんな作品は絶対輸入されないなあ。ミトイテヨカッタ。

とにかくあきさせないプログラムで、事務の女の子も可愛く喜こんでいた。すると、そこへ学生みたいな人たちがビデオを向けてインタビューするもので（どうせ「フェスはどうか」という質問にきまっているので）、すぐ「トレビアン!!」といってしまった。どうもいいすぎのような気がして、はずかしかった（あのビデオはカラーだろうか、赤くなっていなければよいが）

数あるスペシャル上映会の中で、日本の特集はどうかというば、フェスティバル中、おそらく最低ではなかろうか？入場者数は普通だったろうが途中でぞろぞろ出ていってしまって最後には$\frac{1}{3}$もいなかった。このあまりの



◀ニッコリと手をふるA.アレクセイエフ。

▲会場全景。

▼上映の時間近くになると人は加速度的に集まってくる。

▼白いTシャツにキャラクターを刷りこんで売るアルバイトのコーナー。

盛りさがり方で最低といえると思う。全責任はあまりに不親切なプログラムにある。フィルム・センターが送ってきた作品は、非常に初期の切り紙・影絵の、もちろんサイレントの作品ばかりだった。何のことはない、寄贈で集めたセンター所有のものばかりで、「くもとちゅうりっぷ」を借りるとかする手間をはぶいてそれだけを送ったのだ。ボクだってサイレントの切紙をさんざんやってから、おもむろにサイレントの十分近い影絵を三本もやられたら出ていくかもしれない。国語も何も違う外人に何の解説もなしでいきなり見せるものではないのではないか？ファンタスマゴリーの美青年などははっきり「解らねえ」といって出ていった。

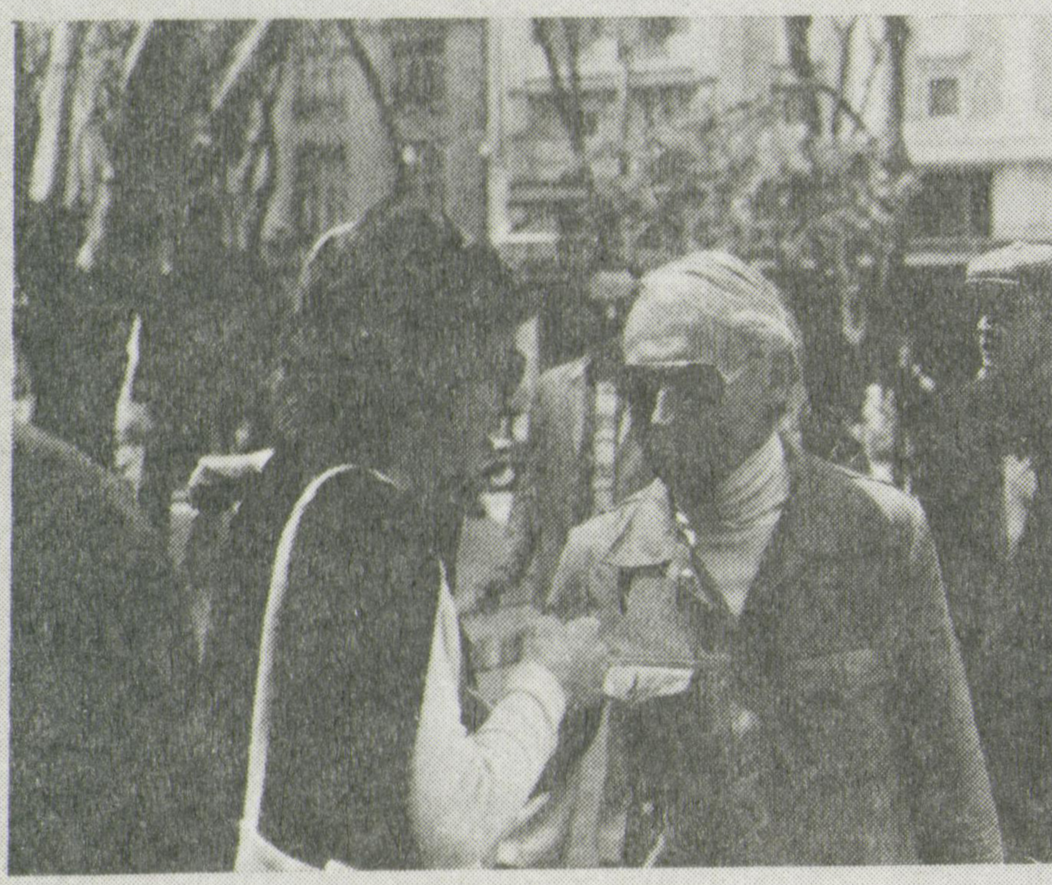
トーキーになったらなったで、働きありが、なまけキリギリスを例にして「息子よ、この非常時に一億国民がたえぬいて」というセリフだ。日本人一同苦笑するわきで、つぎつぎと観客が出て行き続ける。こればかりは川本さんも僕もしぶい顔ちきとならざるをえなかった。おまけに次のプログラムの時間がきて予定の作品、それも大藤氏の「くじら」等が上映されないということになって、日本のアニメの何を見せたのかと暗い気持になった。映写時間の総計をフェス側も調べていないていないのだ。

会場でさわいでもあとのフェスティバルだから、次回にでもちゃんとセレクトした作品で日本のアニメを紹介しようということで、一応気分を静めにかかったが、なんだかガックリきてしまった。

少し高い丘の上にあるお城で、アレクセイエフの個展をやっていた。フェスをはさんで前後1ヶ月くらいやっているらしい。アヌシーのプログラムにも特集があるように、アレクセイエフはやはり別格という感じだ。お城にはセルベを始め各国作家がおしかけて、熱心にアレクセイエフの話をきいていた。

フェスの特集上映ではネスカフェやエッソのCMが多く、作品は「 THE NOSE 」と「展覧会の絵 PICTURES FROM AN EXHIBITION」の二作だった。二作ともピンホールの作品で「鼻」は鼻をなくした男の悲喜劇。「展覧会の絵」は作者の描いたイメージの世界。なぜか「禿山」をやらなかった。そのかわりではないだろうが四十分にも及ぶ、ピンホール・アニメの制作を説明する映画「PIN・SCREEN」をやった。かねてから川本氏からそういうフィルムがあるといわれていたので、とても見たかったのだ。これはNFBの制作で、ピンホールの台をちょこちょこ動かす若い男の顔がすーっとでたら、二階からアレクセイエフが「あれがマクラレンです」と説明した。もうひとつ良くわからなかった、ピンホールの事がやっと理解という点に達した。ピンをいろいろな形に押したりする道具に大小のローラーがでてきたが、それにまじって出てきたのがソ連のこけしで、カナダの「マトリオスカ」という作品にも出てくるが、これを道

▼会場の前で話すラウル・セルベ



アレクセイエフの個展展で解説を聞くセルベ

▼ウィンドーもアニメ風に

「展覧会の絵」のパネルとクレア・パーカー

▼カフェの熱論

具にして正円やさまざまな曲線をだしているとは、意表をつかれた。大きな手のアレクセイエフが大小のこけしを持って、シコシコとピンをおしているのがすてきだった。マクラレンは、ピンホールはどうも苦手のようだった。

写真も多くとってくるつもりでいたが、いざいってみると、作品はしっていても作者の顔なんか知らないのだ。それにレンズを向けるとニコッとするか、にらむので、どっちでも気はずかしくて近くでとれなかった。それでもセルベとアレクセイエフを教えてもらって、とてもソンケイする二人なので無理に近よってとった。なんとアレクセイエフ大先生はニコッと笑って手をふり、小生に向かってはっきり日本語で「アリガト」と言ったのだ。しみじみ仏語で返答したかったなあと無学をはじたのだけど、コーフンしながら笑いかえしたのだ。少ししか筋肉動かないから解ってくれたかなあ。今度は必ず最低の仏語をおぼえていって「禿山」はすばらしいと一言いいたい。私は貴方をそんけいすると。妄想過多のファンの心理かなあ？

アカデミーのベスト・カートゥーンという賞を受けたものを集めて年代順に上映するプログラムもあった。これが楽しや、ブーさんやピンクサンサー(1964) THE PINK PHINK 7分、箱（1967）THE BOX 7分なんてやつが続けてやってくれるんだ。けれどこういうマンガ映画はとても不評でブーブーいうやつや出ていく奴がたくさんいる。アカデミーってのはこういう扱いをされるのかとおもしろかった。（そういえば入選内で「しあわせの王子」THE HAPPY PRINCE なんてのをカナダの Michael Mills って人が真正直に25分のマンガ映画化したんだけど、ブーブーいわれつづけたっけ、善行を施すシーンになると観客がわざと声をすすって泣くんだから始末が悪い。アヌシーではカートゥーンは風当りが強いようだ。でも作者の人はベランダで紙飛行機を投げつけられても胸をはっていたぞ。）

そんな中で心底ほれてしまった作品がひとつある。1972年のベスト・カートゥーン“A CHRISTMAS CAROL”ごぞんじクリスマスキャロルだ。9分のこの作品は、とてもアニメーターごのみだと思った。やたら、手のアップが画面にせまるし、精霊たちが、主人公に世のさまざまをみせに連れ歩くシーンがとてもファンタジックな作画でびっくりしてしまった。精霊が手をにぎると、さっ～と、めまぐるしいディフォルメとフォローパンがおこって、あっと思うと街の歩道に立っていたりする、書くとつまらないけれど、とてもすてきな作品なのだ。ぜったい輸入して友人達に見せなくてはと心に誓ったのだ。

とにかく、初めて行ったから、前回のと比べて世界の動向を感じることなんかできなくて、ウロキョロして来ただけだったけど、40万円で300本は良い買物でしょう。とにかく「今度また来よう！」と思ったのだから!!

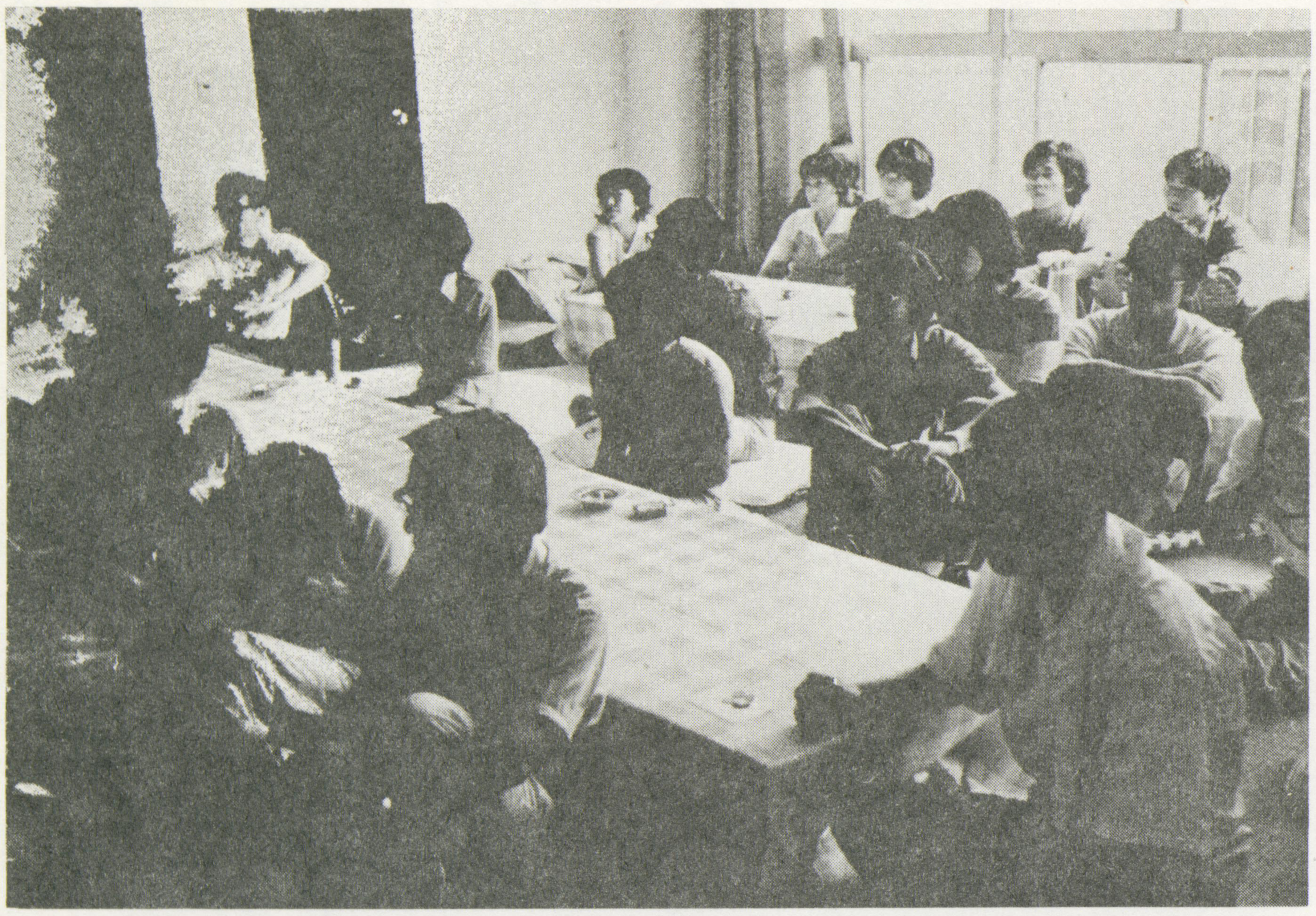
表紙の言葉

驚き盤の制作にあたっては、フェナキストスコープの実物を実際に作って、それに使用できるように作画し、カラーインクで着色しました。それをアニメ撮影台で撮影したものです。始めは目盛りをつけて、手でまわしてみたのですが、大変なので、きちんと中心を求めて撮影台をまわして撮りました。僕にとって５本目の自主作品です。

▼古川タク

PHENAKISTISCOPE「驚き盤」

35㎜カラー　3 分30秒　1975年度作品



⬆会場大広間に集まった全国のアニメファン達。アニメの話は少しも聞きもらさない。
⬇車道上で記念撮影。カメラマンがバスにひかれそうになり、疲れた顔もついニッコリ。

●アニメ全国総会開催●

各地のアニメサークルの参加で毎年行なわれる全国総会の第６回が、静岡しぁにむの主催で９月14日、15日の二日間開かれた。

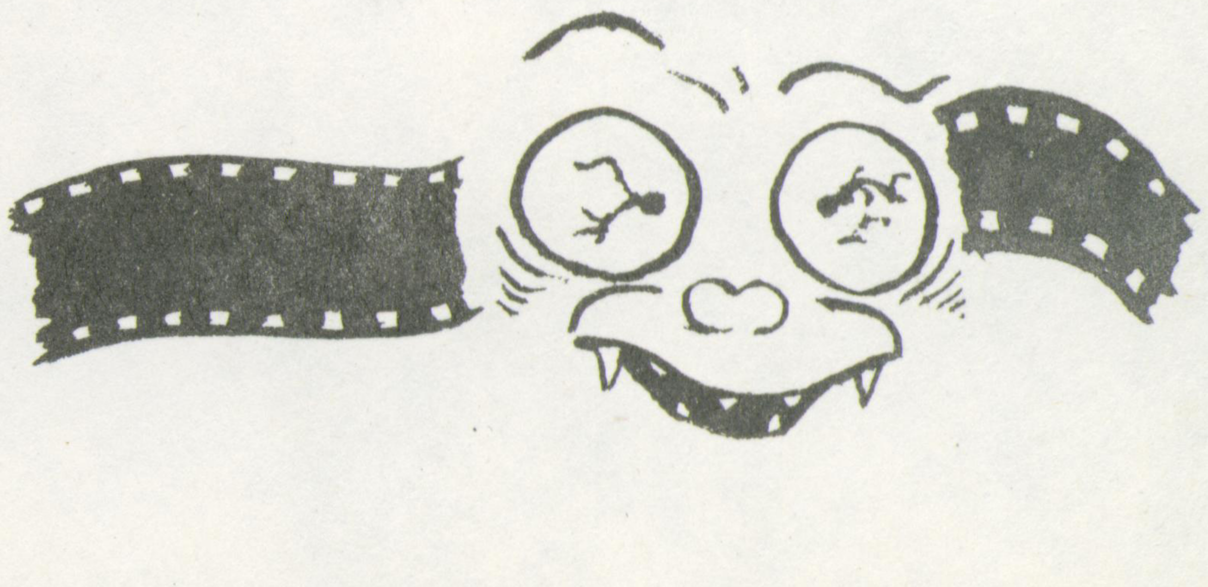
会場は久能山下の石橋旅館、その大広間に総勢78人のアニメバカが集まった。会費三千五百円（一泊三食付）＋旅費をはらって、よくも来るはと感心するのみだ。

既に第１会場にみえられた川本喜八郎・岡本忠成の両氏に月岡貞夫・小野耕世氏らもみえられ、あちこちで全国同好の士の交歓風景が展開され、さすが好きものぞろいとまた感心した。

いろいろなアニメーションの上映をはさんで、ＰＡＦの報告や各サークル１年間の活動報告、機関紙の交換などを行ない、非常に楽しい二日間の催しであった。

主な上映作品は「ザ・ビギニング」(恐竜・ガーティやファントーシュなどアニメ初期の作品を集めたもの)、ＵＰＡの「庭の一角獣」「ルーティ・トウート・トウート」、ＴＡＣ制作の「怪人二十面相」、川口はちす氏の「こえだめに落ちたこども（予告編)」、片山省三氏の「２×４」、下川氏の「新バビル二世」等で、他にベティありスーパーマンありポパイありトム＆ジェリーありの豪華な作品群だった。

消灯後、階下で各サークル・リーダー達のＰＡＦ・２へ向けての話し合いが行なわれたが、大広間では眠れない人のために「東海道四谷怪談」や「喜劇の主役たち」、また某国のポルノ・アニメなど得体の知れない８㎜が朝まで続いていた。



世界のアニメーション作家　ノーマン・マクラレンの世界　1

この邦訳はフィルムコレクターS氏が、マクラレンから贈呈されたフィルムを基にヒアリングで訳したものです。フィルムを観なくては解りにくい所もありますが、それを補う資料価値があると思います。（文責　編集部）

M…マクラレン
N…ナレーター
I…インタビュアー
F…フレンド

M　私がグラスゴーの美術学校へ通っていた19才の頃、私は自分の描くものに何かが欠けていると、不満をいだいていました。そして、それが動きであるということが、エイゼンシュタインという人のサイレント映画をみた時にわかったのです。私はその映画に大変感動し、映画とはこういうものだということがハッキリわかったのです。

N　この人は、これまで誰もしたことがない事をしています。彼はピアノの上に映画を描いているのです。音だけでなく絵も入れます。彼のうしろにある機械で彼がかきあげた音色を写し、音を聞き、かつ見ることができるようにするわけです。「真夏の夜の夢」のボトムが言うように、人間の目は自分の夢を聞くことができないし、耳が見ることもできません。ですから、このすばらしい夢を描く映画を、〝目は音を聞き、耳は物を見る〟と呼びましょう。
制作中のこれは目でみる音、耳で聞く絵なのです。これはマクラレンが55年の生涯で手がけた50番目くらいのアニメ映画です。

モントリオールの高層ビルが、セント・ローレンス川のほとりからそびえたつ向いにウェスト山とロイヤル山があります。そのウェスト山の中腹に、マクラレンは住んでいます。毎朝彼は山のふもとの小さな仕事場へ出かけます。マクラレンは、一般の人にはほとんど知られていませんが、映画では彼の名は伝説的であります。彼はおとなしくて、ひかえめな人ですがその常に新鮮で独創的な映画精神は、30年以上も認められてきました。

英国の映画制作者であるジョン・グリアスンは「純粋な映画というものがあるなら、マクラレンが最も偉大な探究家であることを忘れてはならないだろう」と言っています。グリアスンは、1934年にグラスゴーで彼を見い出し、そしてついに1941年、彼をカナダに引っぱってきたのです。

M　戦争の少し前、私はアメリカへ移住しました。何かこう変化が無性に欲しくてニューヨークに行きました。そこで2年間映画を作ってました。戦時中になってグリアスンが、カナダ国立映画制作庁—「N·F·B」で仕事をするためにカナダにやってきて、ある日、私はオタワからの彼の電話を受けたのです。N·F·Bで映画を作らないかというのです。私の好きな事を何でも自由にして良いと話しました。彼はN·F·B全体の総合的なプランを持っていて、その機能プログラムに少し絵や幻想的なものがほしいというのです。そういう意味で彼は私が適任だと思ったのでしょう。ですから、自分のしたい事をしにこいよと言ってくれたのです。

N　N·F·Bの主な目的は、カナダ人にカナダを見せるためのものでした。作品は単に情緒豊かで国の様々なことがら自然の驚異や産業のすばらしさを見せる作品であれば良ったのです。

N　この陽気で若々しい仕事場にマクラレンは、楽しいアニメ仲間とともにやってきました。

N　彼がそうして始めた仕事の中に、戦時中に絵を描くことへのいいわけのような作品があります。それは「ヘン・ポップ」です。

N　「ヘン・ポップ」は、マクラレンのオリジナリティをハッキリと表わしたものです。今まで作られたアニメ映画は、大きなセルに1枚1枚変化を描き、それらを1枚1枚写して行きました。そういう手間とカメラをはぶいて、マクラレンは小さなフィルム上に直接ニワトリを描き込んだのです。

M　ところでどうやって同じ場所に次から次へと絵をもってこられるのかということを、時々聞かれます。要するにフィルムの入った木製テーブルの機械がありまして、後方から明りを送ると……。どうです(？)御覧下さい。

N　マクラレンは最近あまりフィルム上に絵は描きませんが、彼の好奇心旺盛な小鳥はなお生きつづけています。

M　このフィルムの下には、フレームのます目があって次の絵がどこへいけば良いかという目印の役割を果たすものです。

N　マクラレンは最近健康がおもわしくありませんが、働き者の彼は仕事をやめません。ほんの数分間のフィルムでさえ制作に1年もかかることがあります。

M　私はまず1フレームあるいはフレームの1部をかこうと思います。それから画像全体ではなく最も重要な動画部分を先にかきます。フレームからフレームへと常に変化していくものをやっていこうと思うのです。

N　常に変化するということ——まず静物が動きだし、そして魔法の生命によって全く別のものに変る——このことが30年以上もマクラレンの制作意欲を支えてきたのです。一言で言えば、メタモルフォーゼということです。

M　カナダに来たはじめの10年間は、メタモルフォーゼに無中でした。エミール・コールの「ファントーシュ」のような、ある形から別の意味合いのものへの見事なメタモルフォーゼにみせられたのです。一般にアニメとして知られるものの多くは形の決まったキャラクターが使われ、変形はされません。

M　私がいた美術学校に旧式の35㎜映写機があったので、ある日私は〝石けんは風呂桶の中〟という昔のコマーシャルを2週間ほど借りました。ですから2週間は誰もお風呂に入れなかったのです。（笑）

こころみにエマルジョンを洗いながして、ペンと筆とでその上へ絵を描き映写しました。その結果、おどり出すような色と形が得られ随分と気持ちがおどったものです。

N　このようにして作った「フィドル・デ・ディー」は彼の最高傑作の1つにすぎません。彼の作品は音楽の心を伝えるものなのです。

I　レン・ライはこの原理を最初に用いた人であるから、あなたが彼の真似をしたという人もいますが、そうだとは全然思えませんね。

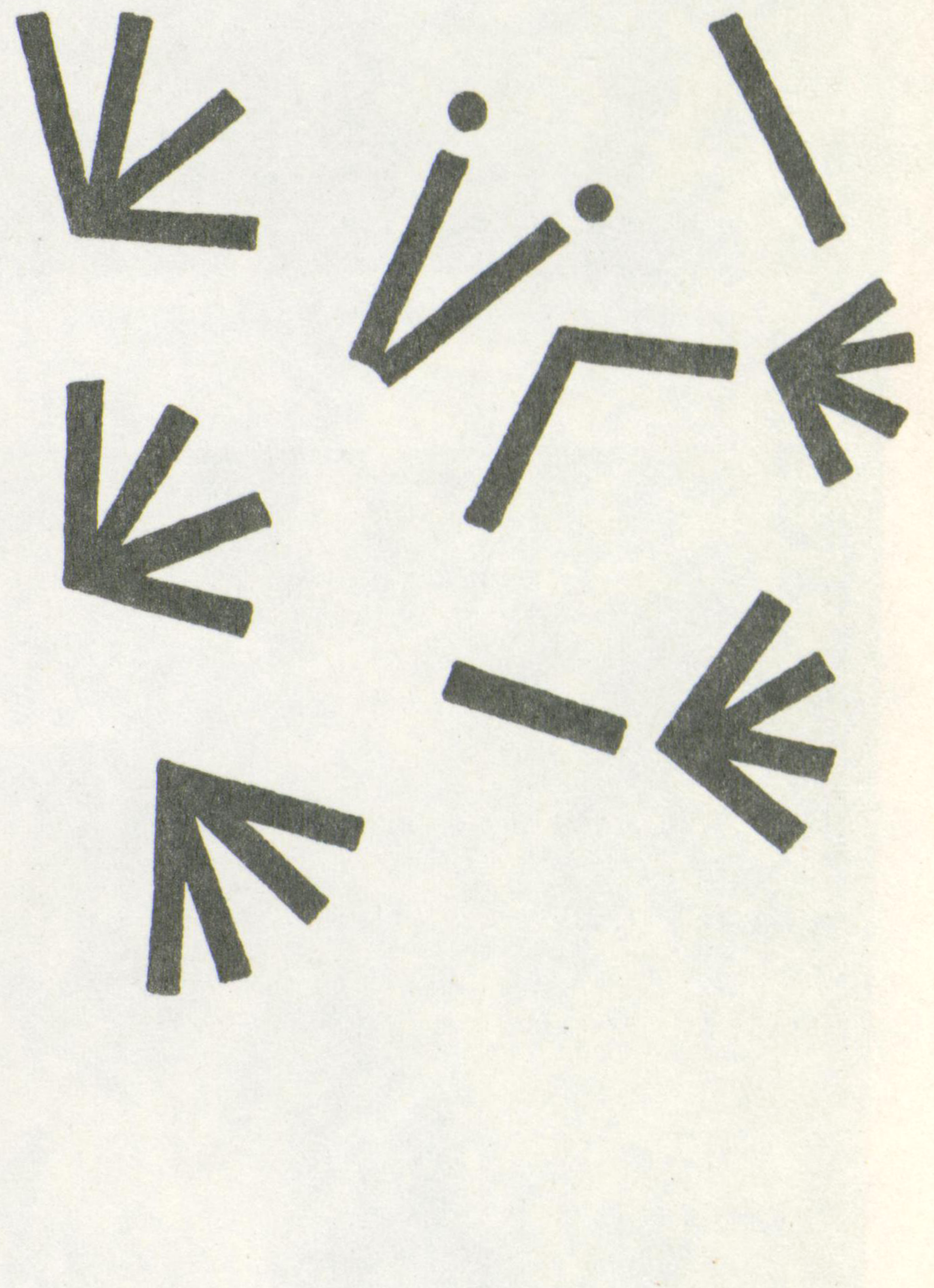
M　レン・ライは〝カラー・ボックス〟というきれいな映画を作った人で、私は自分のフィルムを完成させた1年後にこれを見ました。だいたい1937年頃だったと思いますが、見た時は非常に感激しました。

I　つまりあなたと同じような事をしている人が他にもいたということですか？。

M　ええ、そして彼は見事にそれをこなしたという点で………。それにひきかえ私のは大変未熟で、はじめの方のヤツは全く良くありませんでした。ですから彼の方がはるかに秀れていると思い知らされました。

N　マクラレンは自分の作品に対しては謙遜しますが、レン・ライの作品と比べても「フィドル・デ・ディー」等は、楽しくやさしくけっして劣らないといえましょう。

M　ペン描きフィルムではメタモルフォーゼが、かなりうまく出来ました。変形以外に動きという要素が重要ですが、突きたおしたりはねまわったりするアクション本位の映画よりも、私はやはりメタモルフォーゼに重点をおいた映画が作れそうだということに熱心でした。



▲つぐみ

「目で聞き、耳で見る」 邦訳

1937年頃、N·F·Bはフレンチ・カナディアンソング・シリーズという計画を立て、私がそのうちの何本かを手がけてほしいと言われました。大変スローテンポの曲などがありましたが、ゆっくりとしたアニメを作ることはえらく困難なのです。1つの動きに対し、何千枚もの絵が必要なのですから。

そこで私は、普通の手法では手間がかかり過ぎると思いミックスやディヴルブを連続して使うことを思いたちました。1つの溶暗が終ると、すぐまた別の溶暗が始まるという具合のものです。壁面にカメラを向けてカードを壁にはりつけ、パステルで絵を描きます。それをフェード・アウト。絵を変化させフェード・イン、フェード・アウトを繰り返し、そのたびに絵を変化させていくと、フィルム全体がフェード・イン、アウトの連続になって全体が大変ゆっくりとした動きとなり、ゆっくりと形を変えてゆくのです。

N　彼がお気に入りのめんどりが現われて………再び卵の中にもどっていきます。

I　あなたの映画はたいてい自分で問題提起し、それを解いてみようというような技術的な事に挑むことから始まるということを、何かで読んだことがありますが………。

M　はい、全くその通りです。技術的な事をしてみようとするのは、私にとって大変有意義で重要な事です。それが私を引っぱってくれるものです。まず技術的な事を研究し、後で主題を捜さなければならない事が良くありますよ。はじめのペン描きフィルムはコマからコマへ絵を記録することができて作り方も、一応なれました。すると今度は黒いフィルムで、そういう映画を作ることを思いたちましたが、絵を記録させることができませんでした。そこでこころみに絵を1つ描き黒コマのまま10コマとばしてまた1つの絵を描き、また10コマおいて……と、こうして上映しました。その結果、黒コマを10コマおいても絵の関連性が現われて前と後の絵がつながり、形をかえてゆくのです。私は2コマ、3コマ、4コマでもやって見ました。例えば4コマでは、スクリーンに写し出されると急に画像が〝パッ〟と出てくるのです。それによって見る方は、全体の印象もしくは潜在意識下の印象をもつことになりました。

N　鳥カゴから小鳥が逃げていきます。カゴと小鳥は形を変え、追いかけあい、出合っては威かくし挑みかかります。ふざけっこともケンカともとれます。

N　けれどついには小鳥とケンカ相手は友だちになってしまいます。

I　あなたの制作する映画のほとんどは、セルロイドや筆でつくるアニメ映画ですね。人間をあまり用いませんが、中にはスコットランドの時の作品の様に、俳優を使ったものもありますね。これは大変めずらしいことに見えます。人間にアニメ・テクニックを用いることの方が難かしいのですか？

M　ええ、まあ別の方法で作るよりは確かに難かしかったですよ。けれどまた一方では、それは根本的に同じことでした。言ってみれば1枚写しのカメラをたくさん写すことですから、カメラの前の対象物が何であれ同じことです。例えばあそこにあるイスを、こちらへこさせることが出来ます。またその逆も出来ます。我々アニメーターはこういうテクニックを良く使います。2人の仲間をとなり合わせに、座らせて映画をスタートさせるのです。

N　「隣人」は1番人気のあるもので、マクラレンの仲間は喜びのあまり跳びあがります。人間をアニメ化するテクニックが、この様な規模で使われるのは珍らしいことです。

N　飛びつづける物を撮る時は、地上に落ちた影と高さの関係が大切ですネ。

M　彼が跳び上った所で私はシャッターを押します。いいですか？

I　ええ、ではこの連続で1場面全体を続けて撮らねばなりませんね。陽の高さが違ってきますからね。〔カチャ…カチャ…〕

N　これはもちろん後で、1秒に24コマの割で映写されます。

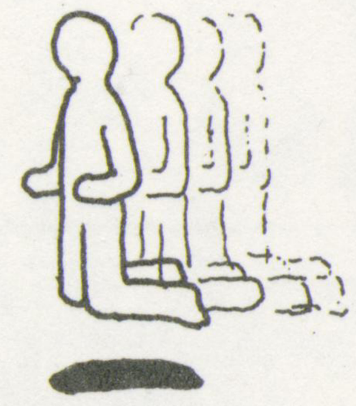
I　どれくらい延びましたか？

F　（ハァ、ハァ、ハァ、）だいたい300回ぐらいでしょうか。そこまで飛んだ時、仲間が心臓病をうったえまして、その後1週間は撮影を中止しなければなりませんでした。

I　なるほど、こうして露出して映写すると、いともたやすく空を飛んでいる様に見えるのですね。

M　アニメの心というか本質は、動きの大きさを変えることで上手なアニメーターは、言葉では言えなくてもわかっているものです。

この私をこうしてアニメ化するとなると………〔クリックリッ………〕



I　それは一体何ですか？

M　自分に少し動きというものを入れようと試みているのです。こうしていては全く生気のないもののように見えますが、映写すればなめらかな――それが速い動きが得られるのです。パンチの特長は、この様に非常にゆっくりと速度を増していくことです。〔クリックリッ〕

マクラレンの作品目録

1934　Seven Till Five（16㎜のドキュメンタリ映画）
1935　Camera Makes Woopee（16㎜）
〃　Colour Cocktail（16㎜のアブストラクト映画）
1936　Hell Unlimited（16㎜のドキュメンタリ映画）
1937　Book Bargain（ドキュメンタリ映画）
〃　News for Navy（短篇ドキュメンタリ映画）
〃　Money a Pickle（短篇）
〃　Love in the Wing（短篇）
1939　The Obedient Flame（短篇ドキュメンタリ映画）
〃　Allegro（2分間のアニメーション映画）
〃　Scherzo　〃
〃　Dots　〃
〃　Loops　〃
〃　Stars and Stripes　〃
〃　Rumba　〃
1940　Boogie Dooble　〃
〃　Spook Sport　〃
1941　Mail Early（色彩アニメーション映画）
〃　V for Victory　〃
1942　Five for Four　〃
〃　Hen Hop
1943　Dollar Dance
1944　Alouette
1945　C'est l'aviron
〃　Keep Your Mouth Shut
1946　La-haut sur la Montagne
〃　A Little Phantasy on a 19th Century Painting（ドイツの画家アルトルト・ベックリンの絵画《死の鳥》からヒントをえて作られた作品）
〃　Hoppity Pop
1947　Feddle de Dee
〃　La Poulette grise
1949　Begone Dull Care
〃　Workshop Experiment in Animated Sound
1950　Pen Point Percussion
〃　Chalk River Ballet
1951　Aroukd is Around und
〃　Now is the time　Time
1952　A Phantasy（色彩短篇）
〃　Neighbours
〃　Two Bagatelles
1954　綿と色の即興詩 Blinkity Blank
〃　Night Encounter
1956　算数あそび Rythmetic
1957　いたずら椅子 A Chairy Tale
〃　キャノン Canon
1958　小鳥のファンタジー Le Merle
1959　Serenal
〃　Short and Suite
1960　Vertical Lines
〃　Horizontal Lines
1961　Opening Speech : MeLaren
1965　Mosaic
1967　Pas de deux
1969　Spheres

I　なるほど、すると動きは終りに近ずくにつれて大きくなっていくのですか？

M　スクリーンで見るとなるほどと思いますよ。

I　ある１つの動きを表わす時に、どう動けば良いのかということはどうやって知るのですか？

F　まずそれは秒数とコマ数の計算からはじめます。

I　御自分で………？

F　ええ。

I　計算するとおっしゃいましたが、この時間なら何コマかという事を考えればいいのですね。

M　我々はすぐ秒単位で勘定します。この動きには10コマ、またこれは約25コマ……と、良くわかっているのです。

N　マクラレン自身が描いたサウンド・トラックを使った「隣人」。その暴力を通して描いた平和主義のテーマは革新的でありました。

M　私が「隣人」を作ったことは、1949年から50年にかけて中国で、１年過ごしたという事実のおかげだと思います。

N　マクラレンは、中国の村民援助というプロジェクト・チームに加わっていました。

I　そこで何をなさっていたのですか

M　ユネスコからそこに送られて、中国の芸術家たちに安くて簡単な視覚教育を教えました。

ユネスコからそこに送られて、中国の芸術家たちに安くて簡単な視覚教育を教えました。ポスター作りやシルクスクリーンやフィルム作りなどです。彼らに35㎜フィルムにペンとインクでじかに描き込み、色ずけすることを教えました。普通の映画では〝結核〟とか足から入り込む十二指腸虫の予防法とか蚕の飼育法、オレンジの保存法などという話題をとりあげて村民に見せました。

I　効果はありましたか？

M　ええ、晩に上映した時には、スクリーンのまわりに200人から300人ぐらいの人々が、集まりました。次の週もそのぐらいの人々が見に来てくれました。

I　満足のいくものだったのですね。

M　ええ。

I　あなた御自身には、中国の芸術家たちから影響を受けたものはあるとお思いですか？

M　まあ、私としては教えるということは初めてのことでしたが、教師という仕事をして色々なものを学びました。私が学んだ１番大切な事は、ああしろこうしろという事を言うのではなく、生徒の中にあるものを引き出してやって、自分たちでそれを考えさせることです。

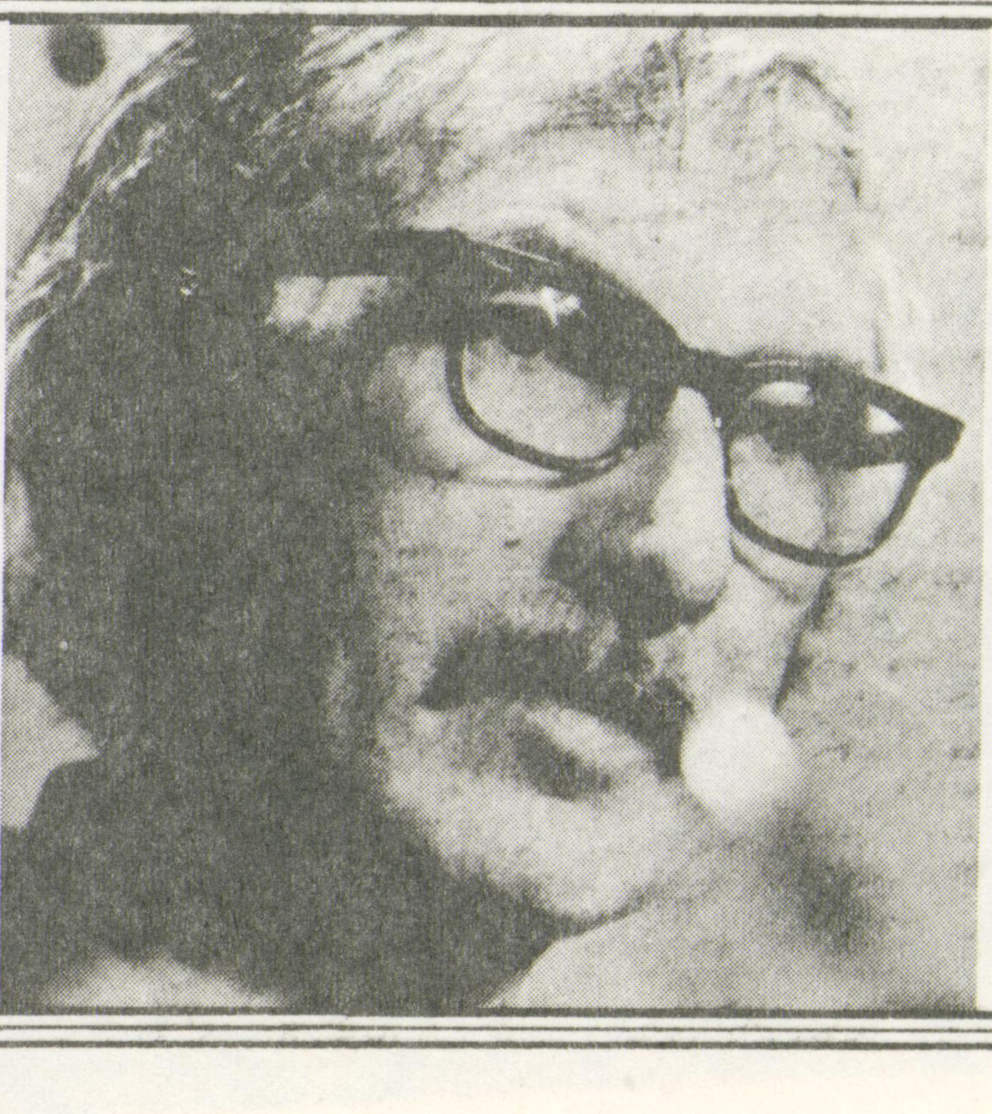
I　ところで「隣人」のテーマにもどりますが、ユネスコの仕事をして帰国された時は御自分が何だか変った様に感じたとおっしゃいましたが、教える事を学び芸術家たちから何かを得て、人間の問題にも随分と御熱になられたんですね。

M　ええ、人間の問題にはいつも興味を持ってきましたが、特に最近の10代や20代前半の子供たちに興味があったんです。ですからアマチュアとして反戦映画を作りました。それから抽象映画に入って、だんだんと人間の問題から離れていってしまいました。私が中国に行って二ヶ月後、共産党が政権を引きつぎ、どうなるのかと見守っていると、いろいろ良い事があり、新しい社会制度がえらく気に入りました。ちょうど朝鮮戦争が始まった頃、私はカナダへ帰って来ましたが、自分が何だか１つの文化と別の文化の間に立たされて、あちら側へ、こちら側へと引っぱりっこされているような気がしました。

そういった中で「隣人」を制作した事で、ある一種の緊張感が私の中にできました。

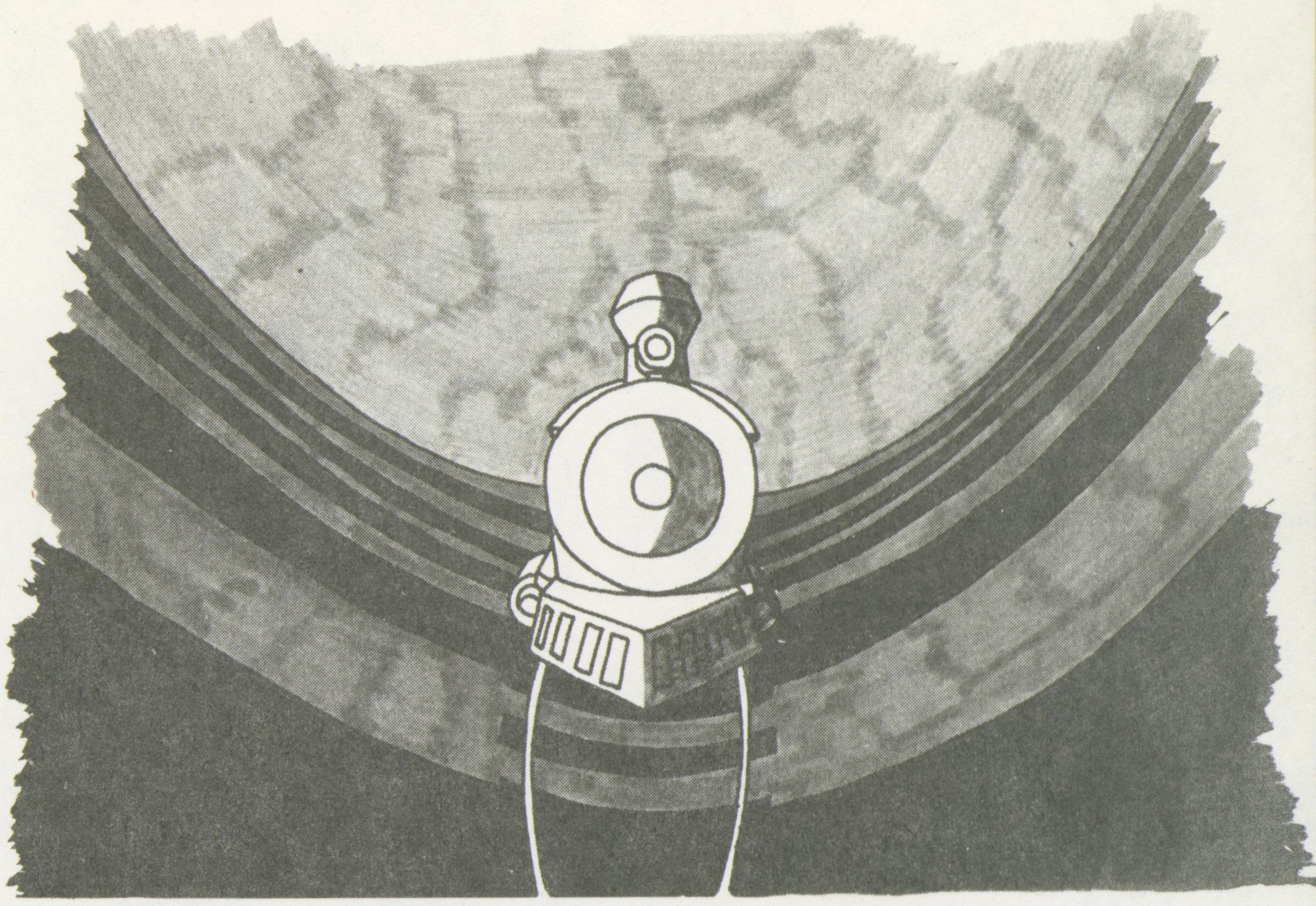
（次号へつづく）

MCLAREN-2



Fantoche

甲谷　勝・作「フィルムNo.6」1975▶



プライベート・アニメ・フェスティバル報告

各地の入場者数

東　京・6月13日 主催　アニドウ	400人
静　岡・6月14日 主催　しあにむ	30人
名古屋・6月15日 主催　TAC	60人
大　阪・6月16日 主催　ふうせん／AFG	250人
函　館・7月5日 主催　アニドウ	100人
沖　縄・7月20日 主催　アニドウ	15人

全国7ヶ所で行なわれたPAF〔パフ〕は、全国入場無料という大サービスで各地区主催者には大赤字と創作に燃えるごくわずかな若者を残して終った。作品一本一本に作者の膨大な年月・費用・エネルギーがついやされているだけあって、全32本のプログラムは圧巻であったが、これは主催者側のひいき目で必ずしも一般観客にはそれほど感動的なものでもないらしく、おもしろい絵が動く的な感想のオバチャンなどが多くいた。

NHK・TV／読売・朝日・毎日・報知新聞／NET・TVなど多くのマスコミにのって、400人と入りすぎて青ざめた東京から、16㎜の音がでなかった静岡、飛び入りで怪人二十面相の予告編が上映された名古屋、しゃれたパルコのスタジオを満員にした大阪、海洋博と一騎打ちの結果15人という最底記録の沖縄までこの上映会で起きた悲喜こもごもは長く各サークルの語り草となるだろう。（東京6/13〜6/17大阪の1日きざみの電撃運送もめちゃくちゃだなあ。）

ともあれ、こうした我々単なるアニメサークルが協力しあって、こうした大行事を実行し、まずまず成功裡に終った事は自主アニメを制作する人々に対して、明記しておきたい。観客の大部分が来年を期待していることを信じて制作してほしい。

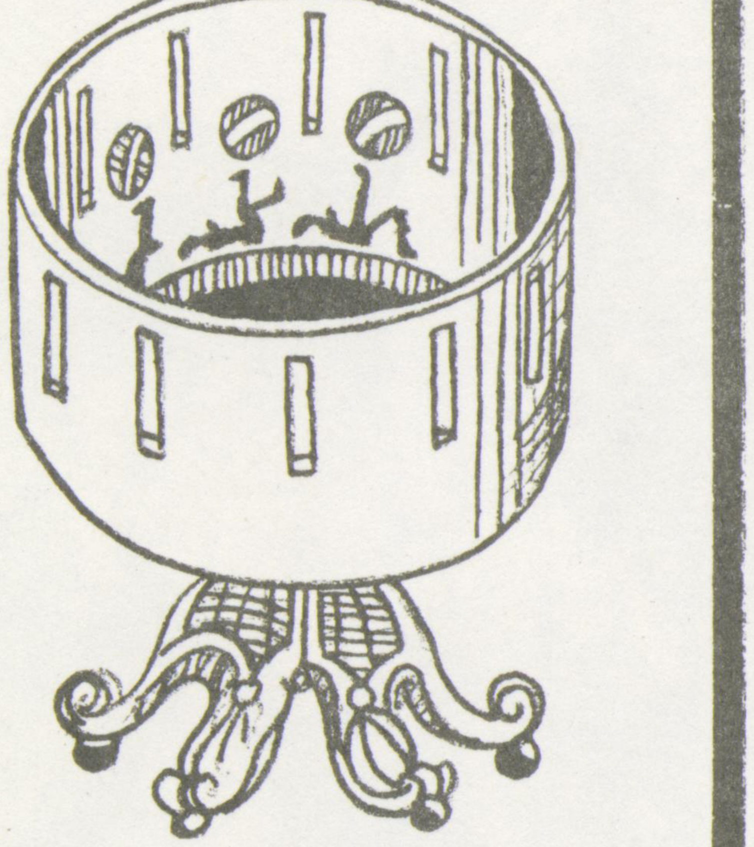
大阪会場のパルコなどはあまりの大入に喜び、来年は土、日をあけるから二日連続でなどといっているそうだ。

輝くアニメの星となるためにぐわんばろー！

★なおこの上映会に参加したフィルムは各個人の所有であって、借用その他は本人に問いあわせて下さい。

第2回プライベート・アニメ・フェスティバル
51年5月全国で ………………

☆PAF・2　開催決定☆



50年6月、開かれた北海道から沖縄まで全国縦断上映会PAFが、来年また催される。

新聞・TVなどにも大きく取りあげられたこのPAFは、全国のアニメサークルが催す日本最大の自主アニメ発表会だ。現在着々と創られている8㎜あり、16㎜ありの新作が発表され、我々を楽しませてくれるはずである。アニメ・サークルに入っていないグループ、個人でも参加できる。アニメ界に一活を入れる催しとして君も、自主作品で参加しよう。

詳しくは1月決定。本誌にて発表

PAF・1参加作品

8㎜作品　「結婚しようよ」井上啓史「フランケンシュタイン」伴野孝司「自業自得」川口蓮「怪物リンゴのお話」川口蓮「アリス」木村浩「コプト聖歌」石之博和「大陽と小さな親切」神田吉男・加藤高範「じんちょうげ」藤丸知子「イメージ」本田明子「3×3」三林一「もじゃもじゃ」ペロペロキャンディー「グロテスク」神田吉男・加藤高範「コークマン」ペロペロキャンディー「つる姫じゃー」あんばらや「駆宙大王子予告編」あんばらや「コーヒーフラワー」田村稔「THE禅」田村稔「雨ン中」八木大

16㎜作品　「まあめいど」高野宏「フィルムNo.6」甲谷勝「光と死」すぎのめはちお「クレムリンにウォッカを」八木大「あらよっと」松田ぐるーぷ「妄動」相原信洋「ファミリー」ハン・太郎「蛮剣100万年予告編」おやこどんぶり「ジャンバラヤ」北大アニメ研究会

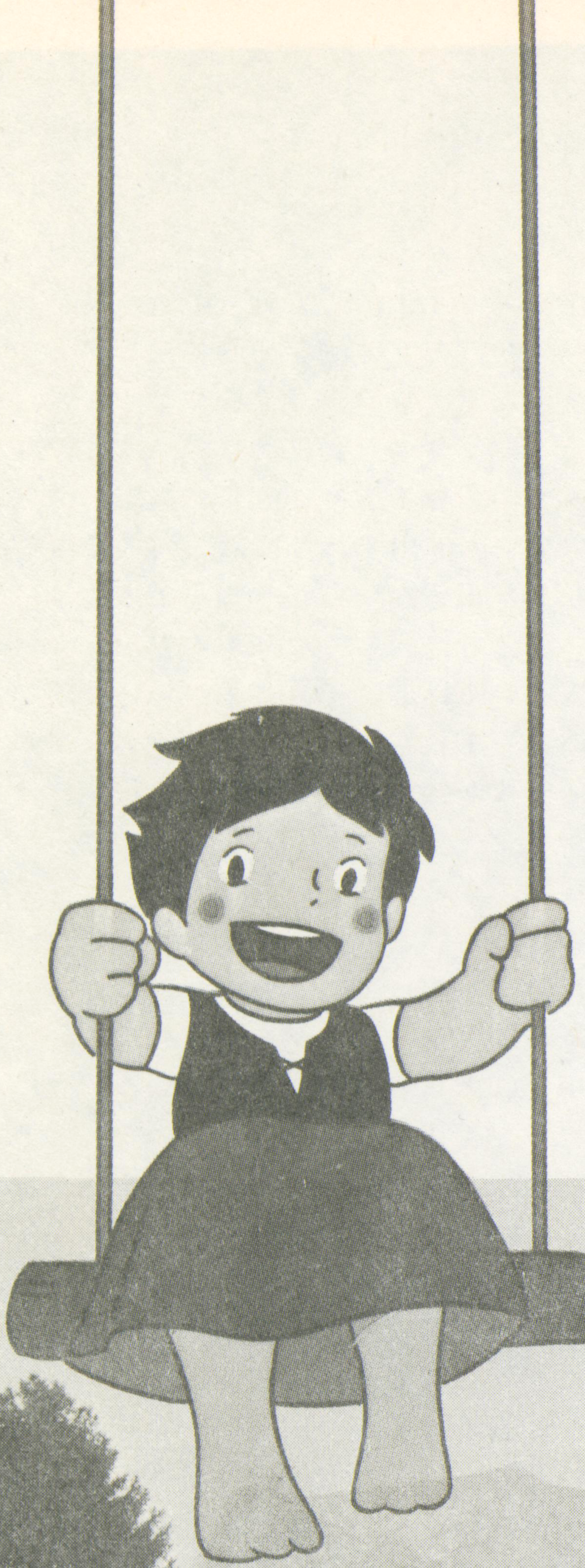
★

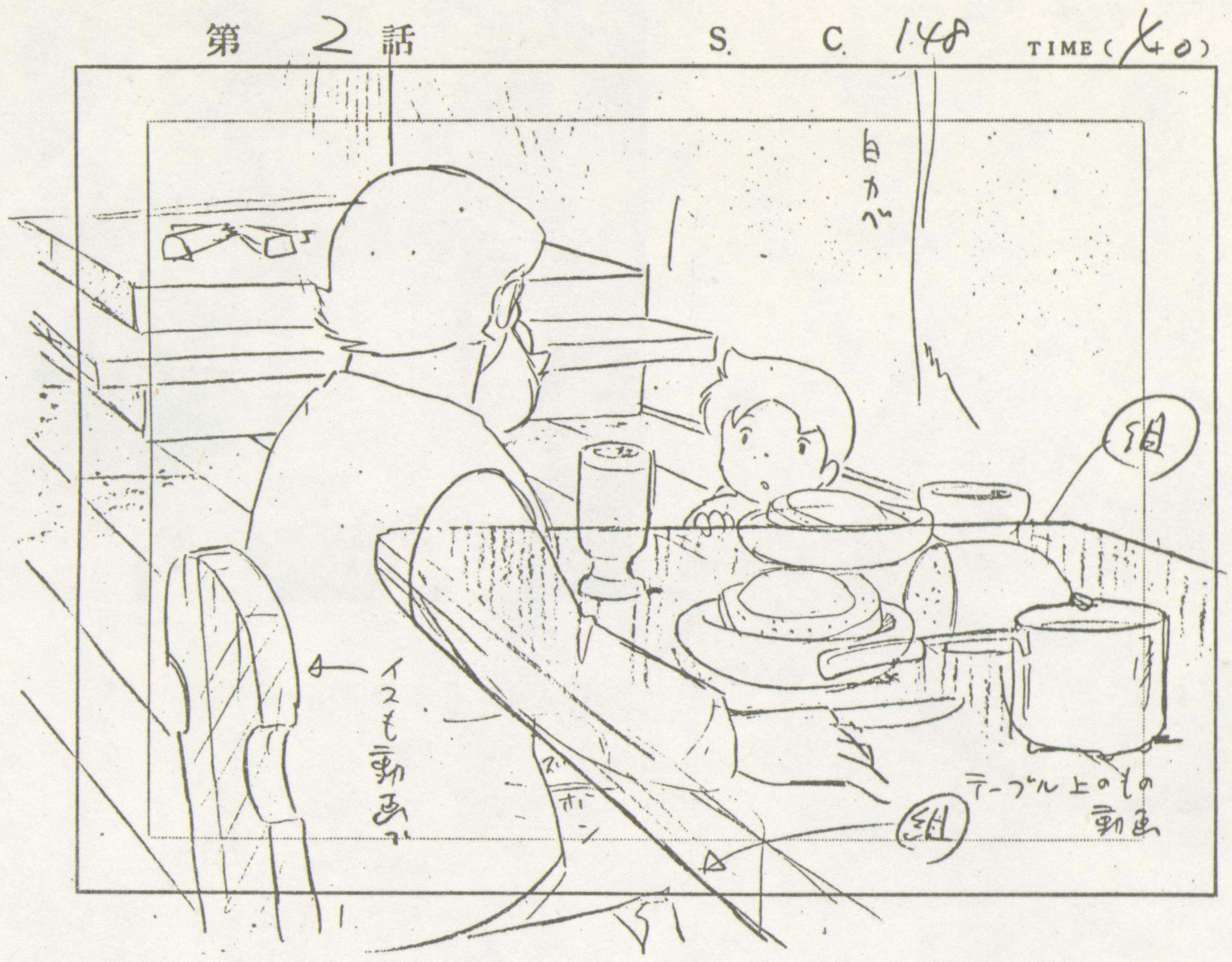
アルプスの少女ハイジは昭和49年1月から1年間放映された4クール、年52本制作された。日曜7時半から名作マンガ劇場の第1作ムーミンが良心的な作品という評価だけにとどまったにもかかわらず良心的かつ30%にせまる視聴率をあげてTVアニメ関係者をおどろかせた。その影響は新聞各紙がこの番組を、それも従

このシリーズはTVアニメを少し考えて行きたいというものです。できれば良い所に注目していきたい。

演出 作画監督 場面設定の主要スタッフ3人は東映「ホルス」、東京ムービー「パンダコパンダ」と同じだ(むろん何百人の人たちが制作に参加しているのだが)作品の系譜をたどるとちょ〜っと深い。

来の表面的な見方ではなく良心的な作品とその裏の制作者側の状況ということを対比させた形でとりあげ、TVアニメーションを文化的な目でとらえはじめたことにも表われている。マスコミなどの一般的な評価で"良いもの"が"子供たちみんながみている"とまでよばれた作品はTVアニメで初めてであろう。制作者側にもこれほど受けいれられている実感が視聴率、新聞等の反響で身にしみた作品はなかった





◀レイアウト

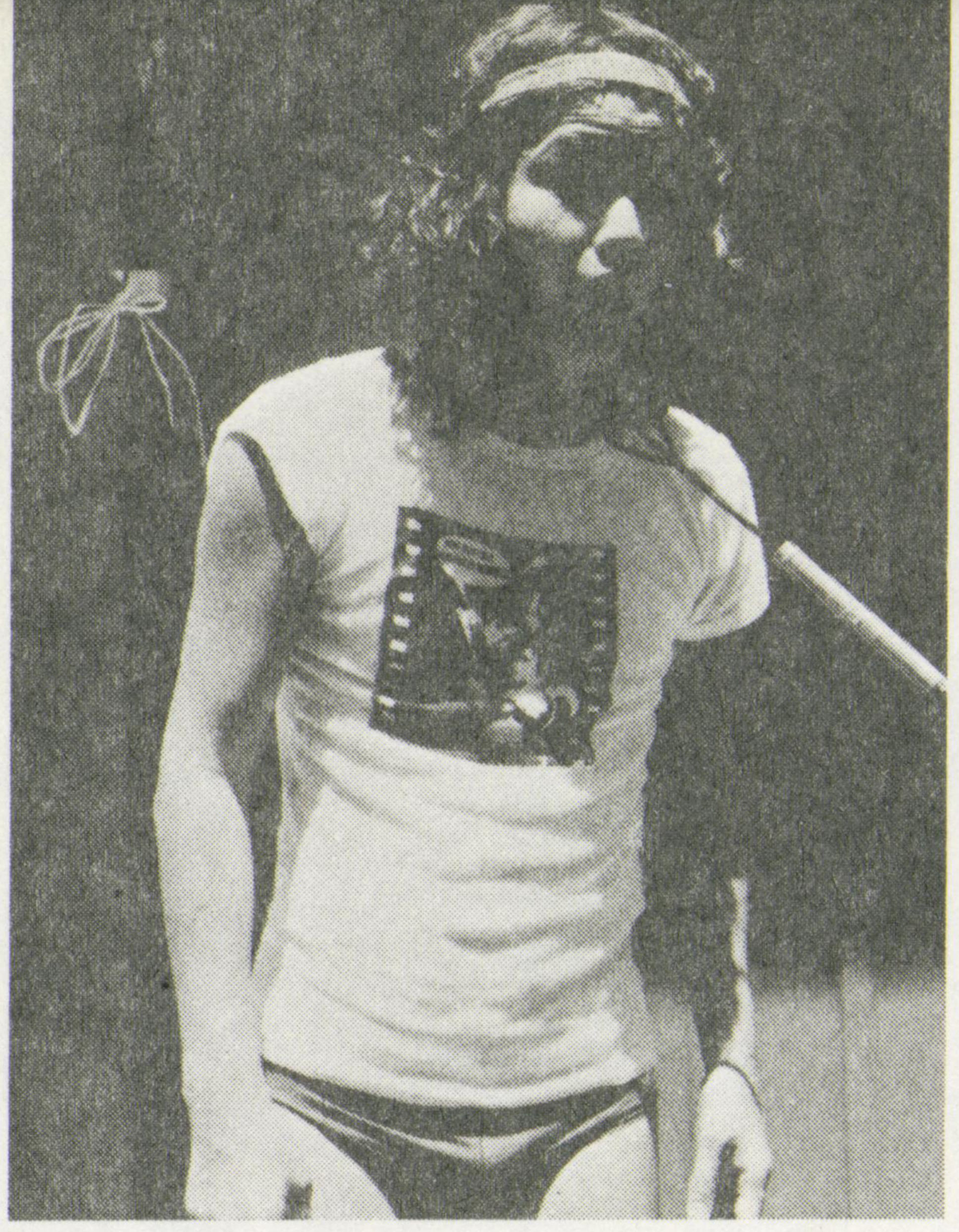
レイアウト(画面設定)を1人の人間が(宮崎はやお)真正面にすえた初めてのTV作品だ。1カット1カット、レイアウトを決めてゆく全体の場の把握がしっかりでき、作品を通しての雰囲気を統一できる。しかし1本あたり、300カット×52本ものカットをたった1人でやるとは考えるだけでも、きついなあ。

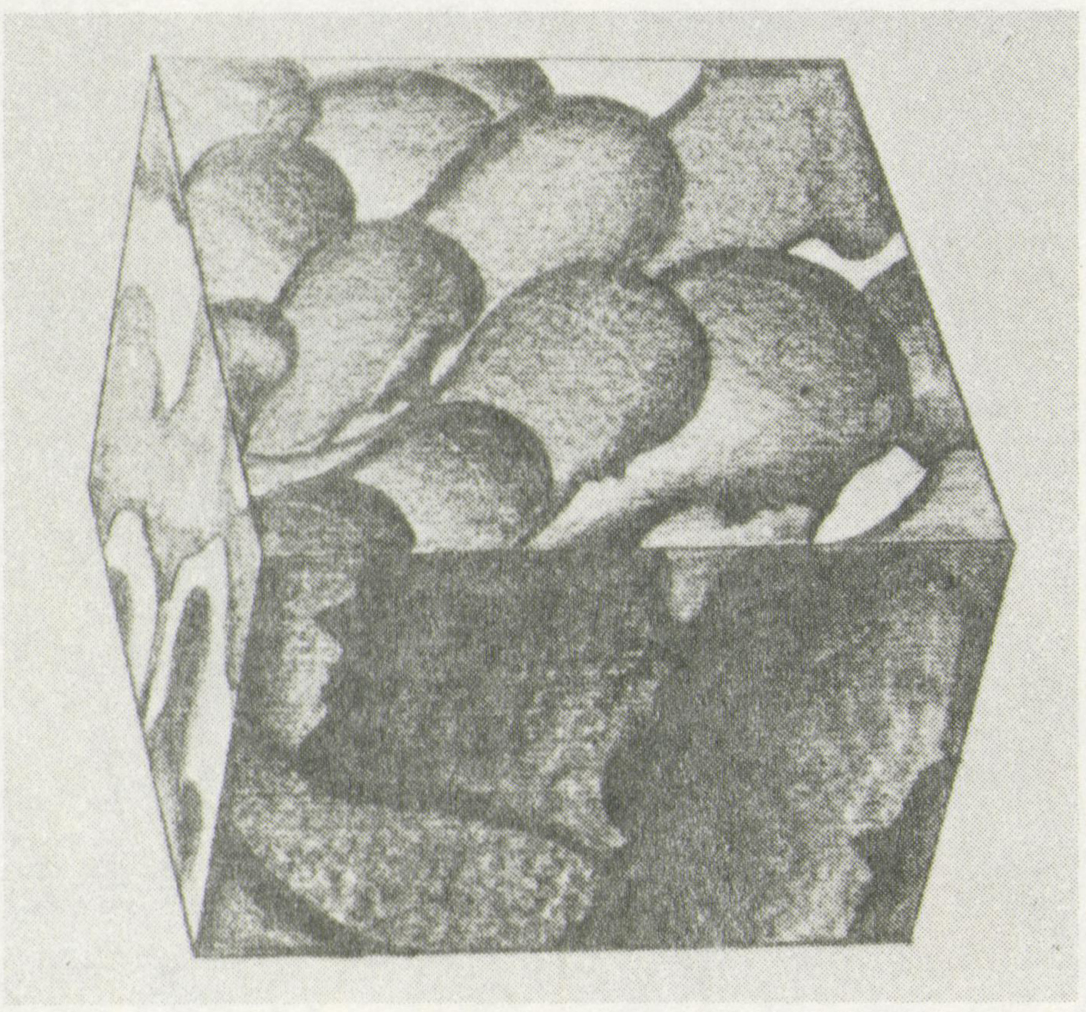
▲制作を前にしてスイスへ飛んだ演出、作監、場面設定、美術のメインスタッフ。

名作ということではなく主要スタッフの作品にかける意気込みを感じられた事でTVアニメ界の良心と言いたい。

●自主作品解明（１）

「妄動」相原信洋





▲妄動

「妄動」について

この作品は連続２週間で描き続けた短編でして、自身の妄想的イメージの連続アニメ化です。従来ですと、何かとカット・シーンとプロセスに気はくばりましたけど、これは逆でして最初のイメージを連続して広げながらの描き込み形式です。むりに想定して連続イメージ化したのではなく、私の場合は不思議と連続してイメージが流れ込みわりと軽い形で出来た様に思います。もし最初に各カット・シーンを摘出していたなら、別の世界になっていたか、ひょっとすると出来なかったかもしれません。この作品は約３分・百フィートの長さなのですが、私が撮影もしたのですが全編１ヶ所もリテーク・編集なしと撮ったフィルムが全部そのまま使えたことは私にとって何か大きな手ごたえがあった様に思えるし、次の制作基盤上にも私にとっては貴重な作品の様にも思っています。

▼はげ山の一夜

自主作品の制作について　相原信洋

（荻窪「ロア」にて　文責・甲谷）

新作はスゴイよ！「妄動」で気を良くした訳じゃ無いけど立体的なやつで、ＳＦとか古代貴跡とかファンタジックなやつが好きだから、そういうやつだね。

今までの自分１人で作画して撮影してっていう限界をぬけ出すね今度は。何人ぐらい手伝わなきゃ出来ないってやつを１人でやってみたい。会社に入ってたりすると出来ないと言う人もいるけど、そうじゃないって所を見せたいね。１枚描くのに１時間ぐらいかかっても何千枚か描いて、一定期間に一気に仕上げる。

フルアニメの方がいいね。リミテッドで作ったのもあるけど、僕はこういうのを作ろうという時でも止っては思い浮かばないものね

作る時はクライマックスシーンが思い浮かんで来て、そこから発展させていく。今度のやつもそうで、それから描き始めた。でも考えついたのを最初に絵にするのはなかなか思う様にいかない。たとえば紙は平べったく感じるし、鉛筆も鉛筆らしくなっちゃって。でも１枚描くと後は楽で、そのうち流れに乗ってどんどん描けるようになる。

僕が作る時はセルロイドにトレスしてとかそういう考えはもたないね。日本の場合はセルにしがみついている感じがする。それもまあ、ある程度はいいんだろうけどね。頭の中で浮かぶ時はそんなセルに描くようにぴかぴかして無いもの。グレーだって絵の具の中にある10段ぐらいで塗ってもねえ。頭の中ではもっとファーっとした感じがするでしょ。やっぱりビニールはビニール塗料でしか無いよね。鉛筆とか墨の方がぴったりしている。

僕はアンダーグランドセンターでやって来たけど、地上とか地下じゃなくて自由に上映できる場所がほしい。そういうのが出来ると僕以外にもこれからやる人でもやりやすいしね。今、実写なんかと比べると付録みたいなとこあるでしょ、ほんとにアニメ好きな人は別だけど。

経営的に人を呼ぶとか、そういう意図をぬきにして、共同経営みたいな形で定期的にやる所がほしいよね。そうすればアングラとか意識しないで作れるでしょ。

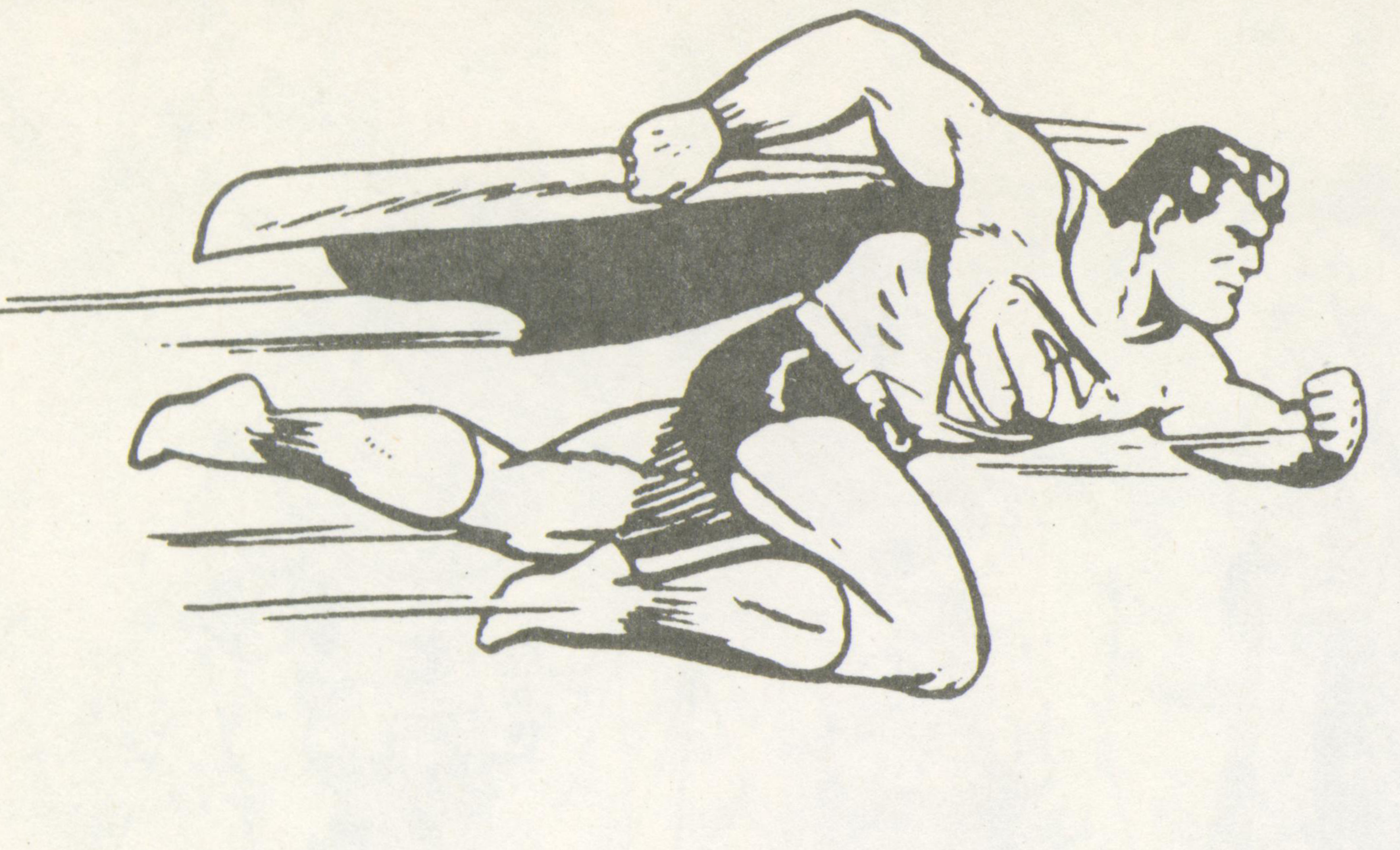
だんだん映画作って行くにつれ、見る人とか作る人とかが大きくなって行く様な広がり方をして行きたいね。これからの方法としては、一番いいんじゃないの。

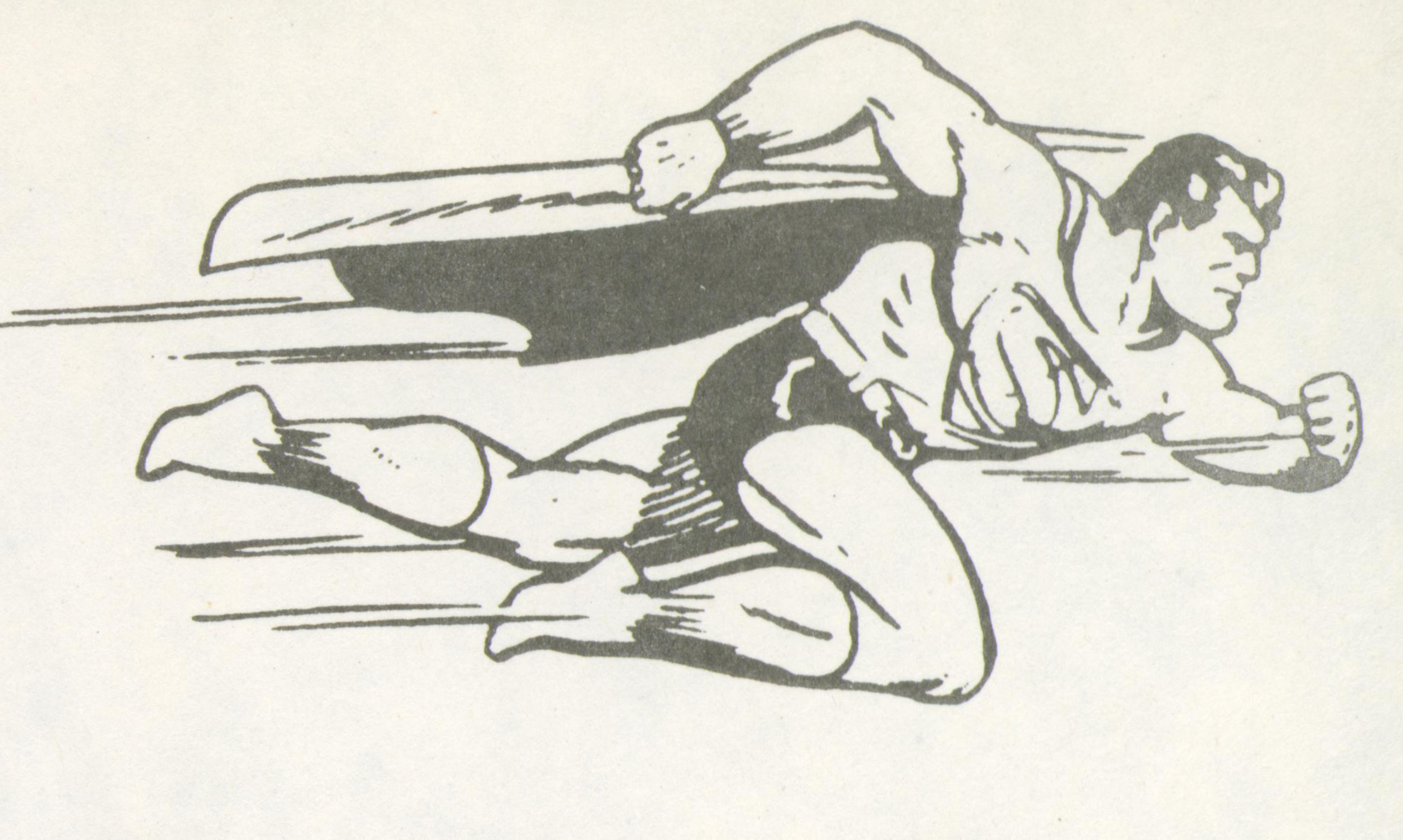
中央線
高円寺
337-1477

★酒処Yasubē

☆安兵衛Kōenji

酒処やすべ
安兵衛





スーパーマンとはなにか

小野耕世

なるほど、スーパーマンとは…こんなに強かったのか。

マックス・フライシャーが、1941年に制作したアニメーション・シリーズ「スーパーマン」を見ながら、私はそう思った。これまで、どのスーパーマンのコミックスのなかで、彼がこんなに直截に、力によるアクションを見せたことはない。

というよりも、1938年に誕生したこのスーパーヒーローが、私の目に、暴力的に見えたことはなかった一といえば、奇妙に思われるだろうか。

しかし、コミック・ブックのスーパーマンを、もしほんとうに読んできたならば、あらゆるスーパーヒーローのなかで、最も強力であるはずのこの男が、おそらく最もおとなしいことに気付くだろう。(だいたい彼は、日独相手の戦争にも参加していないのだ)。

ごく初期の、いかにも権拙な絵によるスーパーマン・コミックスのなかで、彼が、自動車を目よりも高くさしあげて、強盗をおどろかす場面があった。それな、赤ん坊が、庭の石を持ちあげている姿を思わせたものだったが、私が少年時代に親しんだスーパーマンというのは、いつも自分の正体が、ロイス・レーンに知られないかと頭を悩ましている男で、ストーリーも、その点を生かして工夫されていた。

私の記憶にいまでもあざやかな、50年代の傑作では、市民たちが、川に落ちた女性を助けようとしたり、さまざまな人助けをしてヒーローになるという設定のエピソードがあった。スーパーマンは、困ってしまう。なぜなら、おせっかいにも人助けをしようとした人たちは、自分もいっしょに川に落ちたりして、結局、スーパーマンがかけつけなくてはならないからである。スーパーマン・コミックスのその号の表紙は、スーパーマーが、すっかり頭をかかえている姿が描かれていた。そのまわりで、街の人びとが、得意顔で、さまざまな、ちょっとした善行をほどこしているのだった。そして、物語のタイトルは「英雄が多すぎる!」というもの。

つまり、偉大なるスーパーマンは、続出する街の英雄たちの後始末、めんどうを見るのにおおいそがしで、1日がくれてしまうという、皮肉な内容だった。

ほかには、これはライブ・アクションのTVドラマの1本として放映されたから、記憶しているかたもおいでかもしれないが「スーパーマンとめくらの少女」というはなしがある。目の見えない少女が、スーパーマンなんていないわ!と言い張り、スーパーマンの存在を信じようとしないで、このヒーローは、困ってしまう。彼は、盲目の少女を抱きかかえて、空をとんで世界一周をしてみせるが、そんなことをしてもダメなのだ。私は、このエピソードを、TVとコミック・ブックの両方で見ていた。

では、暴力についてはどうかというと、なにしろ彼は、絶対に人は殺さないし、街を壊すなんてこともない。あるエピソードで、スーパーボーイが、ガラス窓を破ってとびだしながら、「あのガラスは後で修理しておこう」というセリフを言うので、ふうむと感心してしまったことがあるが、それほど、PTAには気をつかっていた時期があるのだ。

私にとって、スーパーマンとは、破壊行為よりも、空を飛んでいる姿で記憶にある。後に(60年代以後だが)、もう地上の出来事では大活躍ができないので、スーパーマンが宇宙人としばしば戦うようになってからは、彼は、地球がその公転軌道から外れないように、なんと、両手で地球を押しもどす(!)なんて離れわざをやってのけるようになるが、そうなると、絵づらのうえでのスケールはひろがっても、物語のうえでの想像力の欠如、スーパーヒーロー・コミックスの単純さを、いやでも示すようになる。

だいたい、スーパーマンなんて、ばかばかしい存在は、アメリカ人でなければ思いつかないのだが、アメリカ的であるのは、単純な力の象徴として彼があるだけではなく、同時に彼が、市民である点なのだ。

これは、スーパーマンに限ったことではないが、アメリカには、市民でないマンガのヒーローは、存在しないのである。民主々義をたてまえとしているこの国では、スーパーマンは、もちろんアイドルであり、ヒーローになるけれども、ふつうの市民でなければならず、新聞売りの少年と、対等に握手する存在でなくてはならない。現実のアメリカが、ヴェトナムでどんなことをしようとも、アメリカの夢のマシンであるコミックスでは、そうあらねばならない。(としながら、同時に、コミックスには、アメリカの悪夢が、作者の意図する、しないにかかわらず描かれてしまっているが、なんともおもしろい点なのだ)。

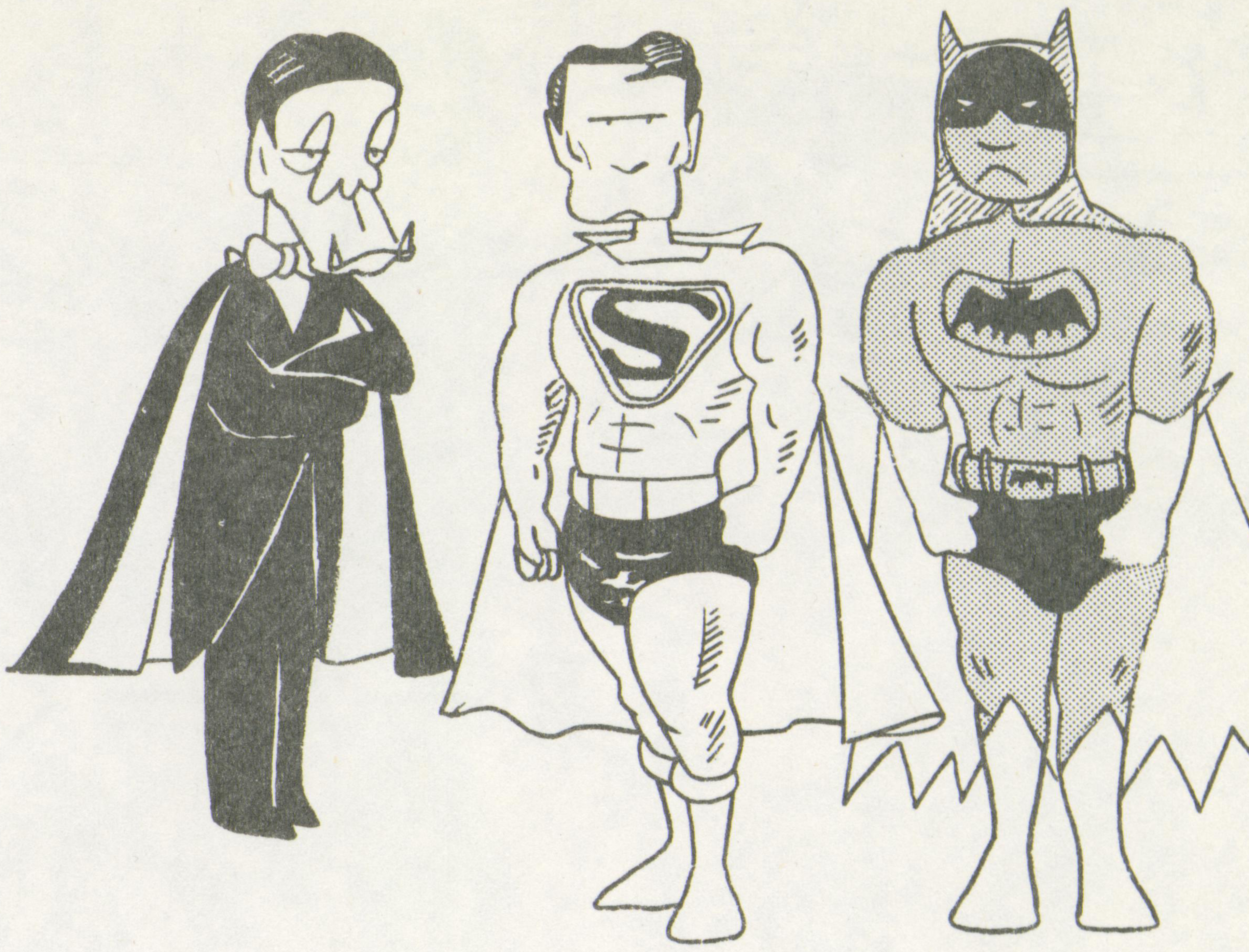
スーパーマンの矛盾は、超能力のヒーローであることと、市民であることを、どう両立させるかにあり、そのテーマを描いた40~50年代のコミックスが、私にはいちばん楽しめる。宇宙が舞台になれば、アメリカ市民であるかどうかは、問題でなくなる。(といいながら、いやというほどアメリカ人であることに、スーパーマン・コミックスをずっと読んでいれば気がついて、苦笑するにちがいない)。

また、スーパーマンをはじめとして、アメリカのスーパーヒーローたちは、決して神出鬼没ではない。ちゃんと論理的に筋道がたたないと現われないので、たとえば、わが日本の黄金バットや月光仮面のように、どこからともなく現われるということは、決してない。黄金バットや月光仮面は、どう考えても〈市民〉ではなく、天下り式の、神の如きヒーロ

★小野耕世(おの・こうせい) 1939年11月28日東京生まれ
1963年国際基督教大学卒業。海外コミックスの紹介。翻訳を続けまた、映画についての雑文を書く。日本漫画家協会会員。
主著書「バットマンになりたい」 住所 世田谷区代田5-16-25

ーで、これはまさしく日本的な存在だ。(もし、スーパーマンを神にしてしまったら、アメリカでは暴動が起きるかもしれないな。ヒーローとは、アメリカの特産物のひとつなのだけれど。)

なお、手塚治虫の鉄腕アトムは、学校の生徒が超ロボットのヒーローという点で、新しい。むしろ、彼のあとに登場した月光仮面のほうが、はるかに古くさい存在なのだ。ただし、この古さは私たちには骨がらみになっていて、仮面ライダーまで続いている。アトムの場合も、彼は市民ではあるが、時は、ロボット時代の未来であるという設定で、(そういう逃げかたで)日本ばなれを成功させている。



さて、フライシャーのスーパーマンにはなしを戻すと、これは、スーパーマンのコミックスを読み通すほどのことはしていなくても、スーパーマンに対してなんとなくあるイメージを抱いている人たちにとって、まったく期待どおりの姿に映ると思う。まず、彼は、やたらに強く、破壊的で、なによりも物語は単純——という、一般の、スーパーマンに対するイメージにぴったりだ。その意味で、これは見事な作品である。ダイナミックな躍動感、なによりも、テンポが小気味よく、あれよあれよというまに、とにかくスーパーマンが、とてつもない敵を破壊してしまう。

コミックスのスーパーマンとは、まったく違うけれど、しかし、「スーパーマン」ということばだけ知っている者には(もし、ほんとうに、スーパーマンのコミックスをずっと読んでいれば、とてもおそろしくて、断定的なことは言えなくなるだろうから……。何事も、知れば知るほど簡単に断定して片づけることはできなくなるものだけれど)、これこそスーパーマン!と思わせる出来ばえで、原作のコミックス以上にスーパーマン的とさえ言えよう。マックス・フライシャーは、「スーパーマン」をマンガ映画化するに当って、出来うる限り、最良の、アニメーションとカラーを——と考えたというが、その望みはかなえられている。初期のスーパーマンは、あごはばがひろい顔が特徴で、画面を見ながらなつかしい。まだ、ドク・サヴェジのように北極に秘密の基地をもたない時代のスーパーマンである。

スーパーマン=クラーク・ケントの勤める新聞社は、ディリー・プラネットとなっているが、これは、1940年まではディリー・スターという名だった。アニメーション版では、すでにディリー・プラネットとなっている。スティーブ・マファッティとフランク・エンドレスというふたりのアニメーターの腕もいい。

フライシャーのスーパーマン(パラマウント)は、1941年に始まり、全部で17本作られた。当時、劇場では、長編のまえに、1、2本の短編マンガが必ず上映された。その後、スーパーマンは、1948年と50年の2回、それぞれ15回連続の活劇としてライブ・アクションのシリーズとなった。1951年のシリーズは、後に、104のエピソードが作られ、いまもアメリカでは放映されているTVシリーズの土台となった。

「スーパーマン」が再びマンガ映画となったのは1966年で、30分のTVシリーズであった。そして1967年、「アクアマン」のシリーズといっしょに、1時間番組となった(アメリカでは)。しかし、TV用のアニメーションには、私はまったく関心がない。

マックス・フライシャーは、常に、ウォルト・ディズニーの後塵を拝していた。ポパイがあれほど有名になっても、キャラクターの権利は彼が持っているわけではないので(キング・フューチュアズ・シンジケートの所有)、フライシャーの名は、ポパイといっしょではなかった。最初の「スーパーマン」は、アカデミー賞の候補になりながら、ディズニーの「総統の顔」にさらわれてしまった。

ポパイの戦う相手は、いつもブルートだったが、それも、ディズニーから、犬のプルートの名前とまぎらわしいと抗議され、後に、ブルータスと変えなくてはならなかった。

しかし、マックス・フライシャーは、ことによったら、世界最初の長編アニメーションを作った男かもしれないのだ。1923年、彼は、「アインシュタインの相対性理論」について、7巻のモノクローム・アニメーション長編を作っている。これは、劇場用の作品ではなかったが、もちろん、ディズニーの「白雪姫」より早い。そういえば、オスカー・フィシンガーも、「ラジオ・ダイナミックス」という作品で、相対性原理を感覚的にとらえようとしたのだったが。

現在の「スーパーマン」は、コミックスのなかで、むかしと比べ、ずっと暴力的になり、感情に走ってわれを忘れるようになった。それは、マーヴェル・コミックスの新しいヒーローたち、スパイダーマンやハルクの影響であることは、はっきりしているが、私には、スーパーマンが暴力的であればあるほど、スーパーマンらしくなくなっていくような気さえする。

ことによったら、最もスーパーマン的なスーパーマンは、コミックスのなかではなく、フライシャーの手によるアニメーションのなかにだけ、イメージをとどめているのかもしれない。

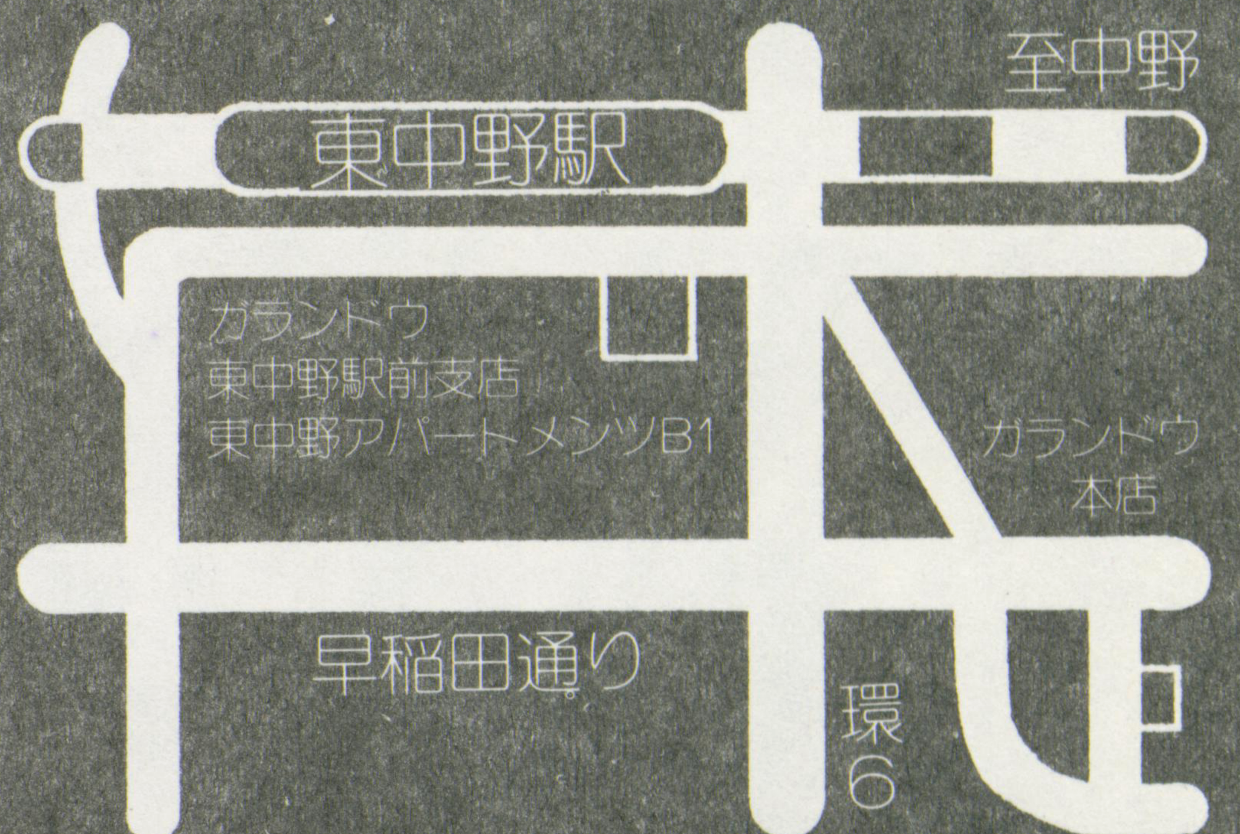
レストラン・スナック

伽藍洞

MENU

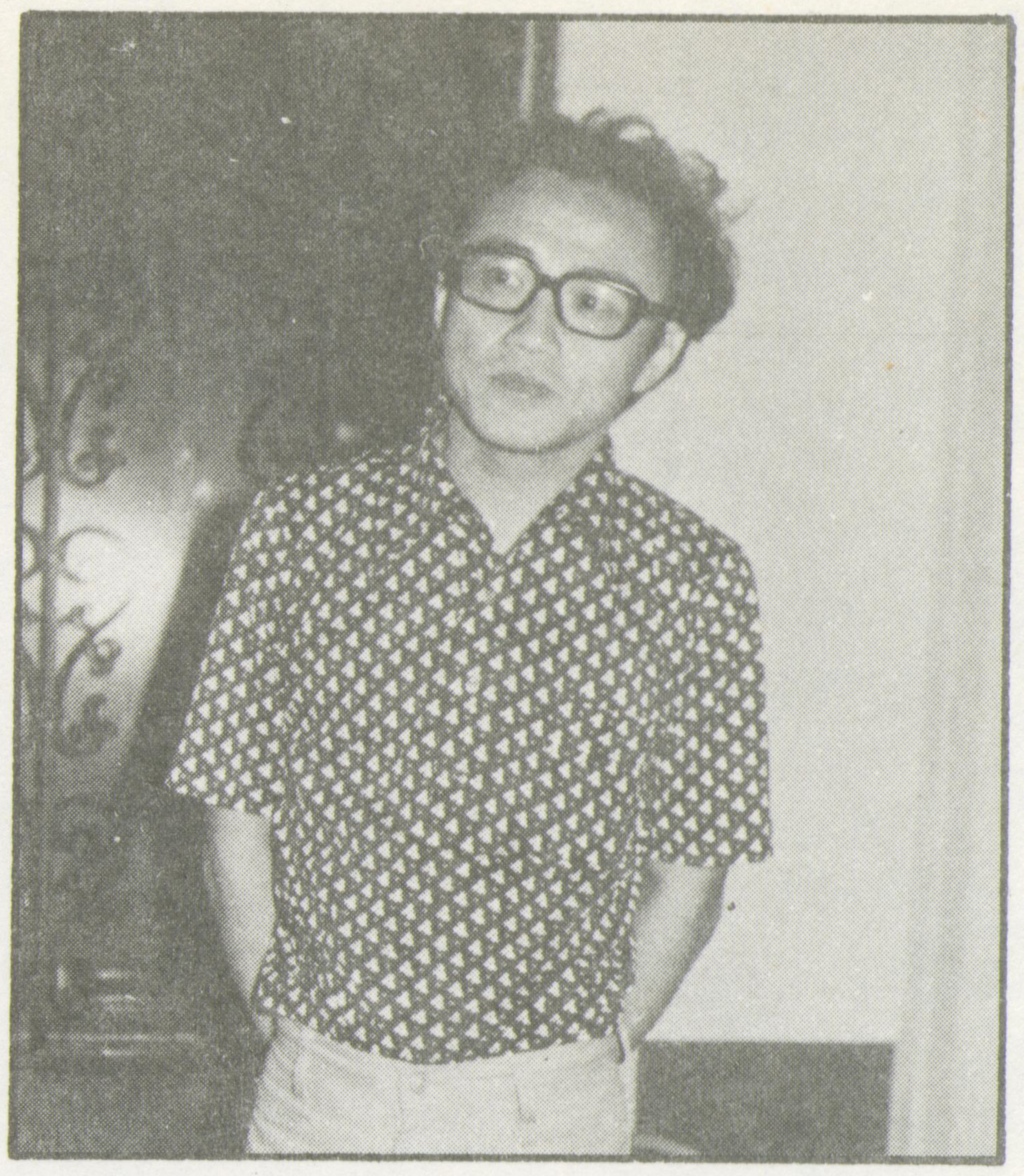
イカサラダ	450円
ダリーンサラダ	450円
手打やきうどん	400円
やきそば	400円
カロリー定食	450円
コーヒー	250円
ビール	350円
ガランドウフィズ	350円

東中野駅前支店 ☎367−6447
上高田1丁目本店 ☎386−4278



アニメーターが語る　第1回

鈴木伸一氏



「アニメーターが語る」第1回は、〝オバケのQ太郎〟の中で、いつもラーメンを食べている小池さんのモデルとして、なじみの深いスタジオ・ゼロの社長　鈴木伸一さんを訪ねました。鈴木さんはアニメ界には「プラス五万年」「点」という作品の作者として、良く知られていますが、「ふくすけ」「ひょうたんすずめ」「おとぎの世界旅行」等、おとぎプロのほとんどの作品に活躍しました。漫画スタジオとしてのスタジオ・ゼロの話し、御本人（当時、新聞にくるまり、ころがりながらラーメンを食う。等）の話しは前に『COM』にも書かれているので、今回はアニメーターの立場でお話しを、お伺いしました。

聞き手・甲谷　勝

アニメ界へ入った理由をお話し下さい。

理由というのは、好きだからと言うしか無いんだけれど、きっかけはあったね。それは中学の頃だったかな。ディズニーの「白雪姫」を見て感動して、そういう仕事をやってみたいと思ったんだ。「バンビ」は30回か40回ぐらい見たなあ。それこそパンなんか買って入ってね。「ピノキオ」も良かったけど、やっぱり「白雪姫」が好きだな。最近のディズニーは前みたいな魅力がないね。

学校を出てからは印刷所に務めていたからセル等を使うので真似して書いて見て、一人で感激していたものですよ（笑）。セルに書いていたのは一枚絵で、ポスターカラーじゃうまく塗れないんで、石けんを混ぜたりしていた。近所の子供を集めて幻燈なんかもやったり、すごく楽しかったね。

最初にアニメの仕事をしたのは？

下関の印刷所にいた頃は漫画の投稿をしていたんだけど、東京新聞の中村さんという人を知っていたんで、そこへ居候をしたんだ。東京へ出て来る時は漫画で食えるかどうかわからないんで冒険だった。漫画少年では新人王になったりしていたけど、漫画っていうのは厳しいものだと思っていたんで食えるとは思わなかった。もし中村さんを知っていなかったらそうまでしなかったね。

それから僕がアニメを好きだというんで紹介して貰って行った。おとぎプロが出来て1年目くらいの頃かな？横山隆一さんにあこがれていたしね、そこへ行ったんですよ。横山さんに会った時はドキドキしちゃって……

横山さんの隣りの人が越したんで、家を貸りて、僕は2階の8帖でちゃぶ台にトレス台を乗せてアニメを創った。今のアマチュアの人と同じだね。隆一さんは仕事ではここからここまで動かしてくれと大ざっぱな絵を画いてくれるだけで、テンポも何も指定しないんだ。それを見せると指パラをして、こんなもんだと言ったりね。色を塗る人は使っていたけれど、背景・動画・トレス・撮影まで自分たちでやっていた。僕が入って1・2年して東映動画が出来て「白蛇伝」を作ったりした。その頃は小さなプロダクションに居たもんだから、流れ作業でどうやって作るのかと思っていた。僕なんか原画だけかいて細かい所を人にまかせるなんて心配でね。おとぎプロでは原画から動画まで1人の人間がやるから、その人の個性が出て来る。だから逆に長編はムリだったんじゃないのかな、おとぎプロの長編はやっぱり失敗してるものね。

ぼくが入った時に「ふくすけ」を作った。18分ぐらいかな。その前に16mmで「おんぶおばけ」っていうのがあって、それは松山さんがやっていた。劇場に出たのは「ふくすけ」からだな。「ふくすけ」は、あっちこっちから実写で使ったフィルムの残りを集めてやったから、イーストマンがあったりめちゃくちゃで現像所がすごく苦労した。

そのあとかな？なくなった前田と言う人が入って来て、その人が教えてくれてまがりなりに人に見せられる様なのを作れるようになった訳です。それまではシロウトの集まりでやっていたから、メチャクチャだった。カメラが「アスカニア」という箱型の古いやつでフィルムをかんだりして、機械が悪いんじゃないのかと思ってスプロケットをヤスリでけずったりして専門家にしかられたり（笑）。

ものスゴイ原始的な事やっていたけど良かったな。その頃は動画のひとつひとつの動きまで覚えていたし。今は分業化されていて、いい動きしていてもスグ忘れちゃって、今のテレビアニメをやってる人なんかかわいそうな気がするなあ。

今はアマチュアの人の方がアニメに情熱をもってるんじゃないかな。簡単なチョットした動きでよろこんだりしていても、その方が大事なんじゃないのかな。だから僕も今だにテレビマンガのシステムに入りきれない。僕はテレビマンガを見るよりは、アマチュアアニメの会へ行って見る方がワクワクするね。

おとぎプロはそれから人が増えて一時は、30人ぐらいになって、その頃の人で今でもアニメをやってる人は多いよ。コマーシャルなんかもね。

今はおとぎプロみたいのが無いから、スタゼロもそういう風にして行きたいね。いろんな事を自分でやって、その方がアニメを創っているという実感があるね。

ときわ荘時代の話をお聞かせ下さい

漫画少年に投稿していた関係で編集部の人を知っていた。それで東京に出て来たら、ときわ荘に寺田ヒロオというのがいるから行ってごらんと言われて遊びに行ったわけ。

その時はもう藤子不二雄がいたな。つき合う様になって、そのうち居候もしずらいんで寺田さんに借金したりしてときわ荘に入ったんだ。そこから水道橋のデザインスタジオに務めたりしていた。そのうち石森が入って来て最後に赤塚が入って来たんだ。

いくつぐらいの時だったんですか？

22か3の時だと思うけど、石森なんか学生服着てニキビなんかあって子供っぽかったね。今は大家になっちゃったけど。

変に有名になったけど汚ないアパートだったよ。水野英子とか長谷とか横田とか最後まで漫画家がゴロゴロしていたね。なぜかみんな2階にいて、騒いだりすると下の人が天井をホウキで突いて怒られたりした。

漫画論とかは話し合ったんですか？

そういう事はしなかったな。和気相合としてそれでいてライバル意識を燃やしていた。

3・4年前にときわ荘の同窓会をやったけど、まわりがずいぶん変わっていたね。

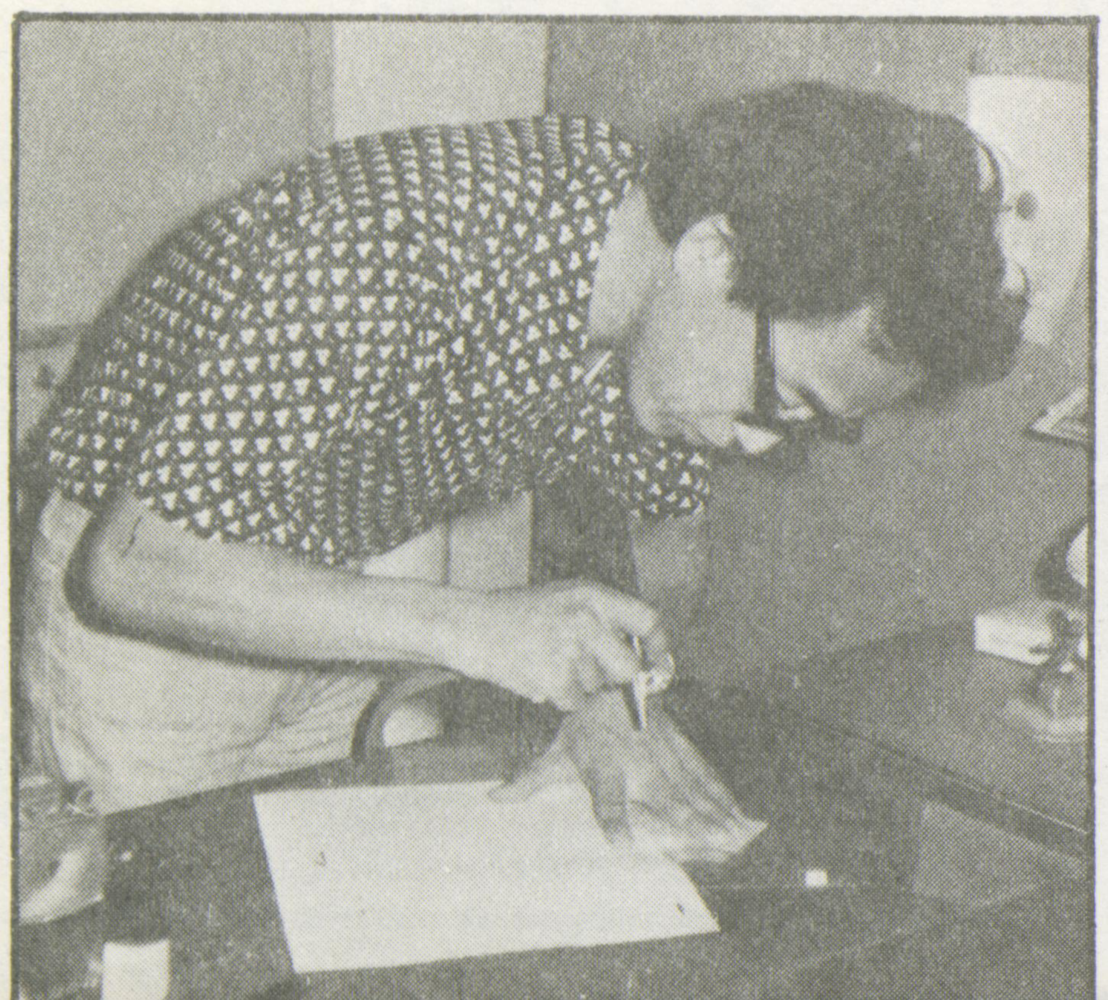
その頃はまだ誰も売れてなかったんですか

そうね、かけ出しの頃だからね。売れたのは才能があったのかライバル意識のせいか？

赤塚とは月に1回ぐらい集まっていたくらいで、一緒に生活はしていなかった。

これから小プロダクションで作ったりする予定はありますか？

小プロダクションではアニメを作れないんじゃないかな。劇場用の短編がないでしょ、



スタ・ゼロをつくったのは？

何年前だったか覚えてないけど中野の方で八百屋の裏の倉庫を借りてね。取締役が石森・藤子不二雄・つのだじろうとその兄に僕の6人で社員が1人でね。当時社長をしてたけど、おとぎプロをやめた失業保険をもらっていて（笑）スゴイ変な会社だったね。

最初はどんな仕事をしてたんですか？

はじめは仕事なんか無いよ。オリジナルを作ろうというんで「ギックとシャック」というロボットのアニメを作った。でもあまり売る気はなくて、おくらになっちゃった。それから「たのしい医学」というのも何本か作った。それは売り込みに行くつもりだったけれどやっぱりおくらになった。

でも東宝やなんかから企画はたのまれたりしていた。そのうち東映からの企画で「レインボー戦隊ロビン」を作ったんだ。

「鉄腕アトム」も作ったそうですけど？

その頃虫プロから「鉄腕アトム」の番組で穴があいた時のために予備のやつをたのまれた。みんなで作ろうというので僕と石森が、手塚さんに会って話を聞いて「みどろヶ沼」の話を作った。動画の値段もわからなかったんで、1本15万か18万かで引き受けちゃった。石森と僕が絵コンテを書いて、アニメーターもいないんで、石森や藤子不二雄が画いたりしてたんで、スゴイ変なアトムが出て来たりして。石森の画いたアトムなんかはスマートで、それぞれの個性があるから統一がとれなかった。

出来上ってラッシュの日に手塚さんが見て「こりゃダメだ。」なんて言われた。でもなんとかテレビには流れたんですけど、アトムの中じゃ異色なんじゃないの。作品としてはダメだけど今一流といわれている漫画家がアニメーターになって作ったんだから珍品じゃないの。見たくは無いけど（笑）。

昔作ったの見るのはどうですか？

内容的にも技術的にも、幼ない所があるから恥づかしいね。

スタ・ゼロで作ったのは、その後新宿にうつって来て、「おそ松くん」「パーマン」「怪物くん」「ウメ星殿下」「サブと市」とか、そういう時代が長くつづいたね。

「おそ松くん」を作る前は仕事がなかったから、でも先が見えなかったけど希望だけはあった。

漫画をやったりして、だから僕は他のアニメをやってる人と歩いて来た道が違うんだよね。あまりまともに来ていない感じがする。

最初の頃はテレビ漫画も面白かったね。今はもうテレビマンガに興味を無くしている。いい作品もあるけど、作っても消耗品という感じがする。

僕はヘタでも編集とか全部自分でやってたでしょ。そうして見ると今のテレビマンガはそういう方法で作れないし、あまりやる気がしないね。食うためにコマーシャルを作ったりしてるけど。

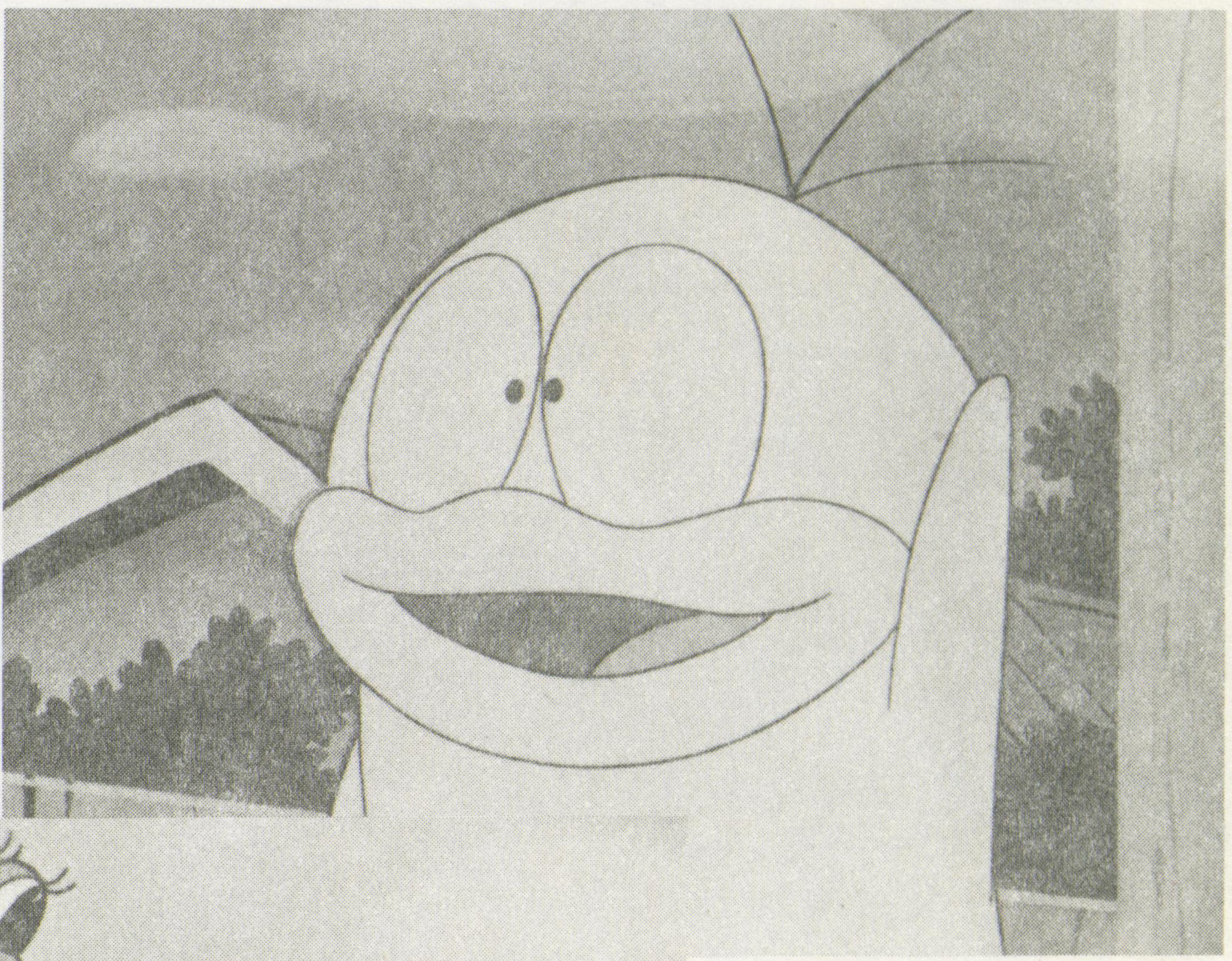
長編でも喜こんでもらえないし。

テレビアニメか自主作品を作るしかないんじゃないの。まあ久里洋二さんみたいなやり方もあるだろうけど。

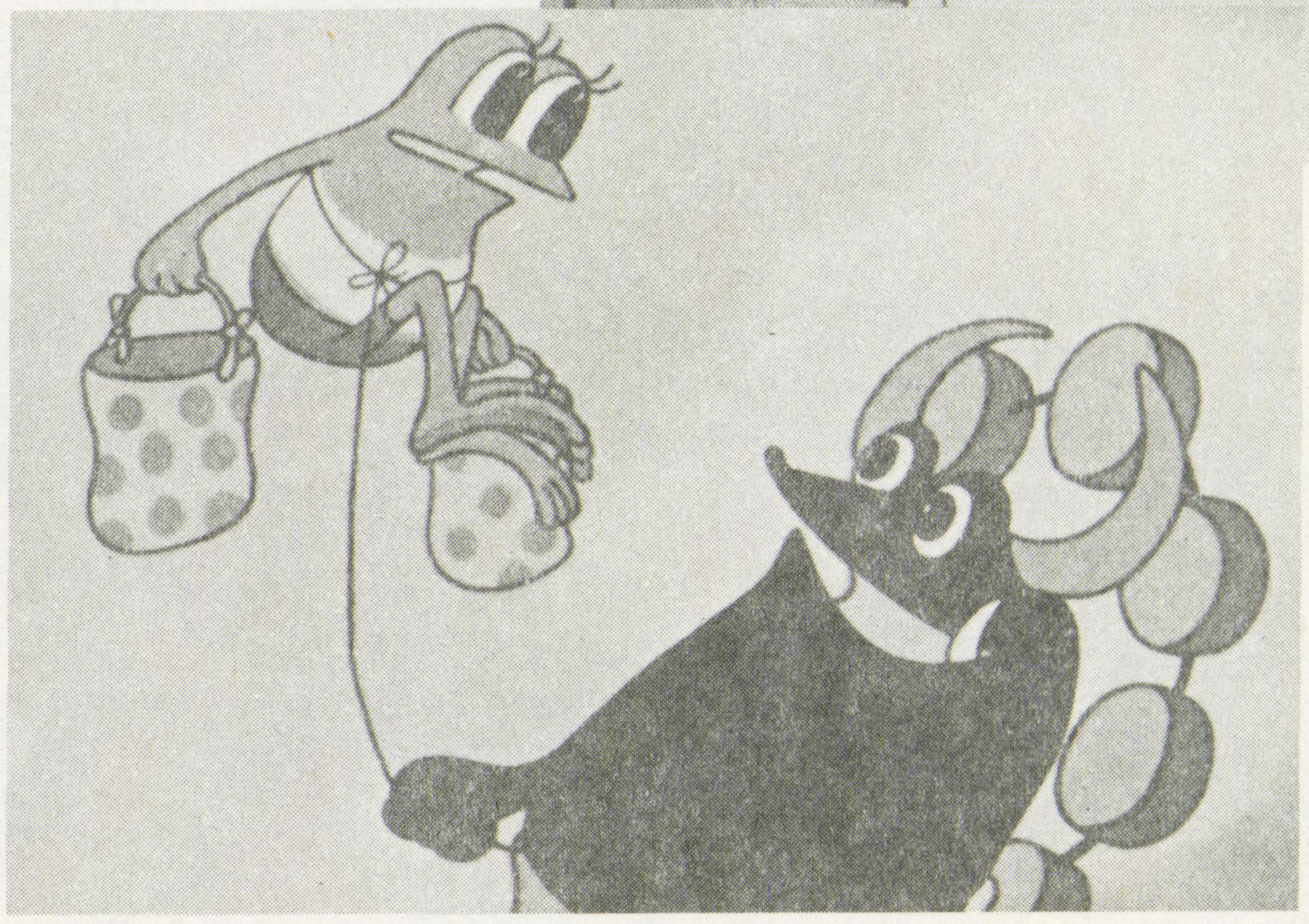
テレビマンガには情熱を注ぎ込めないんだよね。今みたいに毎週放映されるのは、おかしいと思うよ。だって10月から再放送も含めて18本ぐらいになるんでしょ。すると1日3本近くなるわけね。毎日毎日3本づつ見せられたら、たまらないじゃない。まあスポンサーとしては、ある程度の視聴率を保てるかもしれないけど。ジャカスカ作るアニメなんて価値がないんじゃないの。だからこれからフルアニメを作れる人はだんだん少なくなっちゃうんじゃないかな。もうそういうのを作って行けるのは、ディズニーぐらいじゃないのかねえ。

今日はどうもありがとうございました。

〔K〕



オバケのQ太郎▶



◀ふくすけ

▼プラス五万年

手塚治虫（アニメーターが語る—第2弾）

「ある森の伝説」を語る

次号予告：ノーマン・マクラレンの世界（完結）／帰って来たピンクパンサー／森卓也・特別寄稿「長編動画の系譜」／月岡貞夫の「人間革命」！／予価400円

ほりえみつこ

●テーマソング歌手●

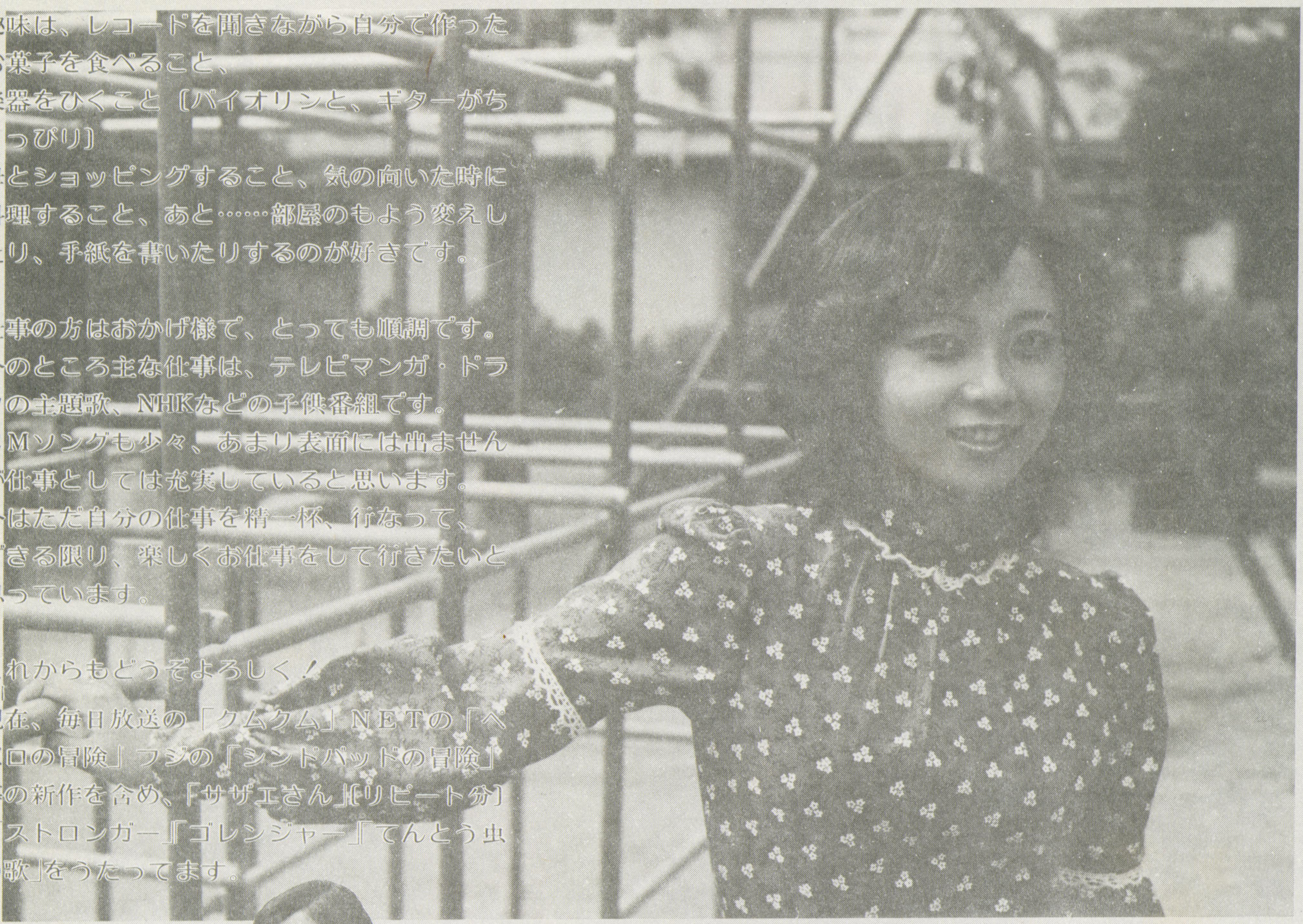
みなさんこんにちは――！
すっかり秋らしくなった今日この頃
いかがお過ごしですか？
私は夏のあの忙がしさから解放されて
今やっと、静かな秋の気分を味わっています。

今年の春、大学を受けたけど
みごとに落ちちゃいました。
ただ今、浪人中です。
趣味は、レコードを聞きながら自分で作ったお菓子を食べること、
楽器をひくこと〔バイオリンと、ギターがちょっぴり〕
母とショッピングすること、気の向いた時に料理すること、あと……部屋のもよう変えしたり、手紙を書いたりするのが好きです。

仕事の方はおかげ様で、とっても順調です。
今のところ主な仕事は、テレビマンガ・ドラマの主題歌、NHKなどの子供番組です。
CMソングも少々、あまり表面には出ませんが仕事としては充実していると思います。
今はただ自分の仕事を精一杯、行なって、できる限り、楽しくお仕事をして行きたいと思っています。

これからもどうぞよろしく！

現在、毎日放送の「クムクム」NETの「ペロの冒険」フジの「シンドバットの冒険」等の新作を含め、「サザエさん」[リピート分]「ストロンガー」「ゴレンジャー」「てんとう虫の歌」をうたってます。



本名	堀江美都子
ニックネーム	みっち
生年月日	昭和32年3月8日
身長	153cm
体重	52 k
バスト	80 cm
ウエスト	57 cm
ヒップ	85 cm
年令	18才

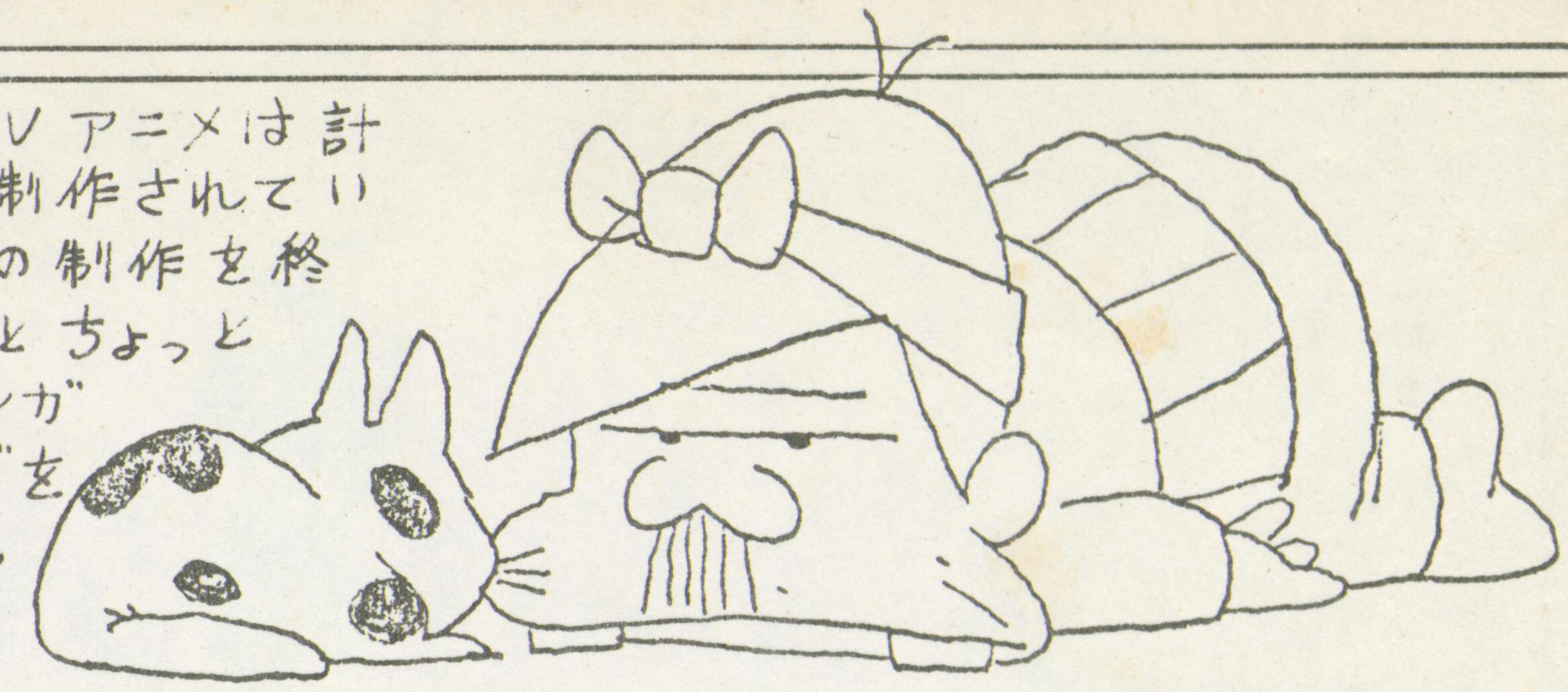
多くの人に知られているようで、知られていない。ようで……ファンがたくさんいる？
古くは「ちびっこのど自慢」で優賞。
デビューは、7年前。「紅三四郎」
唄ってきた主な曲。
アクビ娘　魔法のマコちゃん　好き好き魔女先生　けろっこデメタン　ジムボタン　さすらいの太陽　金メダルへのターン　心の唄

アシスタントとして主演した番組。
NHK「なかよしリズム」
フジ「みんなあつまれキーパッパ」
NET「土曜ショー」

フリー・連絡は、〒107、港区赤坂4丁目（株）日本コロムビア・学芸部まで

今年10月から新番組が9本始まり、TVアニメは計18本となりました。注目作の筆頭は、再制作されている「元祖天才バカボン」で、「ガンバ」の制作を終えたAプロ／ムービーのスタッフが前作とちょっと違ったカンジで挑んでいます。雑誌マンガと全然違うアニメならではのドタバタギャグを多発させることでしょう。ボソッとしたキャラクターの線は、ど根性、ガンバと経て、このバカボンで、東映の代表するスラッとした線とまた別な独自の世界を表現します。

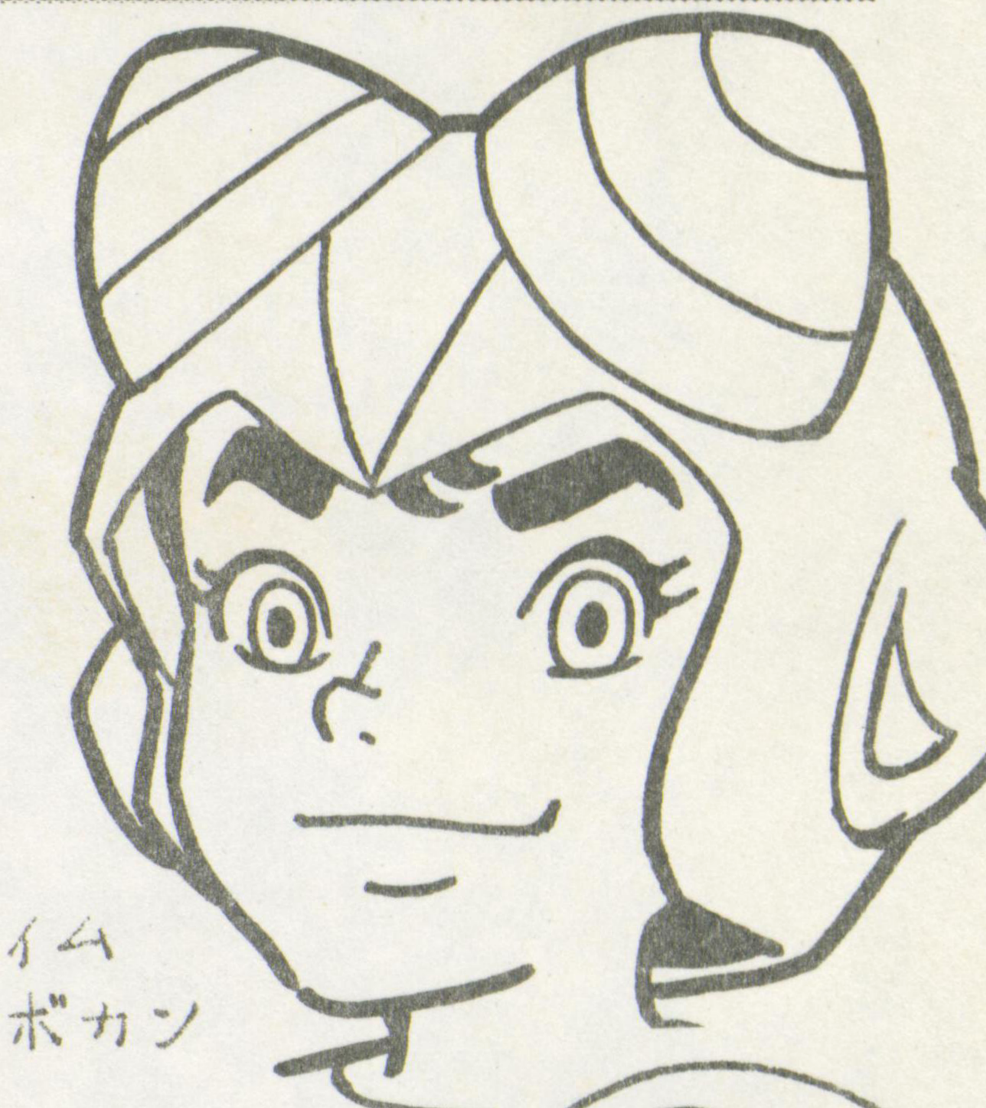
他の作品では、東映・虫プロ・ムービー調の合成のようなシンバット、時々ものすごく動きまくるSF考証の割と確かなテッカマン、実写から出張(?)している演出のローラなどが注目されます。



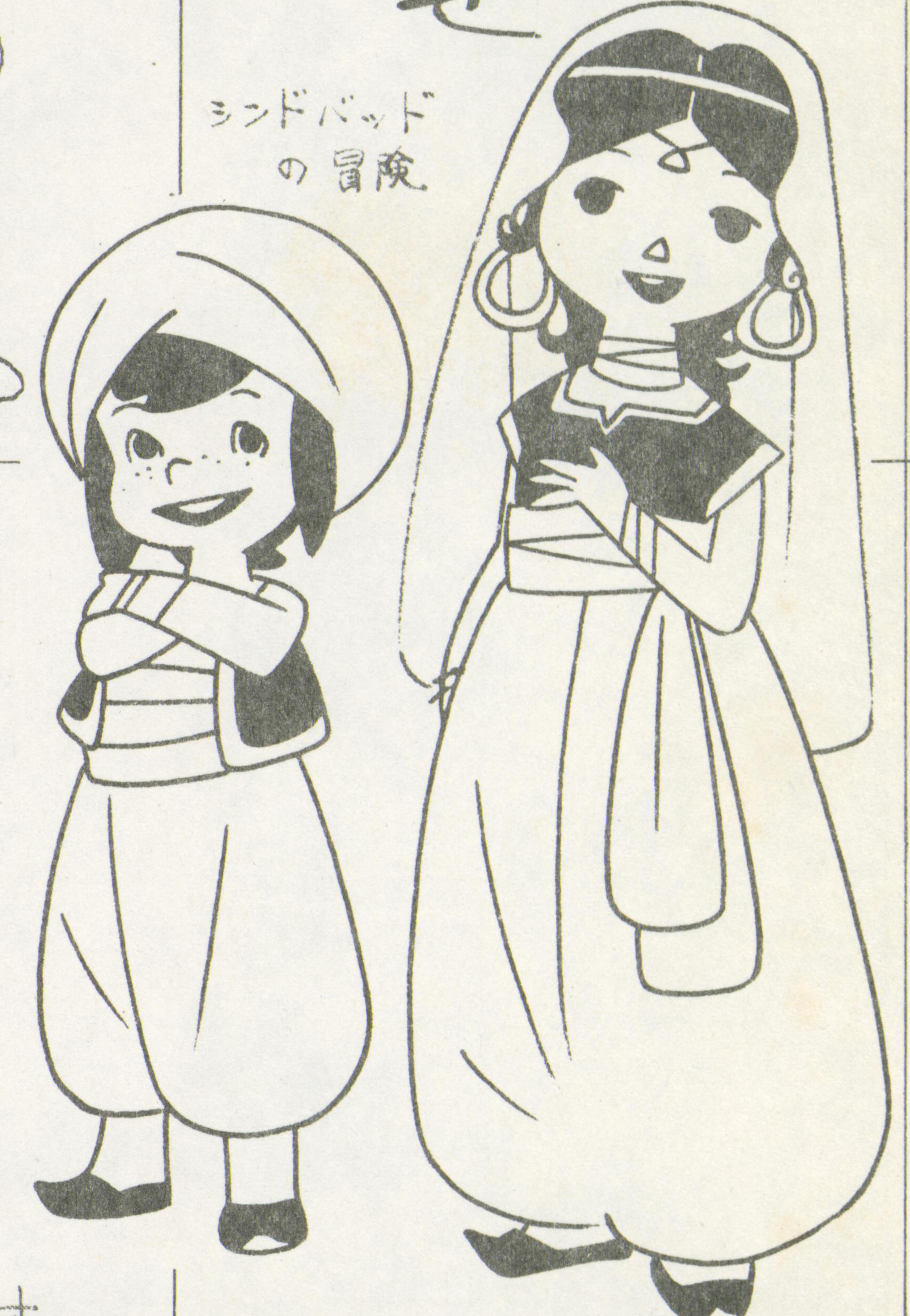
元祖天才バカボン キャラクター作画監督 芝山つとむ

TV/ ANIMATION 1975 10

UFOロボ グレンダイザー



タイム ボカン



シンドバッドの冒険

本数が増えた為、制作者側はフル回転ですが、やはり時々忙しい上でのアラが画面にみえるようです(例 色パカ・引きセルのスピード違い・セリフ等)。マンガなどというふざけた(かわいい)ものを前面に押出すそのウラには、やはりその分キビシイものがあるようです。FANTOCHE誌でも注目していきたいと思います。今後話題の新作には、休んでいたハイジ班のメインスタッフが作る「母をたずねて(仮)」51年1月から～があげられます。

クムクム

秋の新テレビまんが主題歌はまたまたコロムビアが独占!!

テレビ漫画
UFOロボ
グレンダイザー
とベ！グレンダイザー
宇宙の王者グレンダイザー
▶SCS-270 ￥500

テレビ漫画
元祖
天才バカボン
タリラリランのコニャニャチワ
パパはやっぱりすばらしい　他
▶SCS-274 ￥500

テレビ漫画
アラビアンナイト
シンドバットの冒険
シンドバットのぼうけん
シンドバットのうた
▶SCS-271 ￥500

テレビ漫画
クムクム
クムクムの歌
サウルスくん
▶SCS-275 ￥500

テレビ漫画
鋼鉄ジーグ
鋼鉄ジーグのうた
ひろしのテーマ
▶SCS-272 ￥500

テレビ漫画
草原の少女ローラ
草原の少女ローラ
ローラの子守唄
▶SCS-276 ￥500

テレビ漫画
アンデス少年
ペペロの冒険
ペペロの冒険
風よつたえて
▶SCS 273 ￥500

テレビ漫画
一休さん
とんちんかんちん一休さん
ははうえさま
▶SCS-278 ￥500

Columbia コロムビアレコード

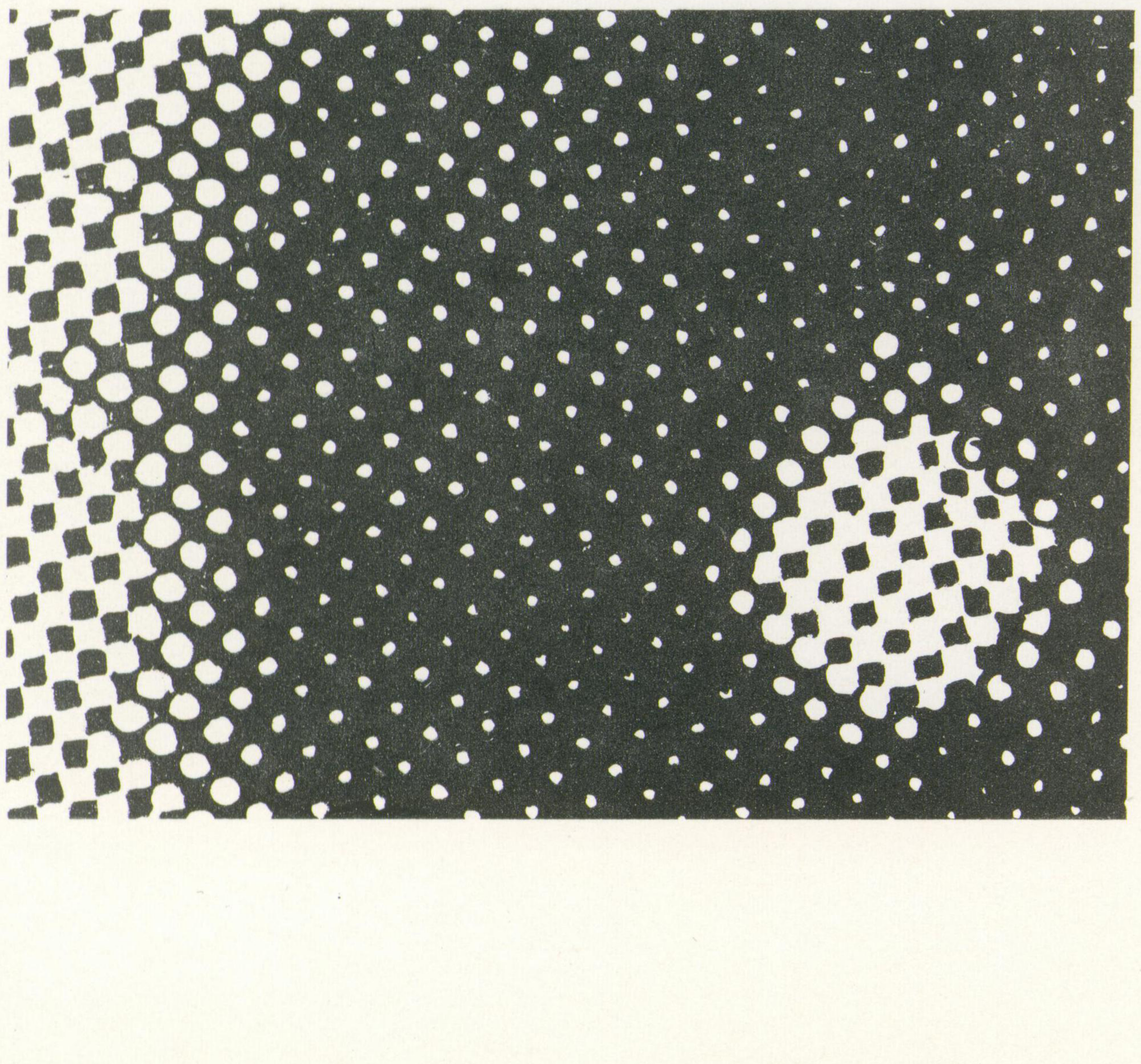
話題の

水のたね

岡本忠成氏が、海洋博のために制作した(三面マルチ)作品

ナイス・トウ・シー・ユー

古川タク・作



花折り

川本喜八郎・作

の作品

ストーン No.1 No.2
相原信洋・作

続・人間革命

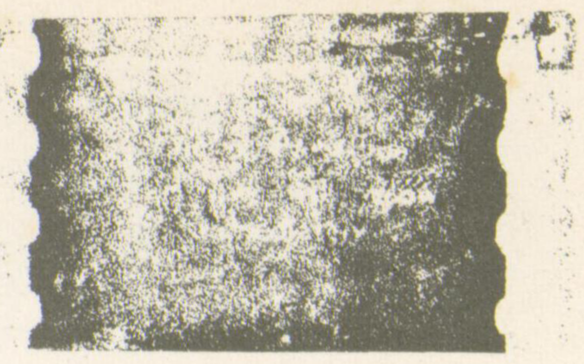
のアニメ部分(8分) 月岡貞夫・作画

シリーズ

「映画フィルムはなぜ？」

杉本五郎

映画用の標準フィルムはなぜ35ミリなのか？



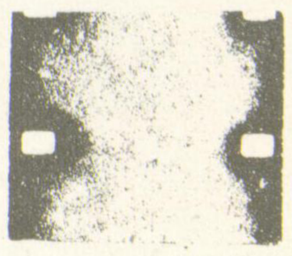
われわれが映画館で見る映画の大部分はその幅が35ミリのフイルムであるなぜだろうか？答えは簡単なのである、1889年（明治22年）当時ロールフィルムを発明発売していたアメリカのジョージ・イーストマンが、すでに発明王としてその名の高かつたトーマス・アルヴァ・エジソンに提供したフィルムが35ミリ幅であったからだ。その頃イーストマン・コダック社で製作していたロールフィルムの原形は、長さ200フイート（710メートル）幅が42インチ（105センチ）であり、これを30本に切ると35ミリになるからである。イーストマン・コダック社はフランスのルミエールをはじめ世界中にこのフィルムを提供している、今日35ミリが標準幅となってしまったが、もとはと言えばコダック社の都合で定まってしまったと言える。しかしこれ等のフィルムは普通の写真用として製作した物なので穴はあけてなかった。送り穴（パフォレーション）はフィルムを買った者が勝手にあけていたので、ルミエールは面画の左右に一箇づつの穴をあけていた。最初は丸い穴であったが破れやすく安定が悪いので間もなく四角になった。今日のように画面の両側に四箇づつあけたのはエジソンである。日本でも明治の頃はこのような穴のあけてないフィルムを輸入し、ミシンを改造した穴あけ機を作って使用していたと言われる。今日発見される日露戦争の記録フィルム等に真四角で異常に小さな送り穴の物を見る事が有る。

9.5ミリフィルムはなぜ使われなくなってしまったのか？

今はもう忘れられかけてしまったが戦前には9,5ミリフィルムを使う小型映画の全盛時代が有った。

35ミリ映画の製作配給会社として、又レコード製作会社として、ニワトリのマークで世界中に知られていたフランスのパテー社が、1920年（大正9年）自社の劇場用映画販売の↗

16ミリフィルムは　なぜ16ミリなのか？



1923年（大正12年）1月8日ロチェスターのイースト・ハイスクールで開かれた技術団体連合会の席上で初めて16ミリ幅のフィルムを使用する小型映画が上映された。会議の始まる前に写した参加者の姿を会議が終るまでに反転現像し映写して見せたのである。すでに1910年代の初め反転現像が実用になる見とおしがつき、これによって作られた画像の銀粒子が普通のネガから焼付けた物よりはるか↗

杉本五郎氏について

銀座生まれ、荒川・尾久育ち。12才の時からアニメに興味を持ち、戦争前からフィルム収集を始めたが東京大空襲で三百本全部を失なう。焼けあとから立ちあがり、ギャグの研究とフィルムの収集（特にアニメと無声喜劇）に一生をかける。かたわら漫画家水木しげると単行本を出版したり、デザイン学校で講師などをやる。昭和46年に火事で三十年間に集めた二万本のフィルムを焼失したが、その焼けあとから三度復活した。現在、日本一のフィルム・コレクターである。

住所　東京都福生市熊川1138P2

今回はフィルムの形式と歴史が主になりアニメとの関連がなかったので、次回はレフシー紙フィルム、35ミリ玩具フィルムとアニメの関係について記したいと思う。

セールスマンに持たせる小さな映写機用の9.5ミリに縮少した見本用フィルムを製作した。

５センチ程の丸鑵に入ったこのフィルムは反転現像のせいもあって驚くほど画質が良く、この機械とフィルムを譲ってほしいという者が多く、すでに17.5ミリのパテールーラルを発売していたパテー社は、この9.5ミリにパテーベビーと名をつけて、撮影機（高さ10センチ程の手まわしの物と組合せ、家庭用として全世界に売り出し、特に日本では画面の大きさが16ミリとはとんど同じなのに費用が約半額以下で済むために好評であった、フィルムの使用料を節約する為に画像はフィルムの幅一杯にし、送り穴はフィルムの中央に画面と画面の間に横長にあけてある、こうして16ミリと同じ１フィートに40コマの画面を16ミリの約半分のフィルム上に納める事が出きた、さらに映写機にはストップ装置をつけて、タイトルや動かない場面は自動的にフィルムが３秒半停止するようになっていた。

しかしこの利点がかえって後に欠点になってしまった、数年遅れて出来た16ミリが急速に進歩し光力を増し大きく映写できるようになっても、9.5ミリの方は光を強くするとストップした時フィルムが焼ける（不燃フィルムなのでこげて曲る）ので明るい電球が使えず大きく映写できない、フィルムが端の方まで画面として使っているために、映写機のフィルムをおさえる部分が少なくストップの為にスプロケットを使用しないので画面の安定が悪い、フィルムの中央に送り穴が有るので自動現像がしにくく、キズや現像むらが出やすいし手現像の為にフィルムの調子がそろわない、やがて1932年（昭和７年）コダック社からダブル方式の８ミリが売り出され、画面は小さくともその性能と品質の安定さにより、８ミリに乗りかえる者が増え第二次大戦後は生れ故郷のフランスだけで使用されている。

一番小さいフィルムはなぜ8ミリ幅なのか？

16ミリが進歩して大映写が出来るようになると、家庭用にはもっと小さいフィルムで間に合うようになった。35ミリから17.5ミリを製作したのと全く同じ発想から、16ミリを半分にした８ミリが1932年（昭和７年）コダック社から発売された、これは16ミリ幅のフィルムを片側づつ撮影し反転現像後8ミリに切断するダブル８方式（レギューラー８ミリとも言う）であったが、昭和11年には初めから８ミリ幅のフィルムを使うストレイトエイトカメラがベルハウェル社から、またドイツ・アグファ社からはマガジン入りの８ミリ幅の物も売り出された。しかし16ミリを半分にしたのでは画の写らない耳の部分が３ミリも有り、やがて光学式トーキが８ミリにも使えるようになるとさらに画面の部分が小さくなるので、穴を小さくしたニュー８ミリがアメリカで生れ、教育用に普及しかけたが日本に入らぬうちに、1965年（昭和40年）コダック社からスーパー８が発売され、同年日本で同サイズのポリエスタベースを使用する。シングル８が出現、ともにその画質は16ミリに迫るものがあり、画面が小さいダブル８は撮影機の製造を中止しフィルムもやがて過去のとなって行くのである。

８ミリより小さい映画としてはフランスに4.5ミリがあるが横走り方式であり日本には入っていない。また画面の小さな物としては、22ミリのフィルムに３列、35ミリに８列・70ミリに12列などの画面を焼き込んだ物が製作されたが、編集が出来ないので映写用のみである、ちなみに過去で一番幅のせまい映画フィルムは３ミリである。

不燃性フィルムはいつ、なぜつくられたのか？

1898年（明治31年）ロンドンのエクレスという会社からパータックと言う、35ミリを半分にした17.5ミリのフィルムを使用する撮影機が売り出さている映写技術書（日本視聴覚教材センター発行）に昭和30年以前の16ミリには可燃性の物が有るから保存に注意せよ、とあるのは間違いである、又某消防大学の講師の如く16ミリの半公は可燃性であるなどとのべているのは噴飯物である、日本では戦争中物資が不足した時、35ミリを裁断して可燃性の16ミリを売り出そうと考えた業者が有ったが、16ミリを可燃性にすると映写に免許証が必要になり、映写機には防火カバーを付けなければならぬ事になるので実現しなかった

この案のかわりに35ミリを３本に切断した11.5ミリのトーキーフィルムが製作されたが、さっぱり普及しなかった。過去にヒノマル８ミリフィルムがリーダー部分に、フジフィルムが16ミリのネガにかぎり可燃性を使用した事があるが世界的にも恥ずべき事であり、ジョージ・イーストマンの爪のあかでも飲ませたい。

ただし不燃性といっても、紙より燃え難いが火の中に入れれば焼ける物である完全な不燃フィルムとしては戦前ドイツで、メッキした鋼鉄の帯に写真を焼きつけ、反射光で映写する物が出来たが、機械音が大きい事とフィルムは丈夫だが映写機の方がすり減ってしまうのでテストだけに終ってしまった。

17.5ミリ映画なぜ使われなくなってしまったのか？

35ミリにつづいて出現した歴史の古い17.5ミリが今日では完全に姿を消してまった、戦時中の疎開学童の生活を記録した17.5ミリ映画が発見され、先日NHKテレビで放映されなつかしかった。フランスでは大都会では35ミリ、小さな町では17.5ミリで興行をするという考えから昭和初期頃かなりの本数の劇映画の縮少版が製作され日本にも輸入された、17.5ミリは35ミリを半分に切って使うと言う簡単な発想から生れた物であるが、種類としては三種類有る。35ミリのフィルムをそのまま半分に切ったアメリカのシリウス式、日本のニュースタンダード式は片穴で一コマにつき２ツ穴である、これは可燃性であるがフランスのパテー式は16ミリと同じように一コマの左右に一箇づつの送り穴が有り、後にトーキーになり片穴になった、この方は最初から不燃性である。もう一つの形式は切らずに35ミリのまま往復映写するものでこれは可燃性である。シリウス式は主として学校向きの教育フィルムと手廻しの簡単な機械で普及をはかり100巻近い映画フィルムのカタログ等を出していたが昭和５,６年頃で消えてしまった。パテー式はその歴史が古いだけにゼンマイ式の小さな撮影器も発売し戦時中まで使用され、日活の宮本武蔵などが縮少巡回映写に利用された、戦後に池袋の人世座で上映されたアベルガンスのナポレオンは17.5ミリであった、おそらくこれが17.5ミリにとって最後の興行であろう。

ニュースタンダード式は二流の俳優に弥次喜多の扮装をさせ地方の商店街で寸劇を演じＰＲ映画を作るなどしていたが16ミリに押されて姿を消してしまった。しかし戦争でフィルムが不足すると再び姿を現し、往復式の物は映写後の巻きかえしが不用で一本の劇映画（８巻物）が２巻ですむ為に移動映写に的するとして、松竹映画の縮少版を作っていたが、可燃性の為に映写には免許を必要とするので16ミリの敵ではなかった。パテー式はその構造が16ミリと似ているので映写機を16ミリに改造してしまった人が多く17.5ミリの映写機は現在日本中に数台しかないのではなかろうか。

（つづく）

に細かい事がわかった。35ミリの画面より小さくても実用になるのではないかと思ったコダック社ホーク・アイ工場の支配人Ｆ・Ｗ．バーンズ氏が1914年（大正３年）35ミリフィルムを使って、半分づつに撮影する実験機を製作した、画面は35ミリの４分の１である、社長のイーストマン氏はこれを見て、さらに６分の１・８分の１の物を製作しテストして見た結果、標準型（25×19ミリ）の６分の１が実用に耐える最少の物とわかり、画面の大きさを10×7.5ミリとし、送り穴用として両側に３ミリづつを加えて16ミリとした、１フィートのコマ数は40とした、これはパテー社の9.5ミリフィルムと同じコマ数である。

いっそ17.5ミリにした方が良いという案も有ったが、その当初から家庭及び学校用には不燃性フィルムの使用をすすめてきたイーストマン氏は、17.5ミリでは35ミリの可燃性フィルムを半分にして使用する者が有るといけないと、当時としてはハンパな寸方の16ミリを採用した、したがって16ミリはその誕生した時から不燃性であった。

斬新！奇抜！風変り！
愉快な愉快な恐怖映画！

ヤング・フランケンシュタイン

夏と冬の大作群にはさまれて、比較的におとなしい作品が並ぶこの秋だが、この作品はもしかすると一大ブームを巻き起すかもしれない。そう、怪奇映画ファンでもないあなたも見に行くおとなしくない映画だから……！

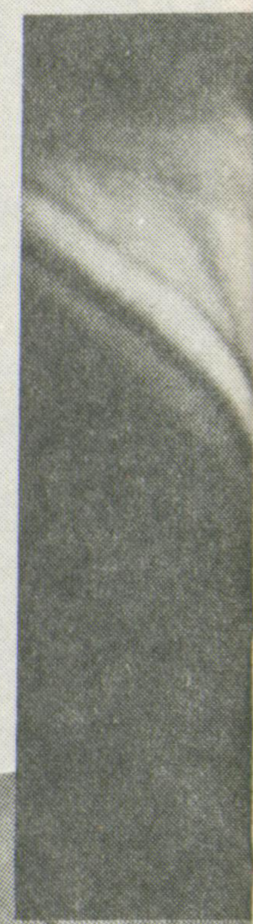
フランケンシュタイン映画のパロディであるという事は、もう御存知と思うが只ではすまされない。どんな人でも一度はハラをかかえて大笑いをして涙も流さなければならない。どんなにガマンしようと、相手はクソまじめに演じているのダカラ……。

約150年前にメリー・シェリーによって書かれた「フランケンシュタイン」が、初めて映画化されたのが1910年。その後30本余りの作品が次々と作られていったが、近作には昨年の「悪魔のはらわた」がある。今回も助手の〝しっぱい〟から物語は大変異外な方向へ進んでいくが、助手の個性タップリな顔と演技にゴ注目下さい。

又、この作品はモノクロ・スタンダードという人の上を行くおもしろい撮り方をしている所にもゴ注目アレ。監督のメル・ブルックスは、少年時代に熱中したフランケンシュタイン映画に敬意を表するために、この「ヤング・フランケンシュタイン」を作ったと語っているが、さすがである。好きな奴が作った味がにじみ出ているようだ。(撮影のジェラルド・ハーシフェルド氏が、ウラ話しをキネ旬10月下旬号に寄せているので是非ゴ覧あれ)

もう1つ。モンスターを造る実験室はなんと、31年当時の保存されていたセットをそのまま使用している。この憎さ、ニクイネ〜。

公開されたら何度でも見に行って、人よりバカ笑いしてやるゾ〰〰〰〰〰〰。



○撮影風景、カメラを持っているのがブルックス監督。カメラ右下の人が撮影監督のジェラルド・ハーシフェルド。

左からテリー・ガー/ジーン・ワイルダー/マーティ・フェルドマン/ピーター・ボイル/メル・ブルックス

○キャスト○

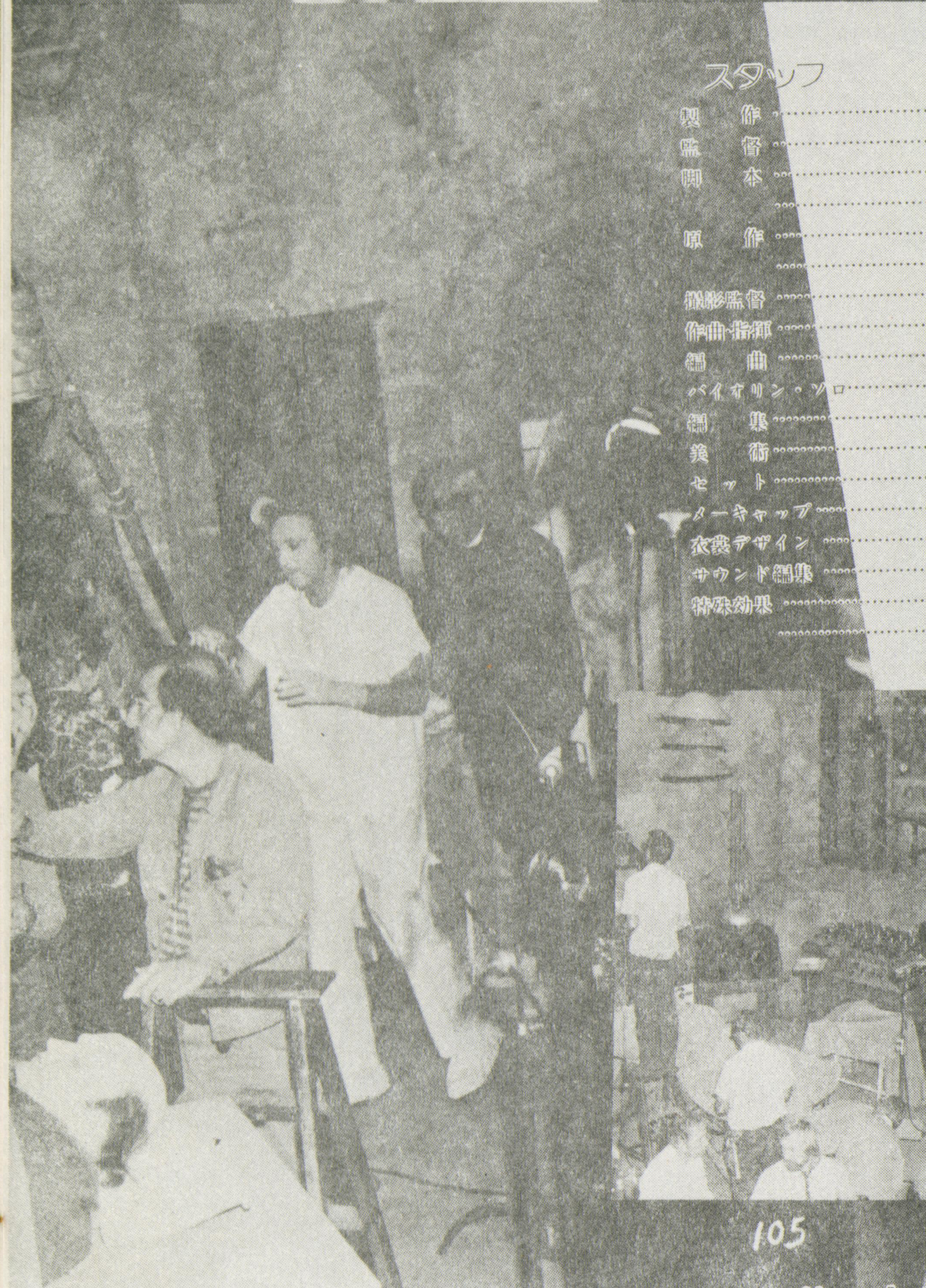
フランケンシュタイン……………ジーン・ワイルダー
アイゴール…………………マーティ・フェルドマン
モンスター……………………………ピーター・ボイル
エリザベス……………………………マドライン・カーン
ブリュッハー ……………………クロリス・リーチマン
インガ ………………………………………テリー・ガー
ケンプ……………………………………ケネス・マース

○メーキャップ中の"モンスター"

○メーキャップ後の"モンスター"

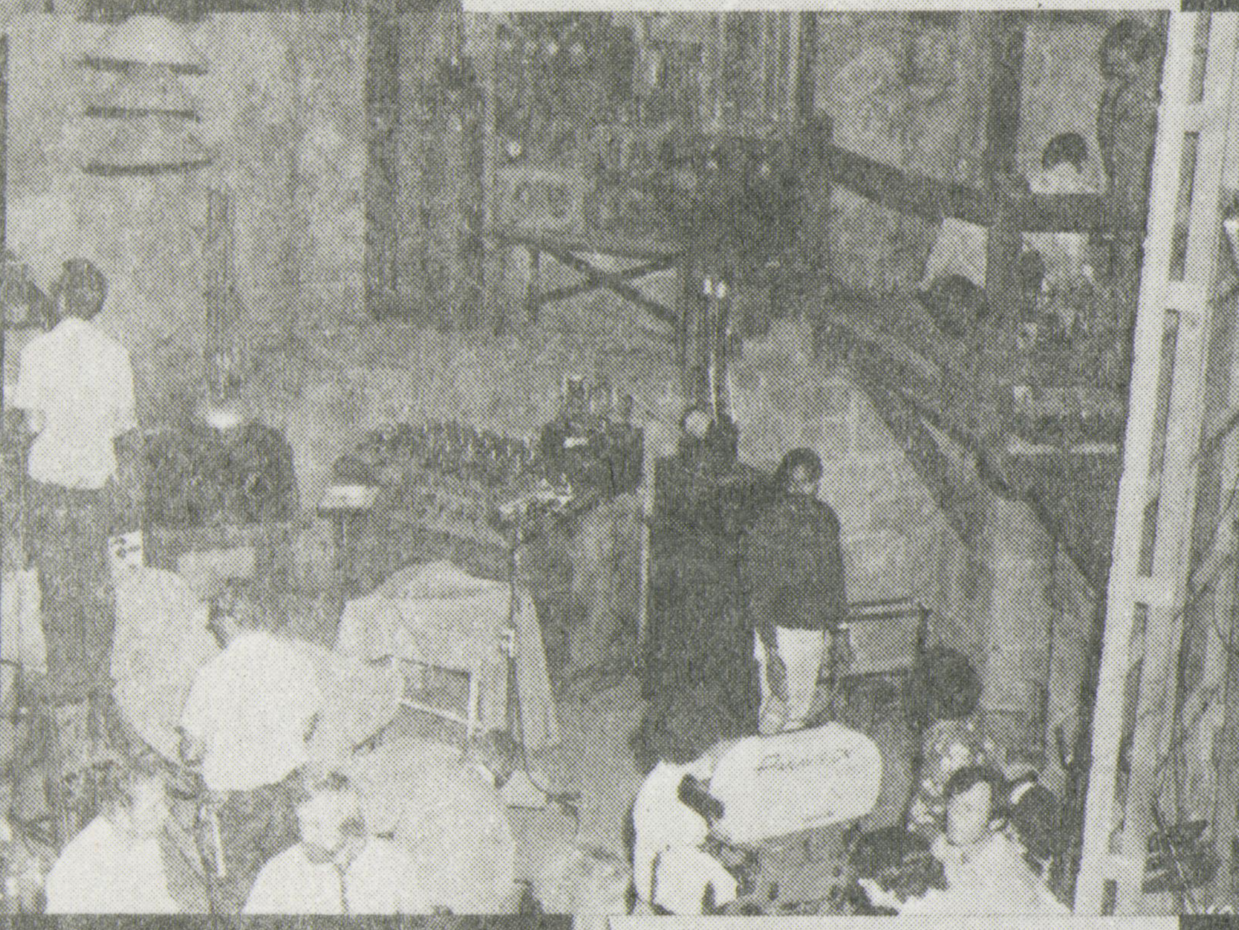
○ヤング・フランケンシュタイン公開記念○
＋ファントーシュ創刊記念　プレゼント

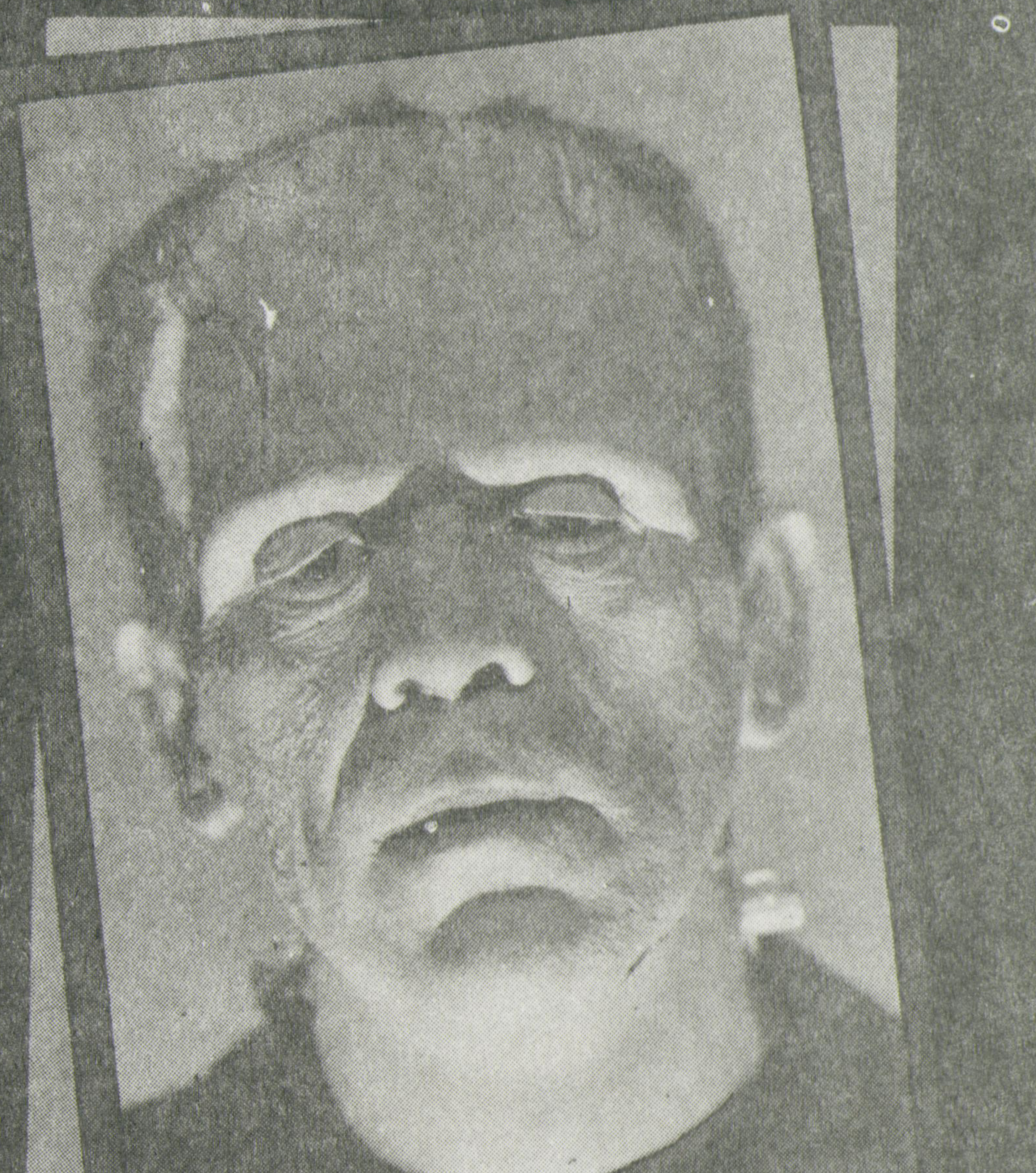
20世紀ＦＯＸ映画の御協力により、「ヤング・フランケンシュタイン」のＢ２判、カラー・イラストポスターを30名様に限りプレゼント。
ただし、定期講読の読者で地方の方と限定させていただきます。希望者は、その旨を折り込みハガキに記入の上、お送り下さい。
昭和50年12月31日消印有効。



スタッフ

製　　作……………………マイケル・グラスコフ
監　　督……………………………メル・ブルックス
脚　　本……………………………ジーン・ワイルダー
……………………………………………メル・ブルックス
原　　作……………………メリー・シェリーの小説
……………………「フランケンシュタイン」
撮影監督…………ジェラルド・ハーシフェルド
作曲・指揮……………………………ジョン・モリス
編　　曲……………………ジョナサン・タニック
バイオリン・ソロ…………ジェラルド・ビンチ
編　　集……………………………ジョン・ハワード
美　　術……………………………ディル・ヘネシー
セ ッ ト…………………………ボブ・デ・ベステル
メーキャップ……………………ウィリアム・タトル
衣裳デザイン……………………ドロシー・ジェキンズ
サウンド編集……………………………ドン・ホール
特殊効果…………………………ヘンリー・ミラー
……………………………………………ハル・ミラー

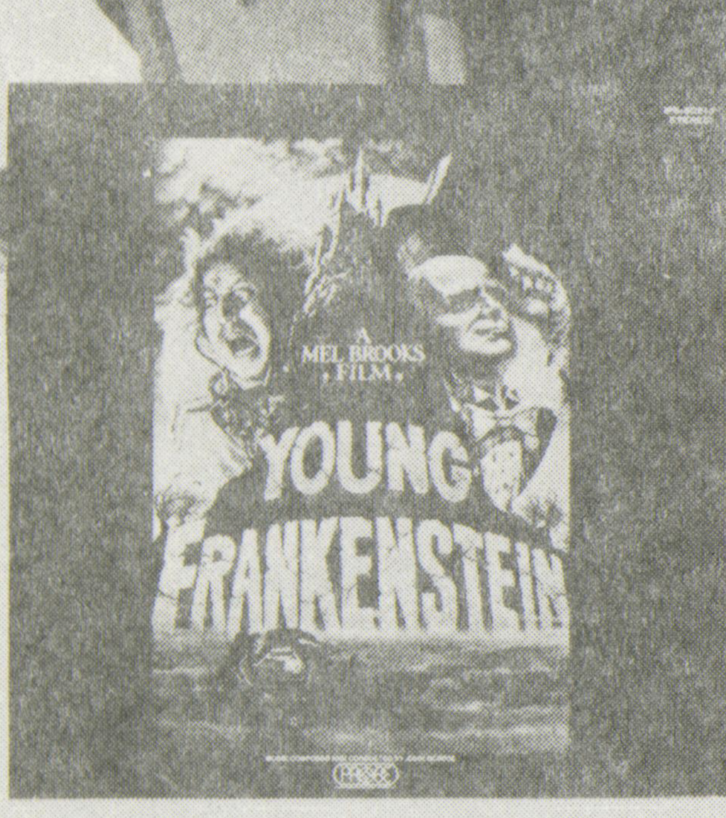




○ボリス・カーロフ

105

☆サントラ盤★

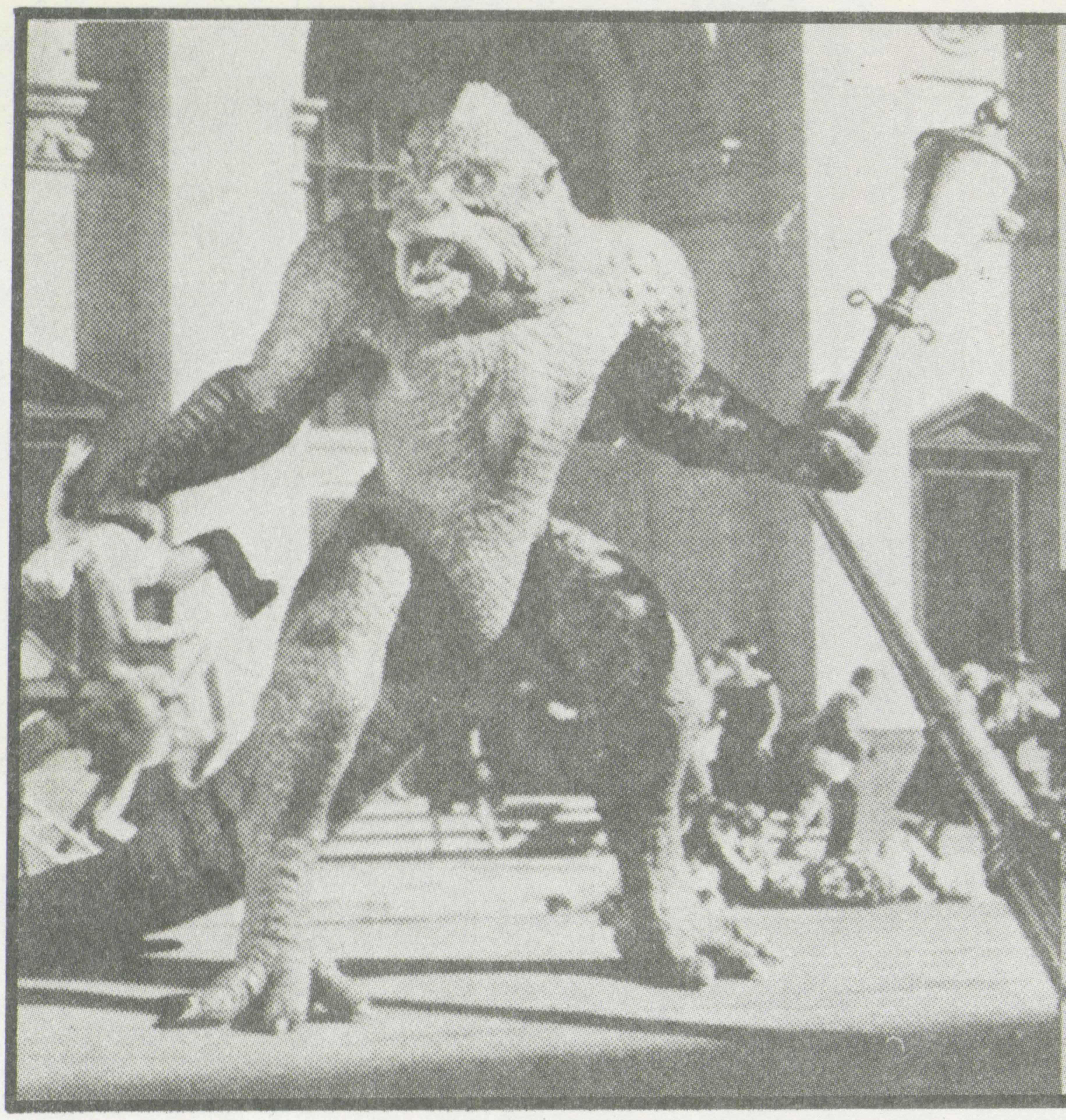


音楽ジョン・モリス

東芝ＥＭＩ・プローブ　ＩＰＳ−80212

このサントラも「レニー・ブルース」にも負けないくらいセリフだらけのアルバムで、色々な人物が言葉をかわすため比較的にぎやかで楽しい。もちろん本編を見てから聞いての話し、おしい事に対訳がついていないのでスクリーンでセリフを憶えてきて、レコードで聞いて"さあっみんなで笑おう"って感じ。
対訳が付かない分、ジャケットが最近全然みなくなった見開き。それも絵が１枚なんてケチじゃなく19点も入ってる。スチール見ながらレコードを聞くという楽しみは充分。
又、Ｂ面７曲目に映画には入っていない、テーマ曲のロック風アレンジが、リズムヘリテージの演奏により収録されている。

■東京・ニュー東宝シネマ１／渋谷スカラ座にて、10月31日よりロードショー公開中！■



ハリーハウゼン研究　(1)

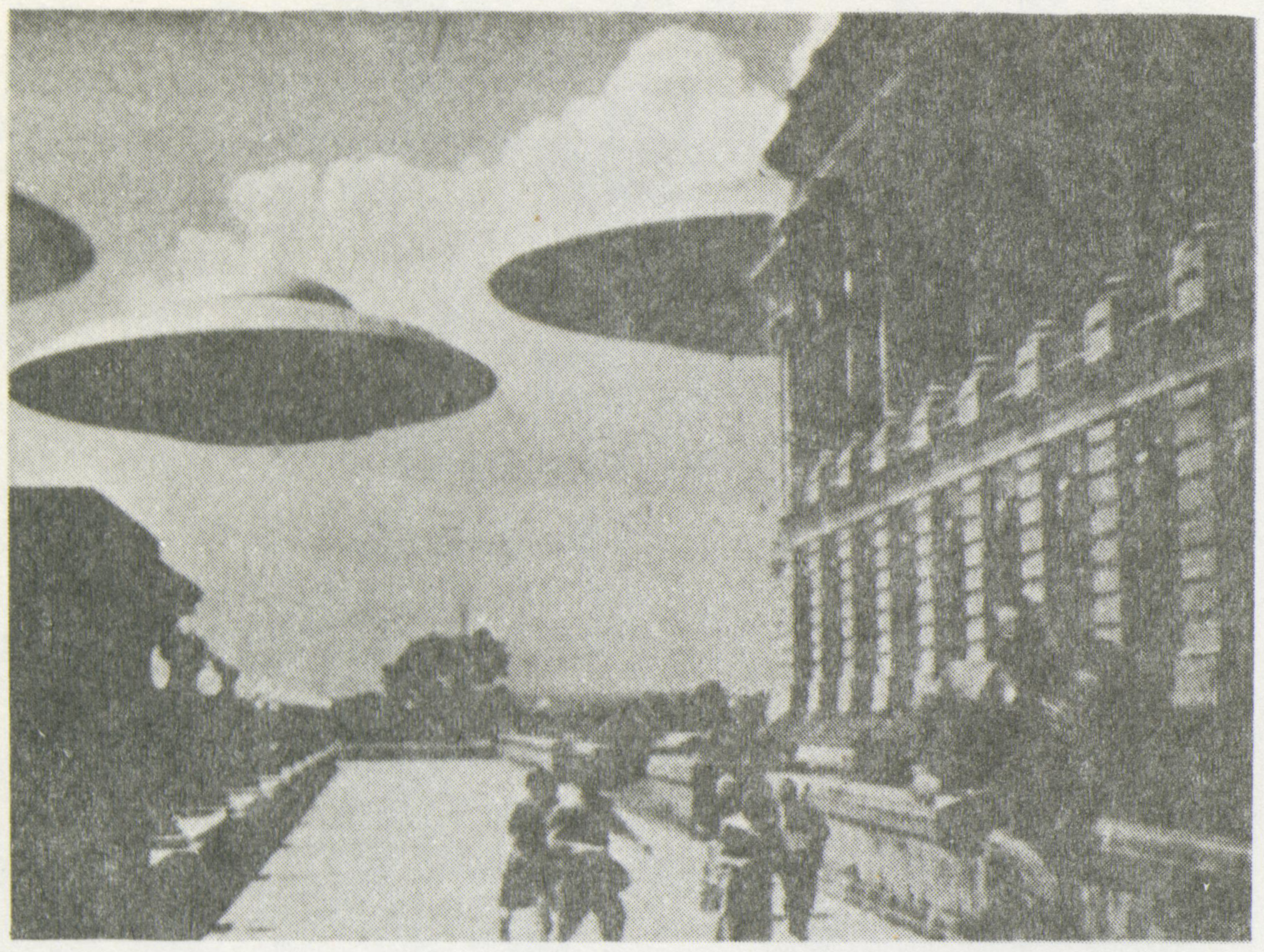
映画を論ずる場合、映画監督や出演者のことが話の中心になるこのはあっても、特殊効果を誰が担当したかという点になると、全く無視される場合がほとんどである。特殊効果の出来具合によってその作品そのものが大きく左右されるような時でさえも、その存在は監督や脚本家の影にかくれてしまう。

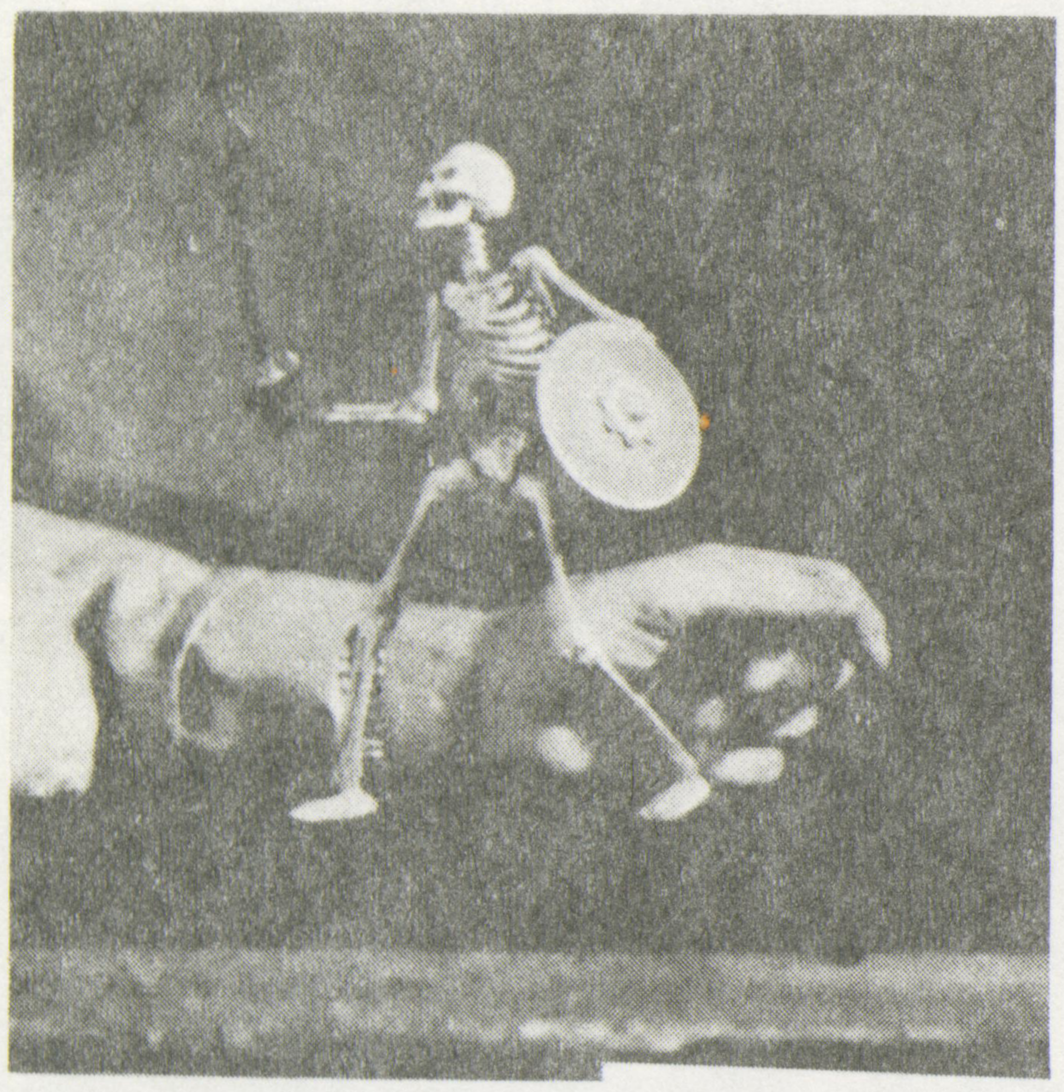
だが、ここに登場するレイ・ハリーハウゼンの場合、立場は反対になってしまう。つまり、誰が監督しようと、誰が出演しようと、彼がやっているというだけで十分なのでありどんな内容かも関係なく、素晴しいトリックが展開されることが保証されるのだ。ハリーハウゼンはそれだけ独自の世界を持っているわけで、映画界を見渡してみても、非常に特異な存在となっている。ともすれば、荒唐無稽な子供だましと片づけられてしまいそうな怪獣映画の分野で、あくことなく着々と地歩を築き世界屈指の人形アニメになる特撮マンといわれるまでになった。

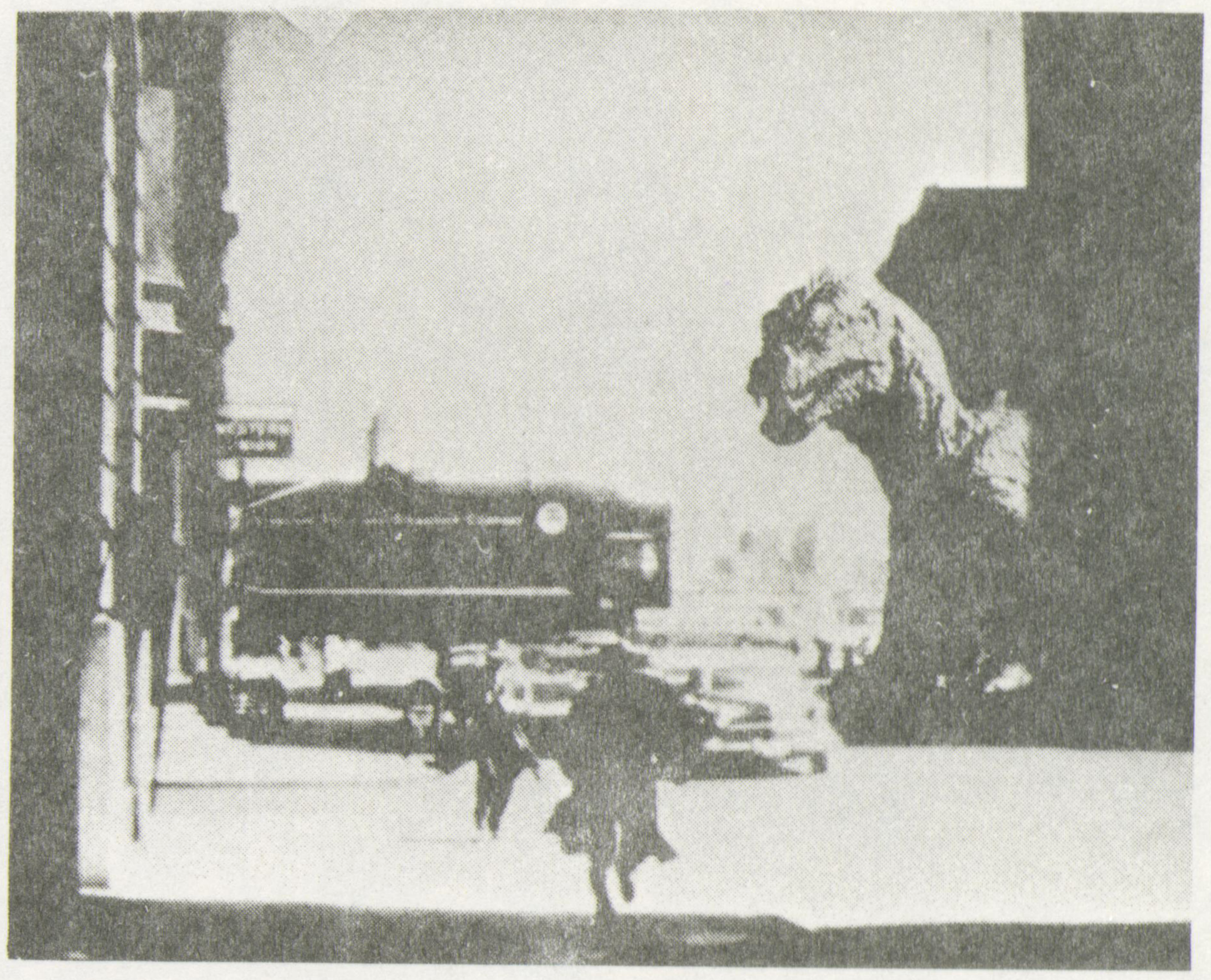
この分野で、映画史上最も有名な作品は、ウイリス・J・オブライエンが特殊効果を担当した「キングコング」(1933年)である。ハリーハウゼンがこの作品を見たのは、13才の時であった。これが彼の運命を変えた。巨大なキングコングに魅せられ、人形アニメに熱中し、16ミリ撮影機で何度も何度も試行錯誤をくりかえし、ついに彼が師と尊敬するオ

ブライエンに彼の作品を見てもらう事になった。そして「猿人ジョーヤング」のアシスタントとしてオブライエンと働くという幸運をつかんだ。準備段階からアニメ撮影終了までの素晴しい2年間であった。長らく待ち望んでいた夢が実現したのである。この作品は1949年に完成したものの評価は良くなく、オブライエンは次回作 THE VALLEY OF THE MIST の準備にかかったが、これも立ち消えとなってしまった。

そうこうしているうちにハリーハウゼンは第一作「原子怪獣現わる」（1953年）を手がける事になる。サタデイ・イブニング・ポストにのったレイ・ブラッドベリの小説から題名と怪獣が灯台を壊すというシークエンスだけを借りてきてストーリーを作りあげたもので、彼は安い費用であげるためにフロント・プロジェクション方式を開発して怪獣と実写を合成した。次の「水爆と深海の怪物」は1953年にスタートした。彼はそのころ16ミリで







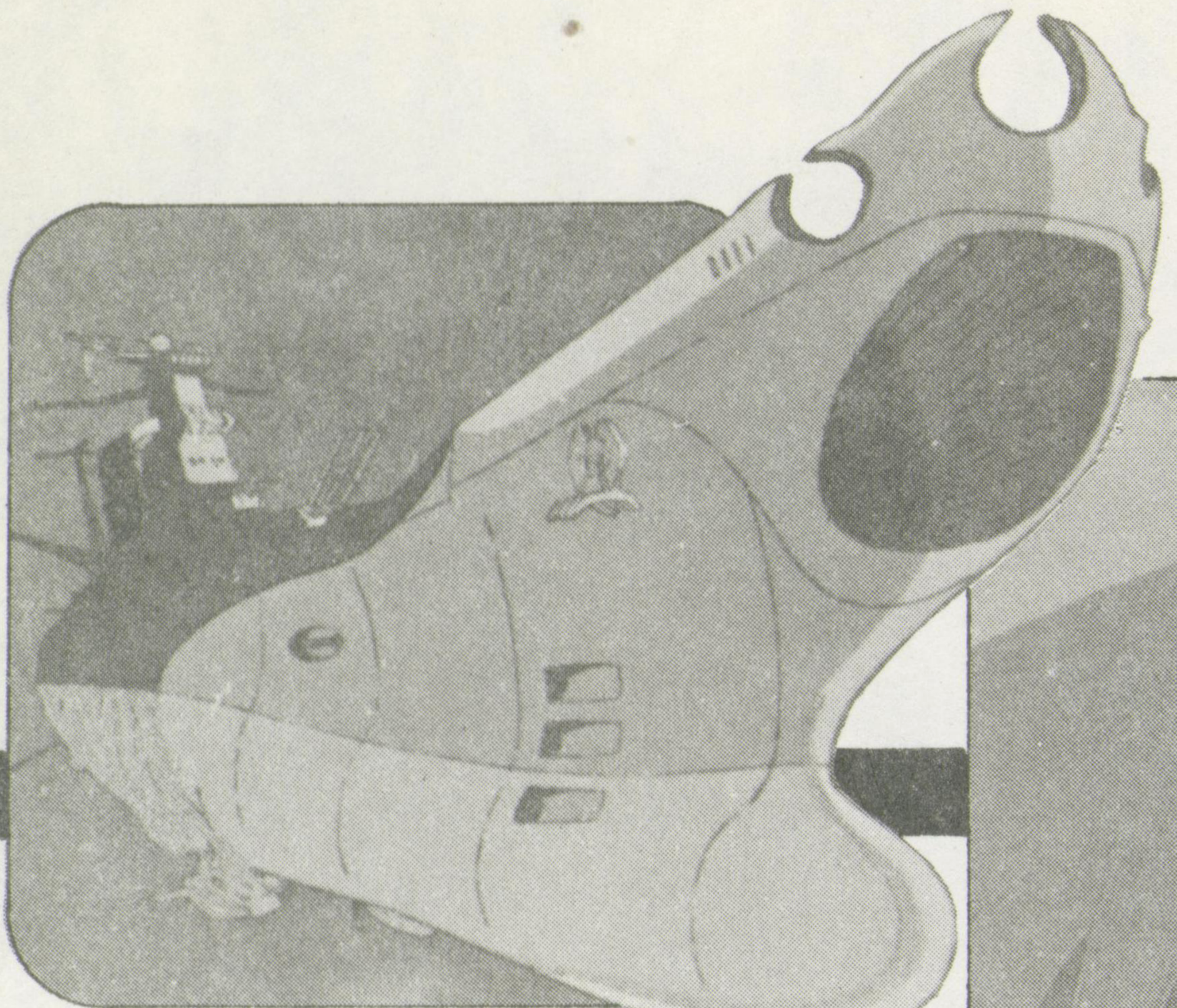
「兎と亀」の撮影をやっていた。古い海軍の友人から金門橋を破壊する巨大なタコの話を映画化したいと思っている若いプロデューサーに会ってくれと頼まれた。魅力的な仕事ではあったが技術的な難問が横たわっているし、やりかけの仕事をやりとげてしまいたかったので、そのプロデューサーに会うべきかどうか迷った。

結局、自分でもどういうつもりだったのかわからないと書いているが、彼に会う決心をした。これがプロデューサー、チャールズ・H・シニアとの初めての出会いになる。この作品がシニアとの最初のものになり以後ずっと二人のコンビによる特撮映画が作られていく。そのほとんどは、原案を彼がシニアにスケッチなどで見せて、映画化が決定すると、シナリオライターが加わってストーリーが練られていくといった手順をふんでおり、彼が作品の中で占める位置は単なる特殊効果担当以上のものがあるが、「アルゴ探険隊の大冒険」からは共同製作者として名前がタイトルにも現われるようになった。今年の正月映画「シンドバッド黄金の航海」でも相変らず、次から次へと息つく暇もなく見せ場を用意し、ダイナメーションを堪能させてくれた。

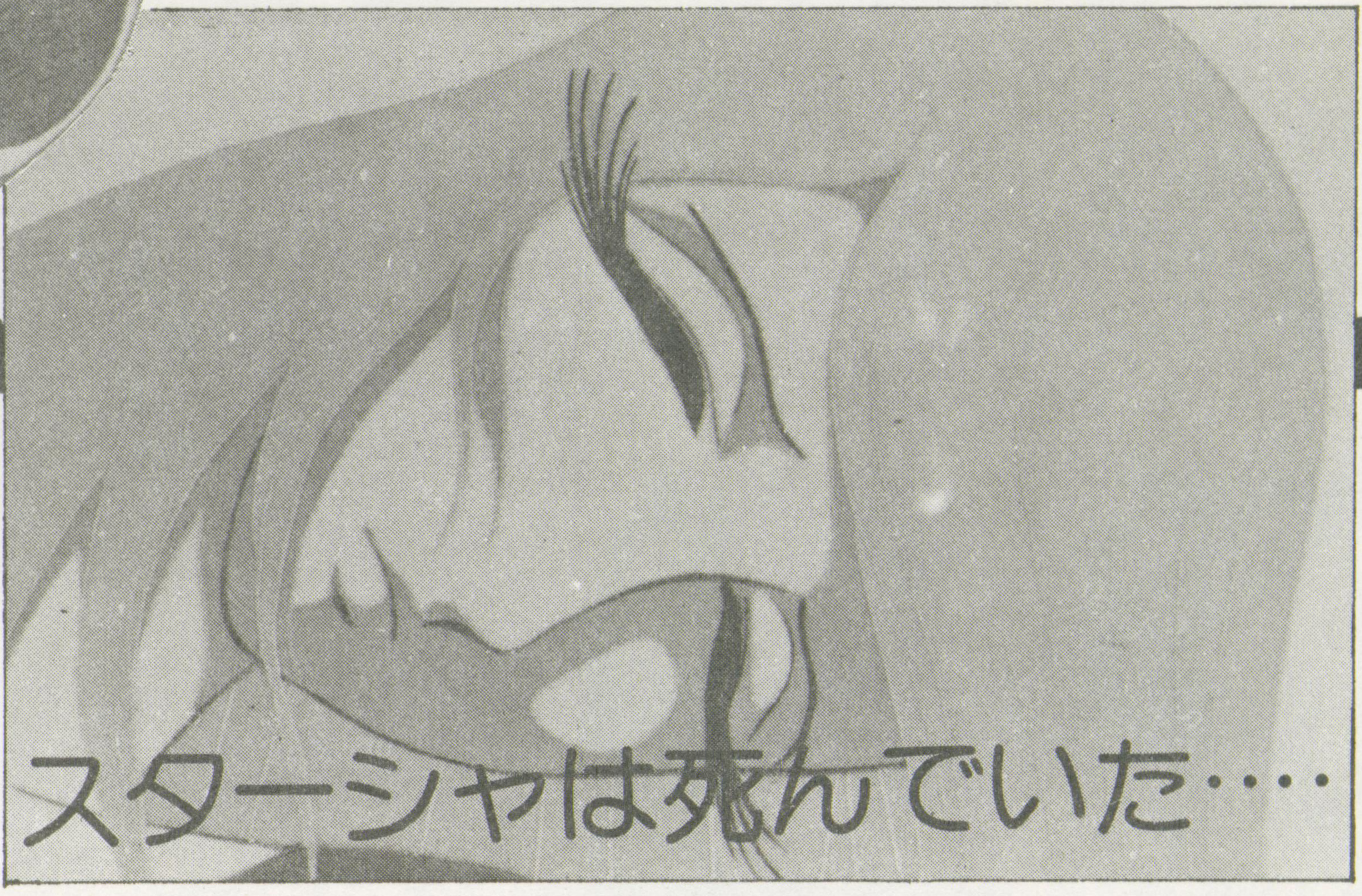
このダイナメーションとは人形を駒撮りでアニメートした画像と、人間がでてくる実写とをマスクを使って合成するテクニックに名付けられたもので、人間と怪獣とが丁々発止と渡り合うといった鮮やかなトリックを可能とする。漫画映画のアニメートと違い、人形アニメの場合は分業してマスプロ化する事ができない。撮影にはいると数人で最後まで人形を少しずつ動かしては駒撮りしていく。その動きの量は全く経験とカンに頼ったもので孤独で厳しい作業であり、二度と同じ動きはやれぬ、無から有を創造する奇怪な芸術である。彼は一作ごとにその創造の巾を広げていき、オブライエンが恐竜世界のリアルな再現にのみ執着して、作品にも恵まれず不遇のうちに没していったのと対照的に、自己の豊かなイマジネーションで自由な形の怪獣を生みだしていったが、「シンドバッド7回目の航海」（1958年）でダイナメーション方式を完成させるまでは、彼の技術を最高に生かす場を模索していたのであり、そのままで終わっていればオブライエンの域を少しも越えはしなかったであろう。「シンドバッド……」はまさしく、それまでの作品群と一線を画す驚異のイマジネーションの映像化であった。とりわけ骸骨とのチャンバラは、この方式によって圧倒的な迫力を生み出している。

（*Film Fantasy Scrapbook* 参考）

ANIMATION·NEWS



○戦艦"ヤマト"



スターシャは死んでいた….

○"サーシャ"

株式会社 サンリオ・フィルム 活動開始!

スヌーピーの人形や絵入りの商品を販売する日本の窓口、サンリオが最近やなせたかしの"詩とメルヘン"を出すとともにサンリオ出版を設立したと思ったら、今度はサンリオ・フィルムというアニメーションを中心とした、"家族向け"の映画製作会社を設立していた。第1作は「小さなジャンボ」という30分物のミュージカル・アニメで、作・演出はやなせたかし。9月に約1年かけて、完成したが、費用をなんと7,500万もかけたそうだ。その割に全然おもしろくないのにはコマッタものだ。

現在、長編アニメ・ロック・ファンタジー「メタモルフォセス」なる70%の作品を、なんとハリウッドへ日本スタッフが行って、アチラのアニメーターを使って制作中。音楽はボブ・ディラン/エルトン・ジョン/ジョーン・バエズ等が予定されている。大きいことはいいことだが、なんと大きなことか!……とにかく「メタモルフォセス」は来年の秋頃完成の予定。やなせ第2弾は「バラの花のジョー」。そしてもう1本、期待の「くるみ割り人形」これは1時間30分に及ぶ人形アニメーションで、現在パイロットフィルム制作中。本編の完成はやはり来年の秋頃。

サンリオ・フィルムという会社自体の上映活動(?)が、来年から本格的になるので2号、または3号でくわしくお知らせしたい。(H)

昨年10月から今年3月まで、本格SFとして、大人向けのTVアニメとして読売テレビ系で放映されていた「宇宙戦艦ヤマト」㈱オフィス・アカデミー作品。が今度、海外輸出セールス用に2時間に及ぶ長編に編集された。

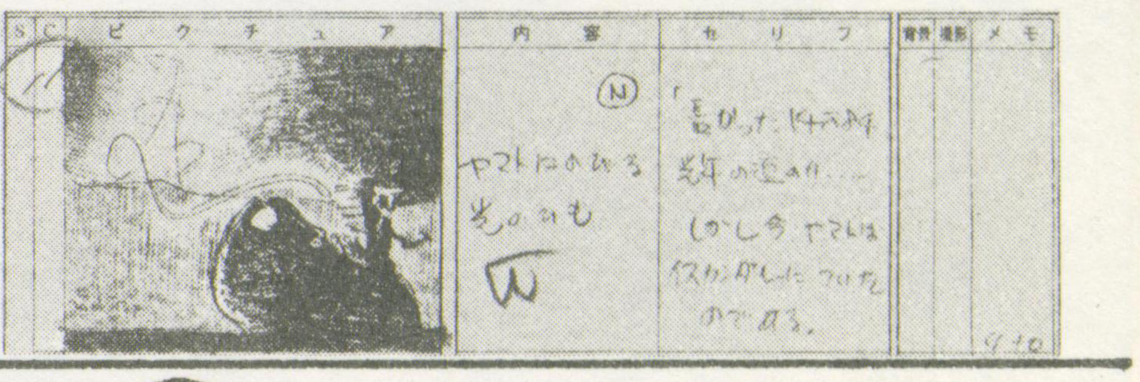
ハードすぎたスケジュールと製作費のオーバー等の理由で、39本の予定を26本に縮めてブラウン管から消えたヤマトは、監督 松本零二/監修 豊田有恒・山本暎一/演出 石黒昇と大物揃いの大作であった。

前にもこのプロデューサー・西崎義展氏は虫プロの「ワンサくん」を放送終了後、編集しなおして借出し用に長編を作り、今回もヤマトの見せ場を40分の中編に編集して民音が持ち回り上映をしているが、長編化にあたりTV放送時のラストの無茶苦茶な話しを大幅に手直ししている所が「うれしい」。

物語りとしてはイスカンダル星に着いた所を少し修正し、スターシャはすでに死んでいて、古代進とのロマンスも無く地球へ帰っていくというお話し。もちろん沖田は死に、古代と森がきっと結ばれ、地球も助かる。ハッピーエンドなのです。機会があればフィルムを見てみたい。

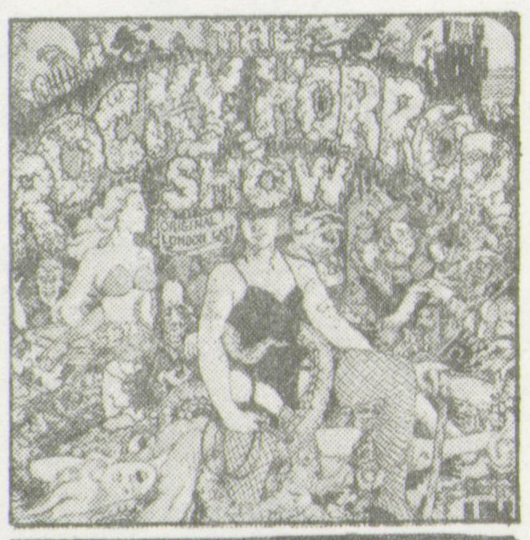
尚、これは西崎氏本人から聞いた話しではないので、どこへ、いつ、又、劇場公開(?)等わからぬことだらけです。今度チャンスがあったら聞いてきます。(H)

○沖田十三艦長



長編"ヤマト"のコンテ(石黒昇氏)○

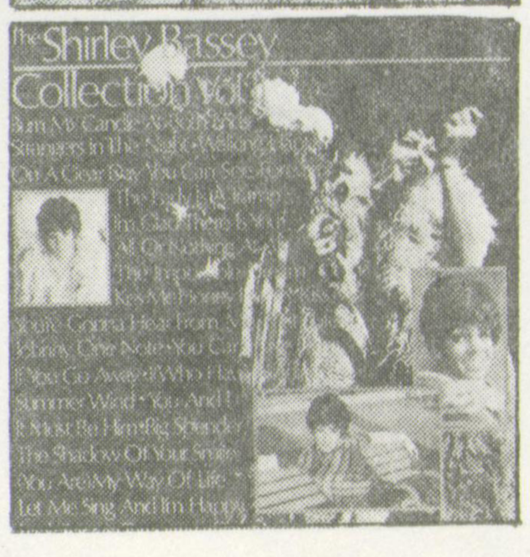
◎RECORD◎



ザ・ラッキー・ホラー・ショー
(ロンドン・オリジナル・キャスト)

この夏、大きな話題をふりまいたロック・ミュージカル「ロッキー・ホラー・ショー」のオリジナル盤。日本公演を見た後のコーフンさめやまぬ今、レコードで再び。生の迫力とまで行かなくてもホラームードたっぷり。来年になれば映画がやって来る!

キングーUKレコード SLC-544



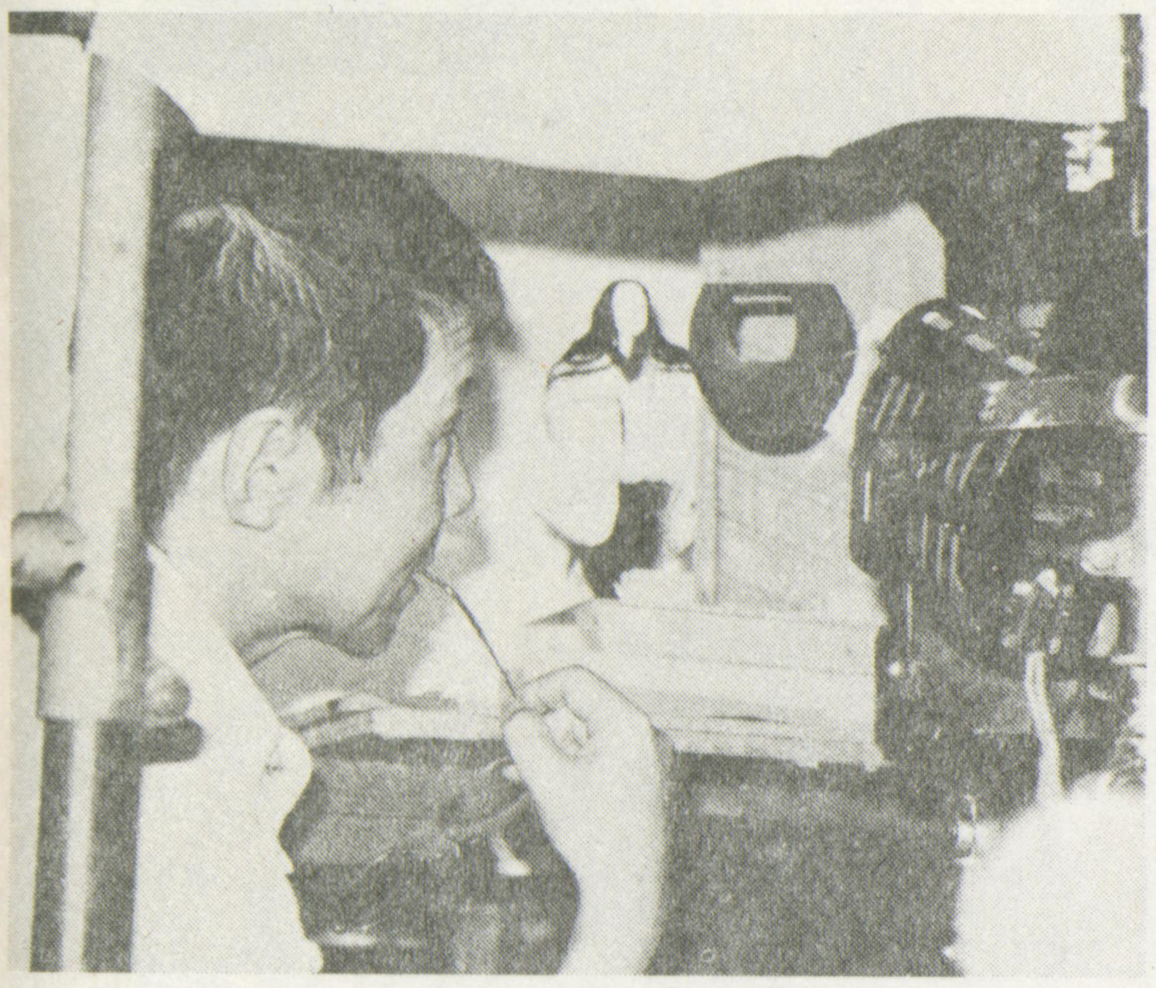
シャリー・バッシー/コレクション-2

007でおなじみのシャーリー・バッシーが10月下旬再度来日!映画ファンにも是非お聞かせしたい安心して聞けるアルバム。初来日の時に組まれた2枚組の続編、2なのです。全24曲収録。(来日記念盤2枚組)

キングーユナイトレコード GSW-25~26

続ラブ・バッグ 新春ロードショー!
JAWSも友情出演?

「ロビン・フッド」には、大変ガッカリさせられたが、"アニメがダメなら特撮があるさ"と、さっそうと登場したのがお正月映画「続ラブ・バッグ」で~す。全国ロードショー。又、お正月第2弾に「大自然の驚異」という今までの記録映画の総集編が公開されます。全部で13作品をまとめたものですが、その内8作品がアカデミー賞を受賞しています。そしてこの総集編は**文部省特選**です。(H)



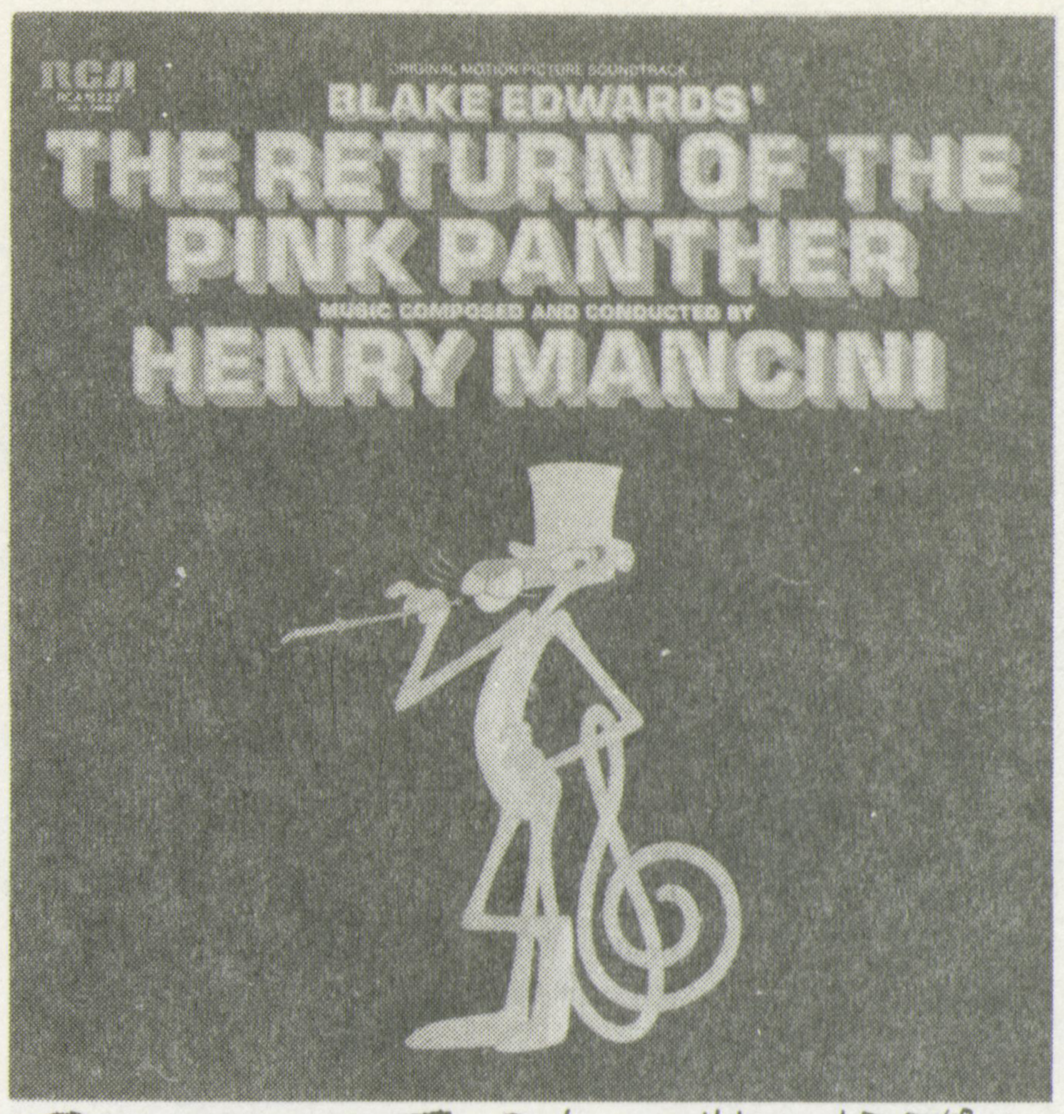
第4回 川本+岡本 パペットアニメーショウ開催！

川本喜八郎・岡本忠成　両氏の新作アニメと人形ショウを組み合わせた催し――「川本・岡本パペットアニメショウ」の４回目が間もなく、各地で公演される。

第１回目から従来のアニメ上映会の常識をうわまわる大量の観客が参加し、年ごとに趣向を凝らした催しでアニメーションというとらえ方をするものをはるかに越えた多様な観客がこのショウを楽しんでいる。

今年の話題の一つは川本氏の「花折り」が上映されることだ。これは昭和43年度の作品だが、パペットショウで上映されたことはなく、川本氏の自主制作の第１作だけに上映の機会が望まれていた作品だ。したがって現在制作中の「道成寺」は来年のパペットになるということでチョッピリ残念だが、一年がかり18分の大作となるらしいので楽しみに待ちたい。尚、来年の５回目で一応、パペットアニメーショウはお休みとなります。

川本氏が長編を作るためという噂があるが、いずれ再開されることは確実なので安心してほしい。お休みの間は、フィルムだけのショウが全国各地をまわる予定だそうだ。（N）



○オリジナル・サウンド・トラック盤○ RCA5222

ピンク・パンサー②特選！

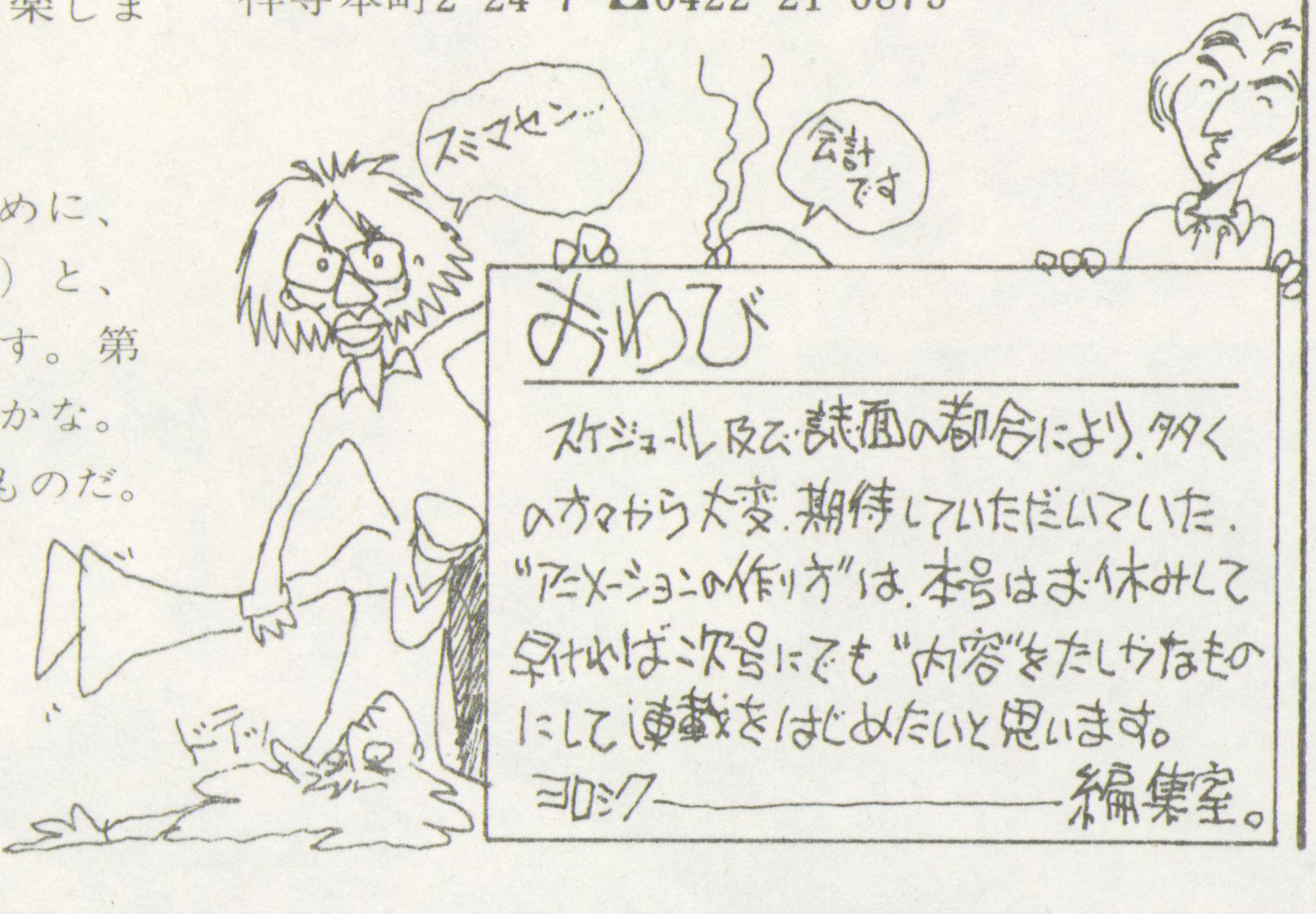
真黒いジャケットにピンクの豹がポーズをとってます。そうアニメファンなら誰もが知っている〝アノ〟ピンクパンサーが帰ってきました。が、残念にもタイトルだけの登場。ユナイト映画の配給で新春・ロードショー公開決定。これはそのサントラ盤。映画音楽の巨匠ヘンリーマンシーニ。収録曲は、昔々からの「ピンク・パンサー」に初まり……（ここでピンクパンサーを想い浮かべる）…「偉大なる贈り物」「ヒアズ・ルッキング・アウト・ユー」「ソー・スムーズ」「ピンク・パンサー２」等々全13曲。演奏はヘンリーマンシーニ楽団。

アニメモANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモ

手塚治虫氏が近日アニメに関するエッセイをまとめて出版するという。旧題が「ディズニーと私」というので、ウォルト・ディズニーについての話が、中心になるらしいがその他にもはばひろく、氏のカットと共に楽しませてくれるはずである。

月岡貞夫さんがファントーシュのために、ポール・グリモア（やぶにらみの暴君）と、コンタクトを持とうとしてくれています。第３号あたりに、グリモアの手記がのるかな。これを機に、世界の作家と交流したいものだ。

アニメ作家月岡貞夫さんの事務所が吉祥寺にオープンした。その名も「フィルム・マジックランタン」。月岡さんはここを拠点にアニメ制作を進めている。住所東京都武蔵野市吉祥寺本町2-24-7 ☎0422・21・6875



セルクレージー？

ここ１・２年ＴＶアニメのファンが増えている。ほとんどが中・高校生の女子で、特に最近はＴＶ局や製作会社づけ、ドラマの主人公あての〝世に存在しない人〟へのファンレターが多い。この辺は可愛いいが、その主人公の描かれている撮影用のセル画を〝収集〟するファンの多さには「負ける」。字も〝醜集〟と書いてもおかしくないくらいだ。

製作会社の中には「見学」と称してカッコ良く登場するセル収集家〝セルクレージー〟お断り！つまり「見学者」は一切お断りという所も出て来ている。中には、シナリオやコンテを当然のように持ち去って行く〝自称ファン〟のために、本当の意味で「見学」を望む人までも、各スタジオで観迎されなくなって来ている。見学に行く時は先に電話を１本。礼儀正しく。（NとH）

11月下旬の試写会へ先着50名御招待。

主演／オリビア・ハ

日本ヘラルド映画

暗闇にベルが鳴る

「ロミオとジュリエット」で日本に根強いファンを持っているハッセーの最新作。

ぼくもまだ見ていないのだが、彼女は、性的異常者である殺人鬼に執拗に狙われ、追いつめられていく女子学生を演じる。

つい先頃「らせん階段」という類似した恐怖映画にはガッカリしたが、監督のロバート・クラークが本年34才のこれが３作目という新人だけに多いに期待したい。

原題は　Black Christmas

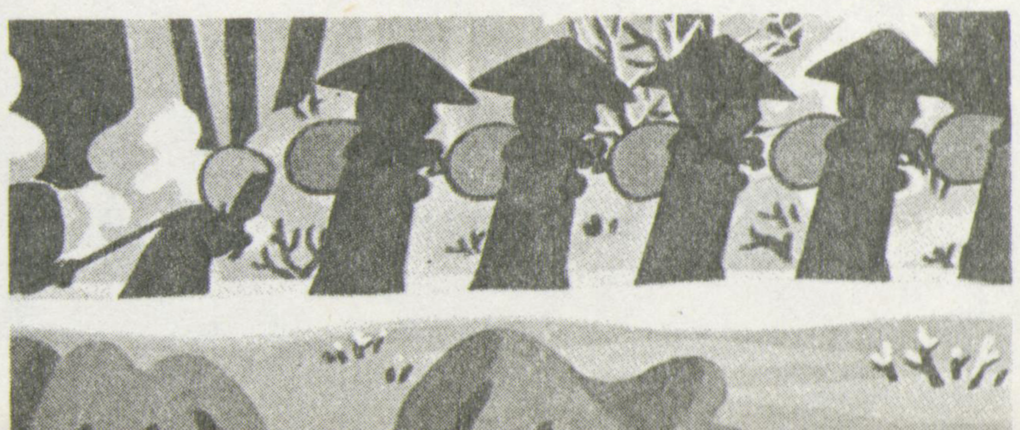
まんが日本昔ばなし

アト52本！制作スタート

今年の１月から３月まで、毎日放送で放送され好評だったグループ・タック（長編ジャックと豆の木）制作の「まんが日本昔ばなし」が、新シリーズ52本（放送は26回）の制作に入っている。オンエアは、来年１月か４月とまだはっきりしていない。

この作品が好評だったというには、なじみのあるストーリーと、アニメーター達が好きな様に作っていた事などが理由に上げられるのではないでしょうか、まっとにかく新シリーズに乞御期待。

尚、すでに６枚のＬＰ（東芝ＥＭＩ）と、家庭用の８mm、16mm（ヘラルド）が発売されている。（H）



笠地蔵

あなたも上映会を…の1
「波の彼方のアニメーション」

あなたの身近なところで、それも割合簡単にフィルムが借りられるのを御存知でしょうか。条件さえ守れば無料で貸してもらえます。今回は…の1として、各国大使館等のフィルムライブラリーを中心に御紹介したいと思います。

フィルムを貸りるには――

遠方の場合を除いて、手続きは原則として上映予定日の二週間前迄に直接大使館に出向いて行ないます。（行く前に先方に電話をした方がよいでしょう）そこで、用意された書類に必要事項を記入して下さい。各大使館によって多少の違いはありますが、必要事項の主なものは。

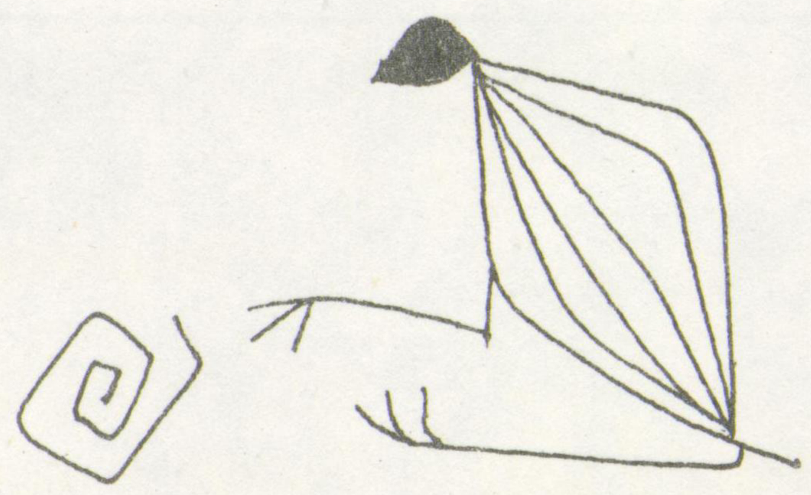
●希望するフィルム　●団体名
●主催者(責任者)名　●上映予定日
●上映場所　●上映目的
●観客対象　等を上映前に、また
●観客人数　●フィルムの状態

等を上映後に書類に記入して下さい。フィルムの受け渡しは原則として上映日の前日です。また、できるだけ多くの人に見てもらうために無料で貸し出されているのですから、必ず学校・サークル等の団体で見るようにしましょう。なお、入場料は絶対取ってはいけません。

フィルムを取り扱う際には――

●必ず手を洗い、その上に手袋を使用してフィルムのエッジを持つようにする。
●絶対に床にたらしてはいけない。
●映写機の操作は、資格を持った人がすること(動いているときもチェックする)
●万一、フィルムを破損、切断等した場合は、その個所がわかるように、目じるしの、白い紙等をはさんでおく（まちがってもセロハンテープ等でつないではならない）。
返却の際には破損した旨を必ず伝える。
●映写機の管理、保守、フィルムの管理等は厳重に。また、フィルムの中味とケースとをまちがえぬように。

ここに掲げた、フィルムの扱いにあたっての注意は、大使館のフィルムに限らず、これだけは最低限覚えておいて下さい。



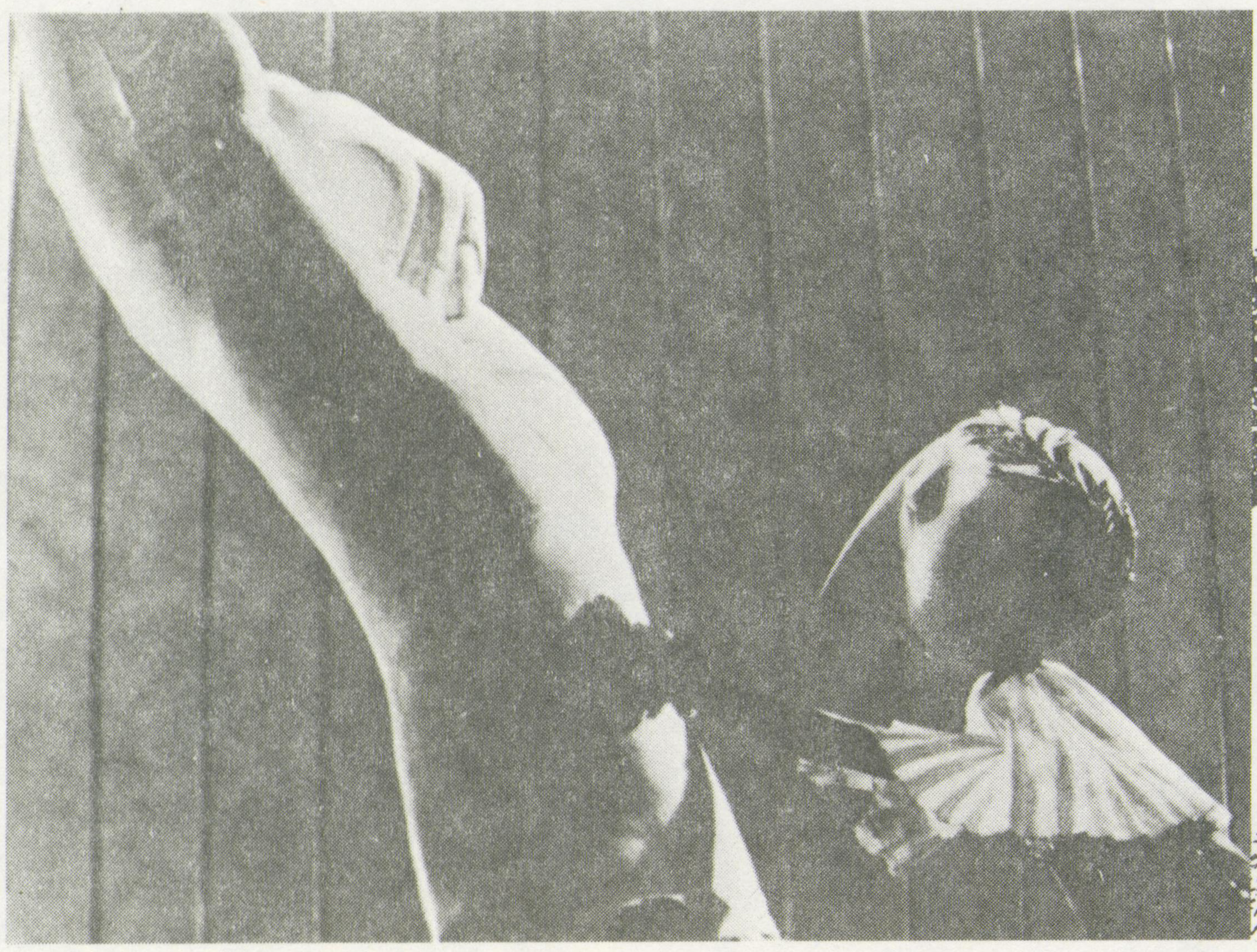
カナダ「ブリキティ・ブランク」

ベルギー「シレーヌ」

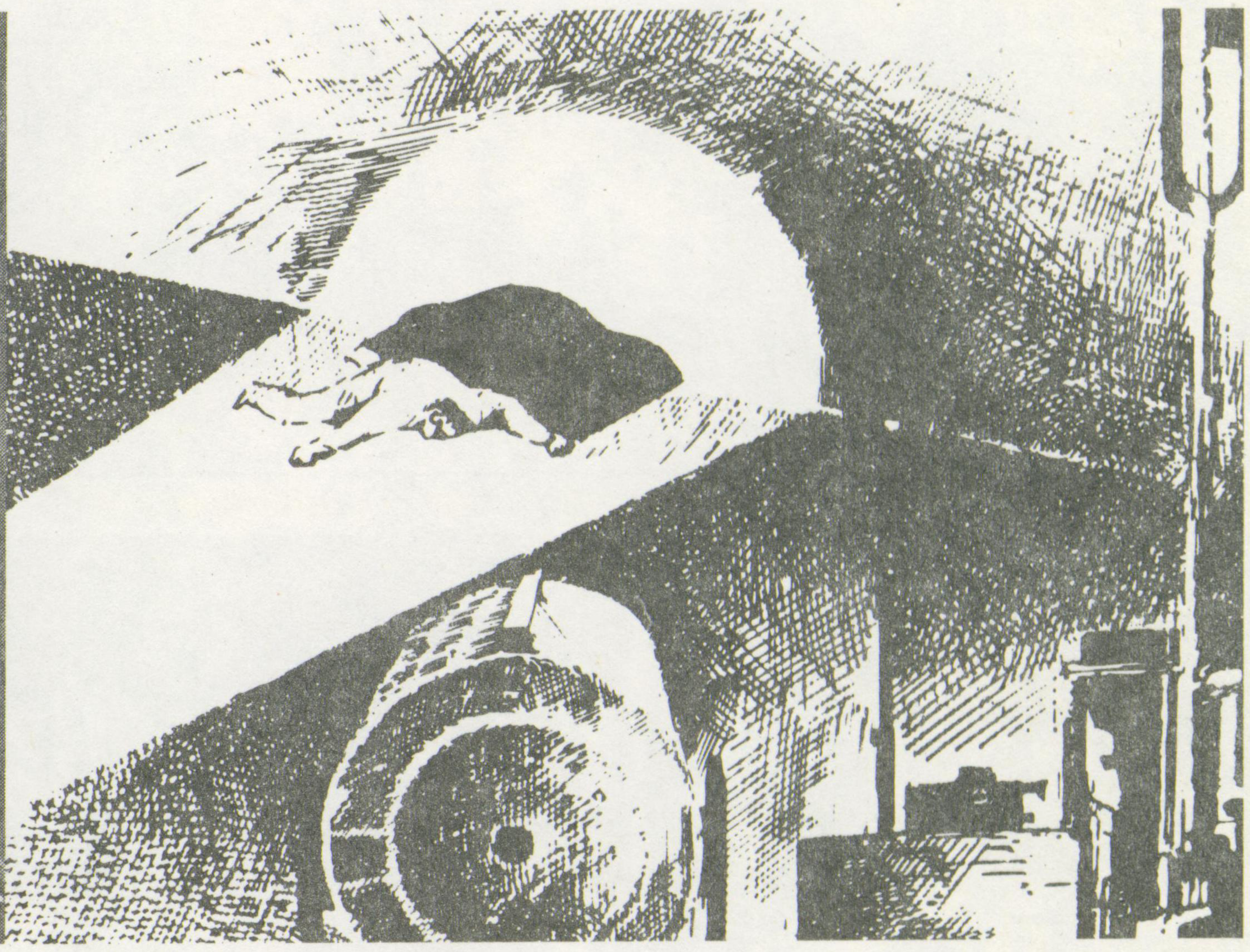
★大使館に電話をかけますと、ワケノワカラナイコトバ（大低は英語）で返事があることがありますが、あわてず、I can not speak English とはっきり言えば、日本語の話せる人に代ってくれます。貴重なフィルムを貸りるのですから、応対はあくまでもていねいに。

詳しいフィルムリスト等は、大使館に問いあわせるか(行けば大低見せてくれます。) ファントーシュ編集室まで。

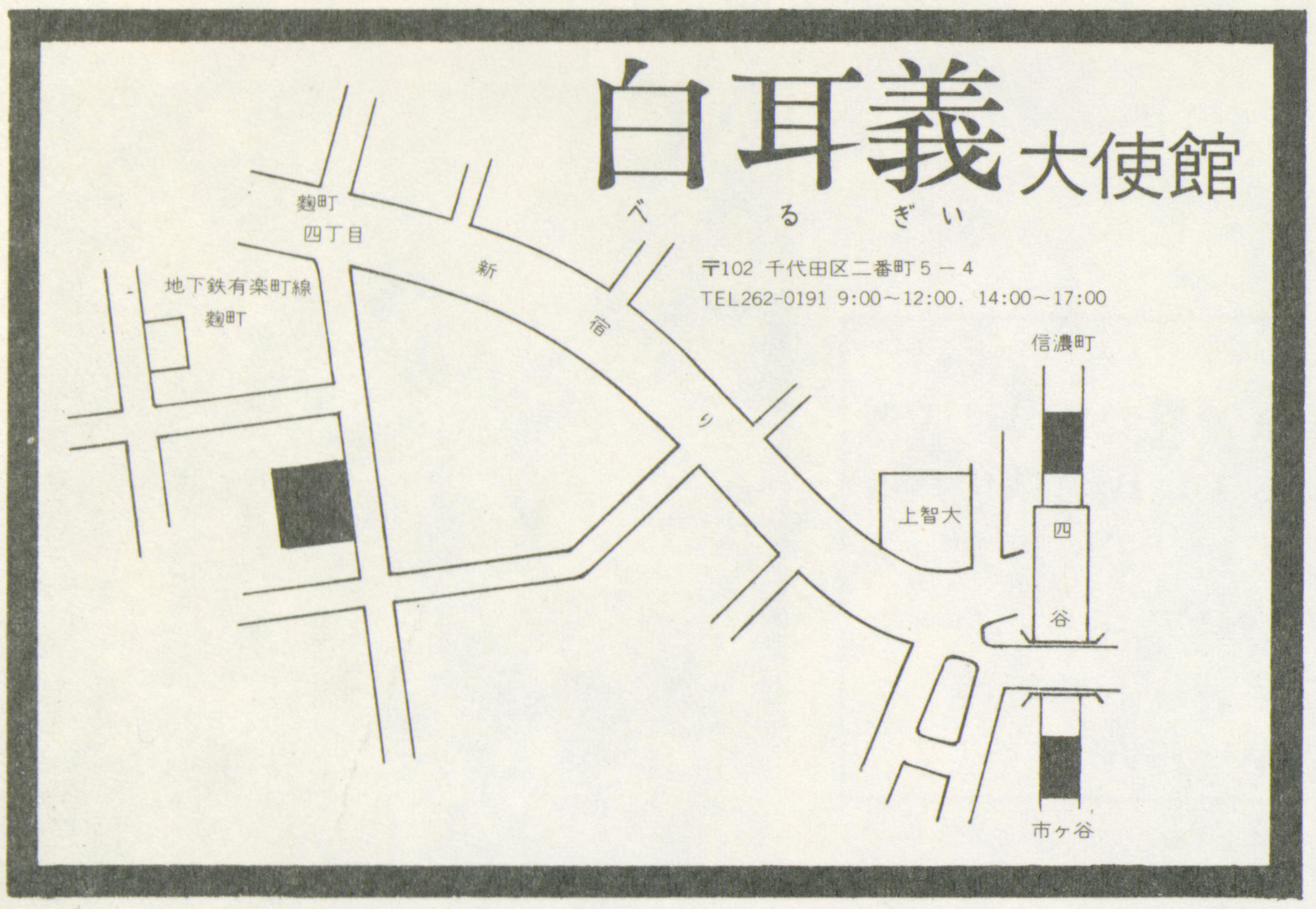
この他にもどこかにアニメがあるかしれない。さがしてみよふ！

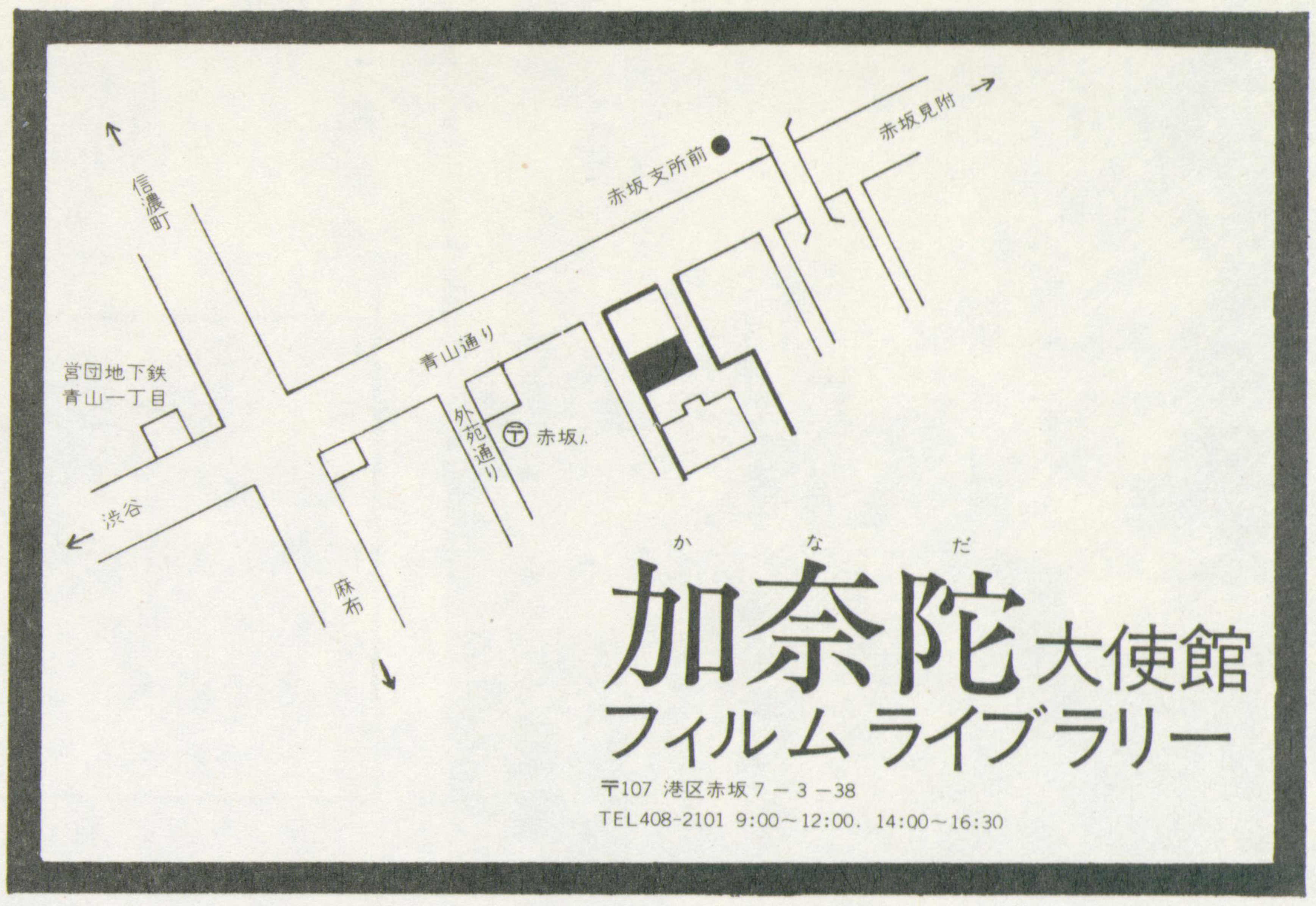


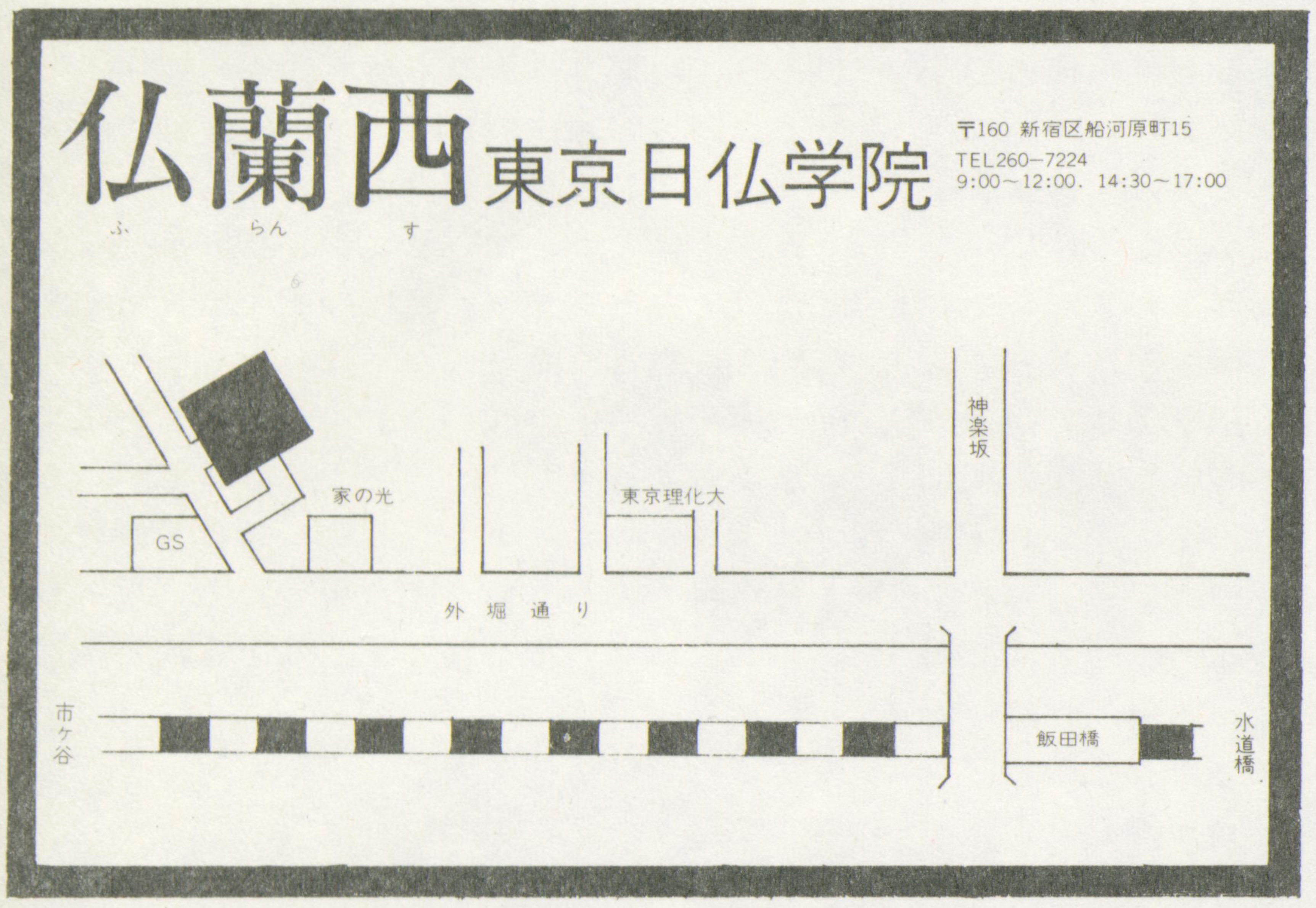
チェコ「手」

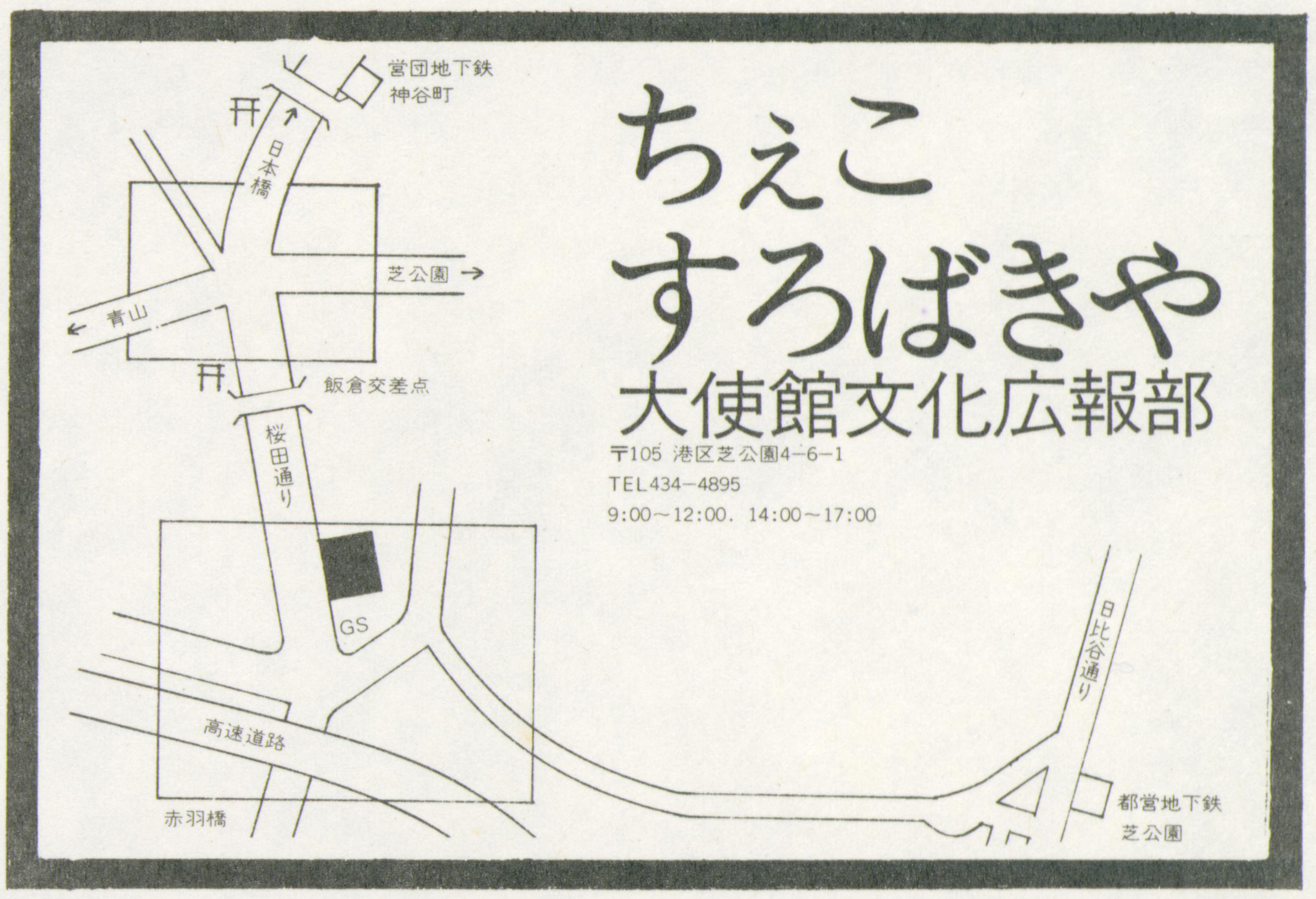


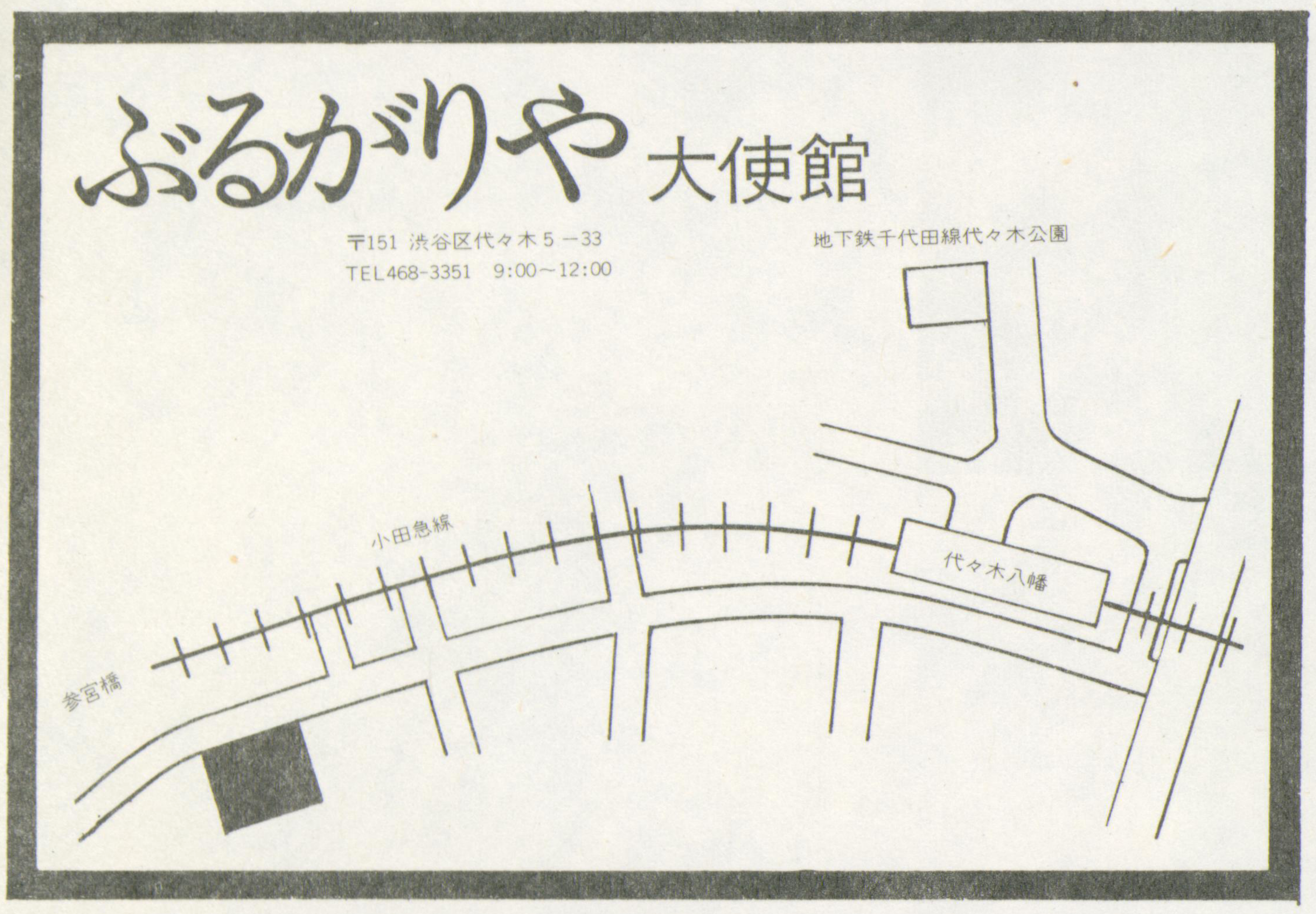
ベルギー「ゴールドフレーム」



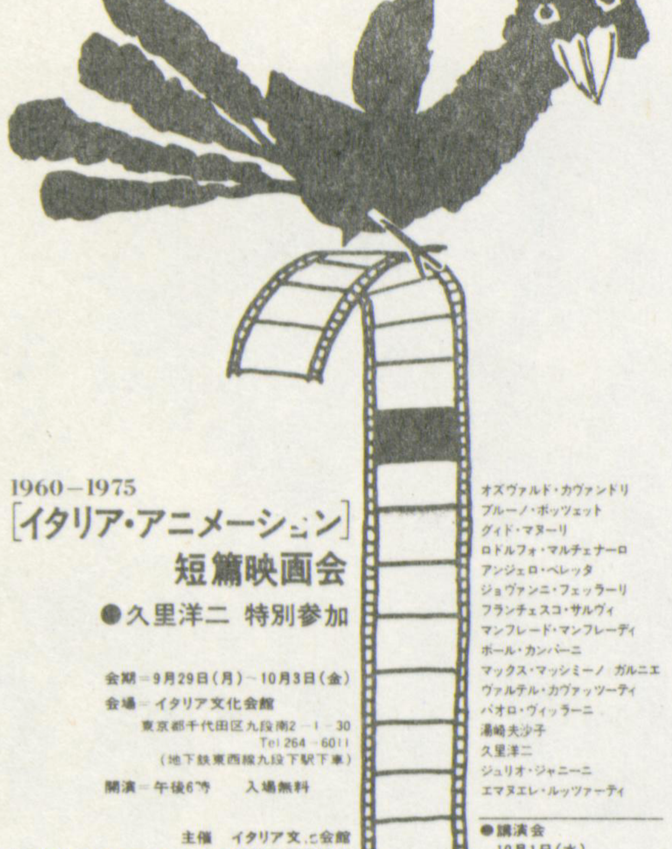






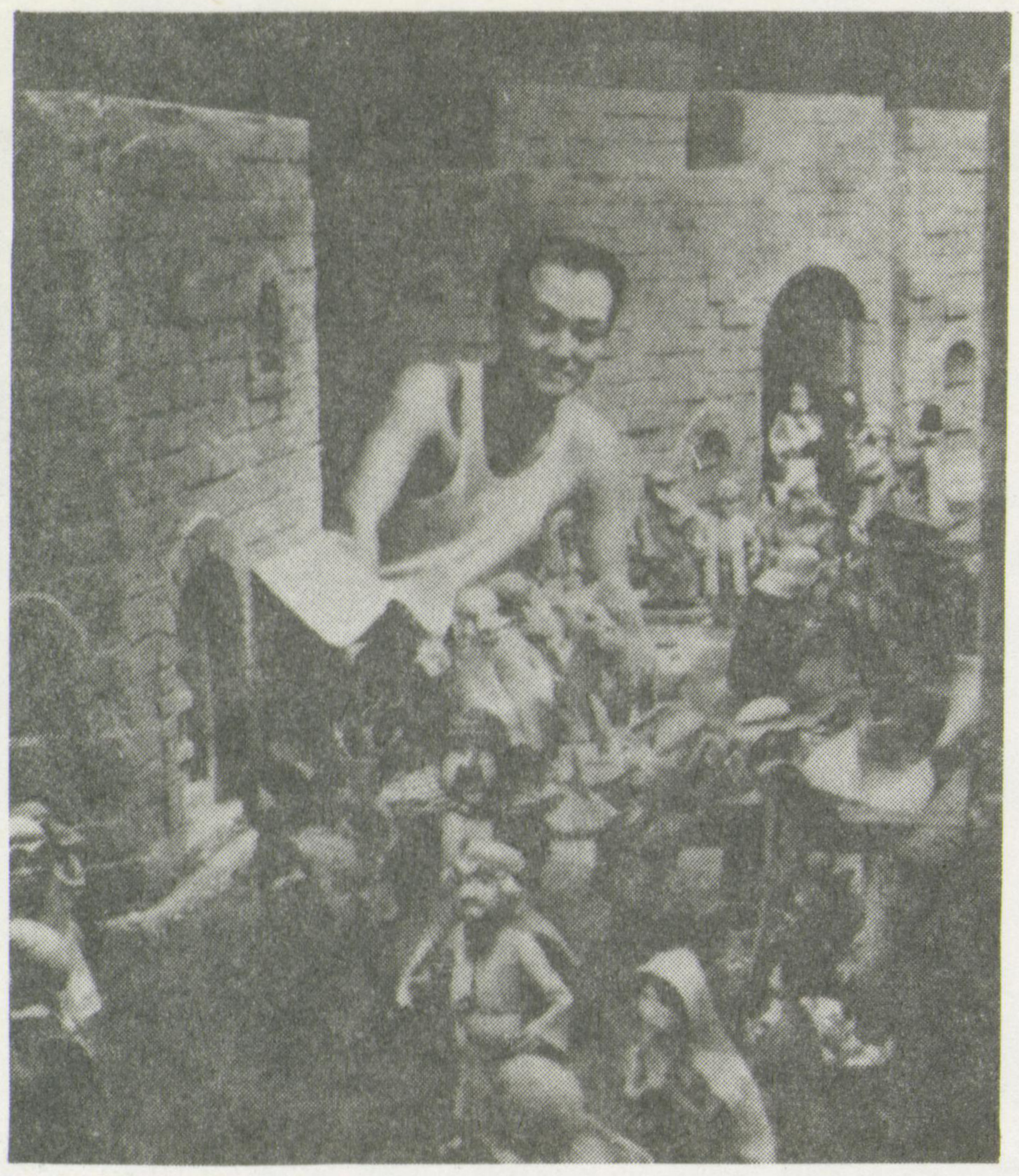


アニメモANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモ アニメモANI



イタリア・アニメーション短編映画会が、イタリア文化会館の主催で行なわれた。これは9月29日から5日間毎日日変りで上映するもので、ブルーノ・ボゼット、ジュリオ・ジャニーニら有名作家の作品や日本に未紹介の作家の作品が大量に上映された。新聞などに小さくのっただけなので観客は少なく、35㎜フィルムで無料という良いことづくめのこの上映会を見のがした人が多い。

仏・アヌシー・アニメフェスティバルで特別審査員賞を受賞した「驚き盤」の作者、古川タク氏が9月19日から10日間、池袋西武4F〝ウェスト・ビレッジ〟で受賞記念展を開いた。フェナキスト・スコープの実物を始め自作のコミックス「マンホールマン」シリーズなどの展示の中で「驚き盤」など6本の作品が上映された。



日本人形アニメーションの歴史　（1）

文・中村武雄

中村武雄氏
日本人形アニメーション界の草分けである持永只仁氏に師事して、氏と共に数々の作品を手掛けた。現在「くるみ割り人形」(サンリオ）のチーフアニメーターとして活躍中。また自主製作も進行中とのこと。どちらも完成が待たれる。

さんぼとその両親の人形

水源は何処迄逆のぼって、その源流と定めるかは却々むずかしい。1935年劇映画「かぐや姫」〈演出・田中喜次・青柳信雄、撮影・円谷英二〉の中で昇天する牛車の牛の人形の置き換えアニメーションを担当した政岡憲三（森卓也・メリーゴーギャグ８）の例が戦前にあったそうだが、駒撮りに依る人形映画が一ツの流れとして現在に続くきっかけとなったのは1953年（昭28）人形芸術プロダクション、略称ＮＧプロのビールジョッキを擬人化した「ほろにが君とみつ子さん」のＴＶＣＦと言えるのではないだろうか。このＮＧプロは「三匹の子豚」など一連の人形絵本を作っていた飯沢匡の主宰するもので、人形を動かしたいという夢を持ち続けていた彼の前に中国から帰国した持永只仁が現われたことに依って出発したものであった。

持永只仁は、本来動画畑の出身であり「桃太郎の海鷲」などのスタッフとして活躍しており、戦災にあったり、身体を悪くしたりして、両親のいる満州へ戻り満映入社、そして終戦。満映の機材・設備を接収した中国共産党に木村荘十二、内田吐夢等と共に召喚され、アニメーションの教授ー映画スタッフ養成とあわせて、フィルム企画・製作にあたっていた。

中国は旧くから人形劇や影絵劇が盛んで、新中国に於てもこれを啓蒙活動に利用していたが、何としても人形・セット・操作者等と世帯は大きく、山村工作の巡回には不向きで、映画の普及には抗すべくもなかった。当局の要望もあったりしてこれら伝統芸能をフィルムにとり入れてみたものの舞台のものは所詮舞台のもの。フィルム作家としては何とも不満足な点が多すぎた。たまたま目についたデッサン用の関節のついたモデル人形にヒントを得て、工夫を重ねて試作したものに依って駒撮りに依る人形映画＝人形アニメーション映画を創りはじめたが、材料など殆どなく、全て自製。関節なども、当初フィルム現像液の底に溜まる銀粒を集めて溶解し、銀線関節を作ったりしていたそうだ。後、チェコと連絡がとれ、アニメーション用人形を送ってもらったりした所、関節構造など、殆ど同じだったとのことである。これらの作品は却々好評で、日本に帰国して来たとたん、飯沢匡をはじめとする誘いの手が幾つか伸びたが、当初の人形芸術プロダクションという型となっ

持永只仁氏

て現われたものであった。「ミツワ石鹼」「ビールむかしむかし」など、Ｃ・Ｆのみならず、長編の人形アニメーション映画なども企画し、箱根あたりの旅館で、相当の詰め迄いったこともあったそうだが、持永只仁が1955年（昭30）人形映画製作所を創立するため、人形芸術プロダクションを離れたことに依って実現せずに終りとなり、当のＮＧプロも1958年（昭33）シバプロダクションと名称を変更して新発足して後、現在迄もＣ・Ｆ専門のプロダクションとして独自の道を歩まざるを得なかった。（以後Ｃ・Ｆに関しては私の関知するところではない。あれは別の世界のものだ。）

持永只仁の人形映画製作所は、児童文化としての、駒撮りに依る人形劇映画の製作を特色とし「うりこ姫とあまんじゃく」を初めとして９本の作品を発表したが、比のうち「ちびくろさんぼのとらたいじ」が、1958年(昭33)度カナダのバンクーバー国際映画祭児童映画部門で最高賞を受賞した。これは(株)人形映画製作所という一つのプロダクションとしての単なる名誉としてだけでなく、日本の人形アニメーション映画の世界に一時期を画したと言い得ることがらを招来することになった。このことについては後述することにする。

1953年（昭28）人形芸術プロダクション

53'ほろにが君とみつ子さん	1分	持永只仁
ミツワ石鹼	1分	〃
57'ビールむかしむかし	17分ＰＲ	〃

1955年（昭30）人形映画製作所

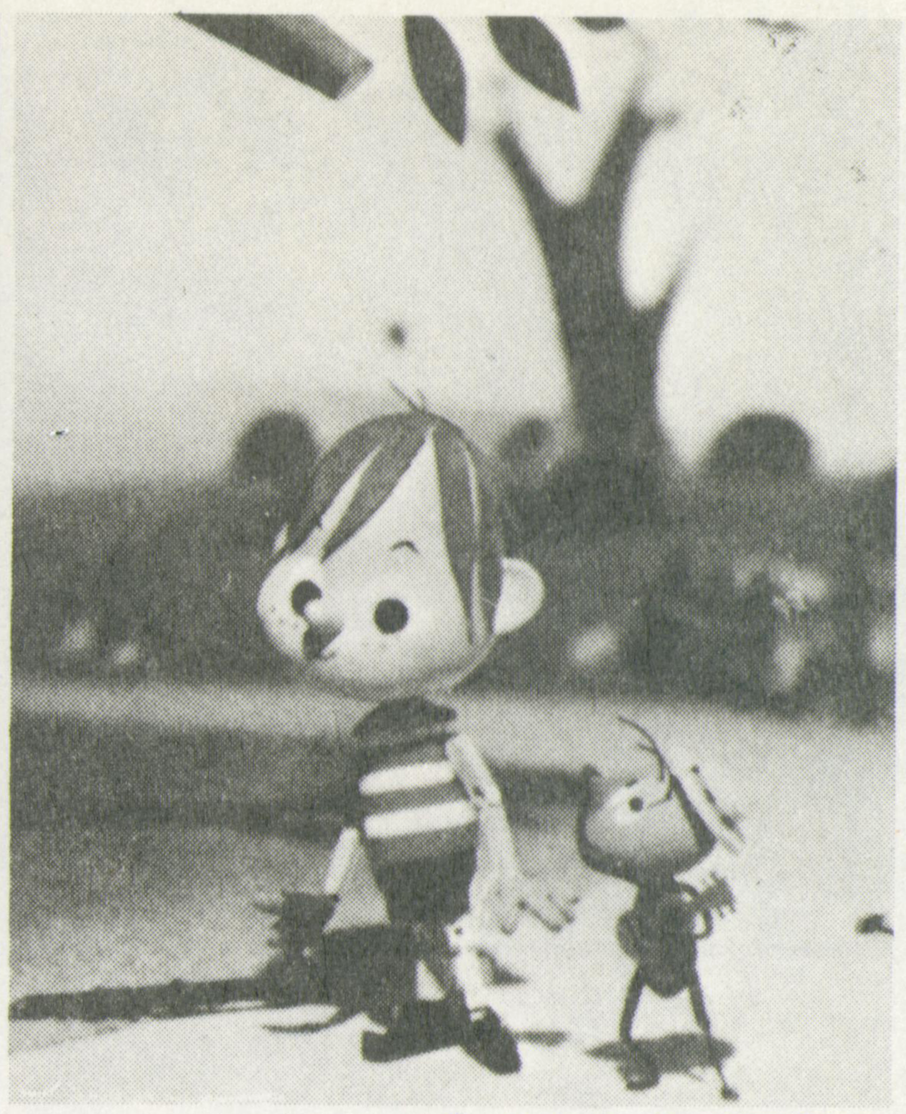
55'うりこ姫とあまんじゃく	17分	持永只仁
56'五匹のこざるたち	18分	〃
57'ちびくろさんぼのとらたいじ	17分	〃
58'ちびくろさんぼのふたごのおとうと	18分	〃
59'こぶとり	18分	〃
59'ペンギンぼうやルルとキキ	15分	〃
60'ぶんぶくちゃがま	13分	〃
60'王様になったきつね	15分	〃

「ビールむかしむかし」

「うり子姫とあまんじゃく」

左から、ソール・バス、持水氏、アーサー・ランキンJr.

「ルドルフ物語」



「ピノキオの冒険」

1957年（昭32）学習研究社＝学研が人形アニメーション映画の製作を開始した。

技術面では持永只仁の人形映画製作所のスタッフの指導とその方式に依り始められたもので、「こざるのぶらんこ」を初めとして1973年（昭48）「人魚姫」に到る迄、年間２本のペースで製作して来たが、その「人魚姫」を最後として、現在人形アニメーション映画は作られていない。

一年遅れて1958年（昭33）に人形劇団プークを脱退した高橋克雄が学研の場合と同様に持永只仁の人形映画製作所方式での人形アニメーション映画の製作プロダクションを設立した。現在の中央プロダクションがそれであって、地味な製作活動を続けている。

1958年（昭33）バンクーバー国際映画祭で受賞した「ちびくろさんぼのとらたいじ」は、人形映画製作所に、アメリカのＴ・Ｖ用シリーズ「ピノッキオの新冒険」５分もの、１３０本の仕事をもたらした。

アメリカのプロデューサー、アーサー・ランキン・ＪＲがカナダで「ちびくろ…」を観て、下請け発注を持ち込んで来た訳。「ピノッキオ…」を皮切りに、長期の契約関係を持ち続けたいということなので、なおさら事は重大且つ深刻。人形映画製作所でアニメーターを養成していたとはいうものの、一人前といえる迄にはまだまだ。他は推して知るべし。引き抜こうにも、引き抜かれるアニメーターが皆無の有様だった。

動画と異なり、分業が効かない人形アニメーションの場合、アニメーター１人と助手１人程で殆んどの作品が消化されてしまうので余程多量の需要が無ければアニメーターは育ちようがない訳なのだ。

とも角、これを消化するために1961年（昭36）三人の経営者（持永只仁、大村英之助、松本西三）の頭文字をとって名付けた「Ｍ・Ｏ・Ｍプロダクション」が創設され、人形映画製作所をこれに吸収合併し、社員数１２０人に及ぶ人形アニメーション映画下請け工場が出現したのである。

どうあろうと、日本での人形アニメーション映画史のモニュメントとして特記しなければならないＭ・Ｏ・Ｍプロダクションも「ピノッキオの新冒険」「ウィリー・マックビーンの冒険」の二作品だけ。そのうち「ウイリー…」は、まだ人形アニメーションの在り方が経験としても不確かであり、未開分野として残されていたところに、メインスタッフとして、旧独立映画運動畑の人達に依ってある種の製作システムが導入され、作品の検討に検討を重ねる長い準備期間と、テストフィルムの一部をクランクしたのみで1962年の暮全員解雇、会社閉鎖という仕義になってしまった。経営のズサンと、創造者としての姿勢の欠如が主な原因といえるだろう。しかし、依然として会社の主体は存続するものであり、仕掛かり品の「ウィリー…」を含め1967年（昭42）迄の間に、90分もの３本、50分もの２本、計５本を製作して、名目上Ｍ・Ｏ・Ｍプロダクションは消失した。

1961年（昭36）Ｍ・Ｏ・Ｍプロダクション

61’～62’　ピノッキオの新冒険　5分　130本
持永　只仁　太田サトル　井出　邦彦
大町　繁　岩瀬　啓子　田畑　博司
山本　健　郷田　三郎　園　哲太郎
真賀里文子　中村　武雄　及川　功一
岡田　甲　岡本　忠成

62’～63’　ウィリー・マックビーンの冒険
90分　持永只仁　田畑博司
劇場用　及川功一　中村武雄
岡本忠成

64’　ルドルフ物語　50分　ＴＶ用
持永只仁　田畑博司
中村武雄　真賀里文子

66’～67’　マッド・モンスターパーティー
90分　太田サトル　中村武雄
見米　豊　真賀里文子
園哲太郎

67’　スモーキーベアーの唄　50分
持永只仁　真賀里文子
田畑博司　中村武雄

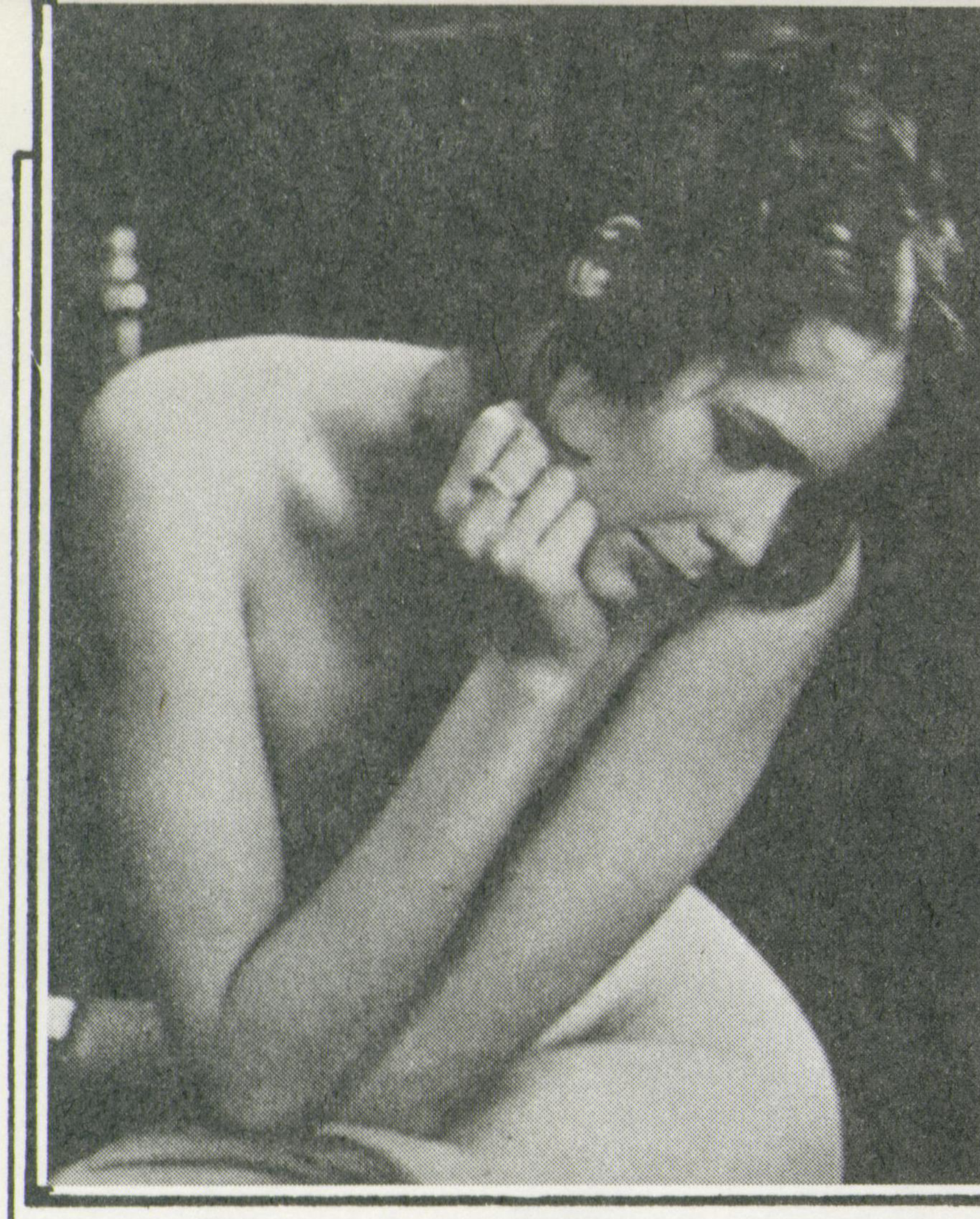
㊟　東中プロは、現在自主作品「野ばら」を製作中。

「おかしなおかしなモンスターパーティー」

東中プロ　「かぐや姫」

学研　「海ひこ山ひこ」

CINEMA & RECORD



本誌ファントーシュの創刊のおくれが大部このページに影響しまして、つめ込んだりけずったり。ドタン場になってヒドイ目にあいました。おかげで原稿も新たに新作を見て書き直したしだいです。

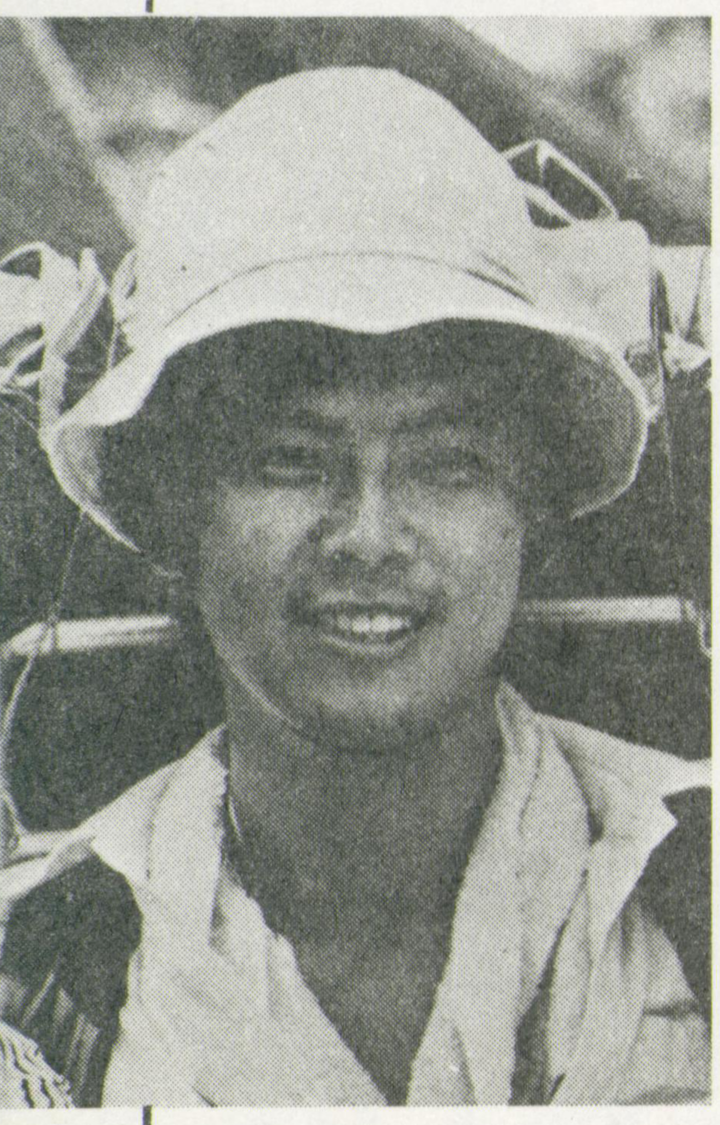
スペースの関係上、ゆっくり書けませんが是非、「レニー・ブルース」は見ておいて下さい。いい映画ですョ……。

さてさて正月公開作品で目ぼしきものは、ぼくの好きなクリステル――そう！「続エマニエル夫人」でもプリントがまだ輸入してないのでストーリーは見てのお楽しみ〜〜。お次はコメディ、短編アニメでおなじみ「ピンクパンサー」の本家、劇版の続編「ピンク・パンサー２」これも見てないので乞御期待。みんなでみにいこうネ、オープニングはアニメですョ。さてアクション物をさがすと――「フリックストーリー」ですが、チョットおとなしい。ドロンの映画と言うよりもトランティニアンの映画って感じ。

もう１本は、ロバートレッドフォードの「コンドル」これはもうＢＧＭにうなされて画面にグイグイ引きこまれちゃった。わりとおもしろい！試写の後、１人が「わからん」といっておったが、いいじゃない、楽しければ。正月だもんネ、サントラはキャピトルから11月20日発売。

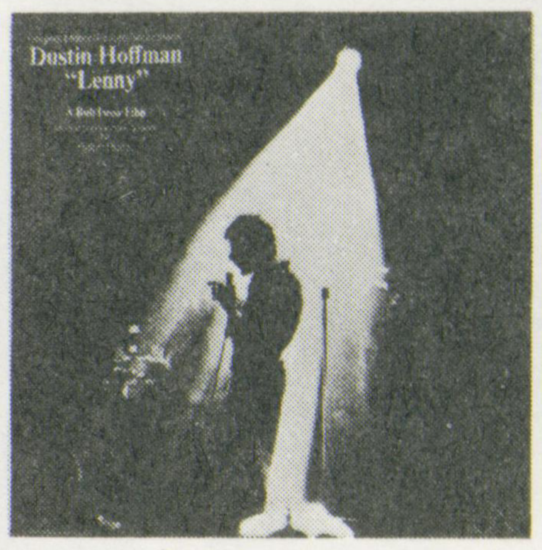
サスペンス物、「ヤング・フランケン」が１ヶ月ぐらいで落ちれば正月映画になるオリビア・ハッセーの「暗闇にベルが鳴る」これも期待しましょう。

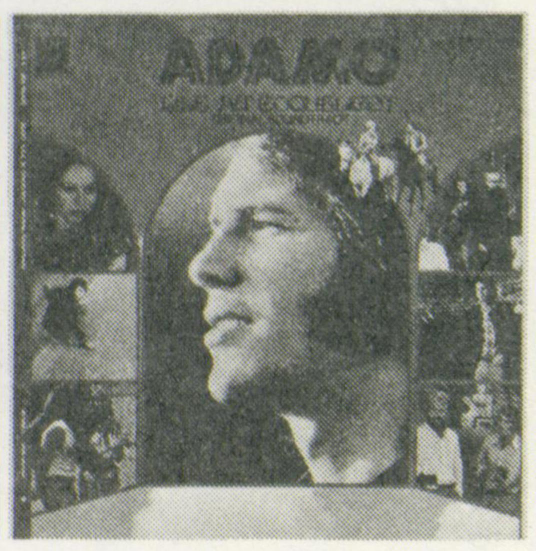
「ＪＡＷＳ」はどうせぼくごとき青年には見せてくれないから、３番館で見よっと！



陽のあたる坂道（東宝）

レニー・ブルース





○オリジナル・サウンド・トラック盤○

レニー・ブルース（LENNY）音楽ラルフ・バーンズ　ＦＭＬ－45
語りダスティン・ホフマン／演奏マイルス・デイヴィス（Ｂ－６）

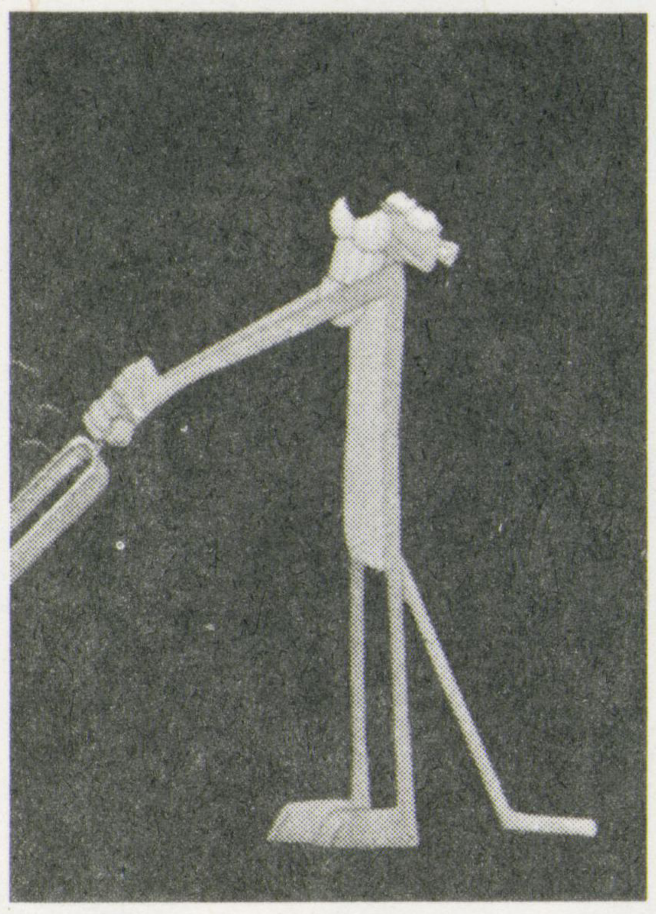
実在した人、レニー・ブルースのすべてを語っているわけではないのに、ホフマンの好演が重みを増しているのか、やけに重い。又、ホフマンの演技を感じさせない演技が、ハダになじむ。そして全体をカバーしているのがラルフ・バーンズ。レニーの名言集ともいえる "Dikes""ToCome""Niggers"の合い間に、'51年〜'66年代のジャズを聞かせてくれる。セリフとBGM、半々といった構成のアルバム。

尚、カサブランカ・レコードより本人のＬＰが発売されている。

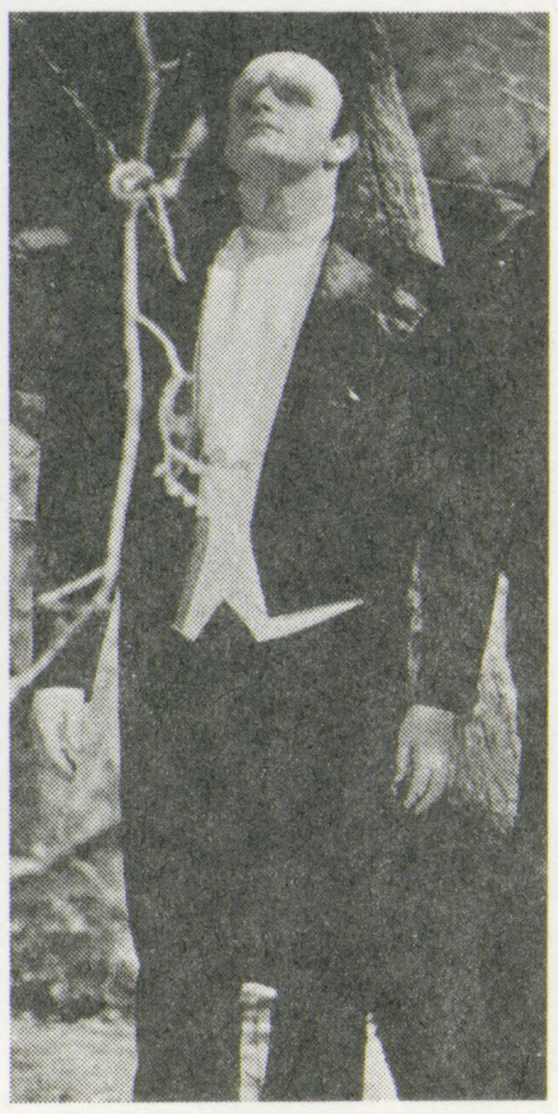
アダモのひなげしの島　　　ＥＯＳ－80326

製作・監督・音楽・主演と１人４役もアダモがやってのけた、フランスＥＭＩフィルム作品のサントラ。

アダモ・ファンには必聞のアルバムだろう。映画も見てないし、アダモ・ファンでもないので何も言えないが、聞いてて楽しくなる事はまちがいない。



ピンクのモンスター"ギーギーギー"



スケベなモンスター"ン〜"

のれる曲ならなんでも好きになってしまうこのぼくだけど、ロックとなると１つカベにぶちあたって耳に入ってくるような気がする。

かすかではあるが、ロックというジャンルにはまだ、とけこめない。でもシンセサイザーをチョットでも使ってると聞くと、気になってしまうのである。

ヘッド・オーヴァー・ヒールス／ポコ

東芝EMI・プローブ　IPS-80306

原稿の〆切に聞くアルバム１枚、心おだやかにさせてくれる。結成７年、アルバム９枚目のロック・カントリーのベテラングループ"ポコ"のＡＢＣ移籍ファースト・アルバム。

只今、アメリカで猛ヒット中の１枚だそうで、どうですいきおいつけてあなたも、一聞してみては？名前もポコ、ポコポコ！ポコン。どうですポコッと１枚。ネッ吉田さん。

★スパルタカス　東芝
トリアンヴィラート
ＥＣＳ－80300

たった１本の映画にすごい感動をした後に、もっといい映画はないものかと、映画をあさるように、"トミダ" 以外にもすばらしい物が、どこかにあるのではないか！と……

ジャケットをまず御覧あれ、ハダカ電球の中にネズミちゃんが一匹………。

○数枚のレコードをここで取り上げる予定がスペースの都合で、何枚か紹介できませんでした事、深くおわびします。次号で必ず。

フリックストーリー

愛読者特別試写御招待

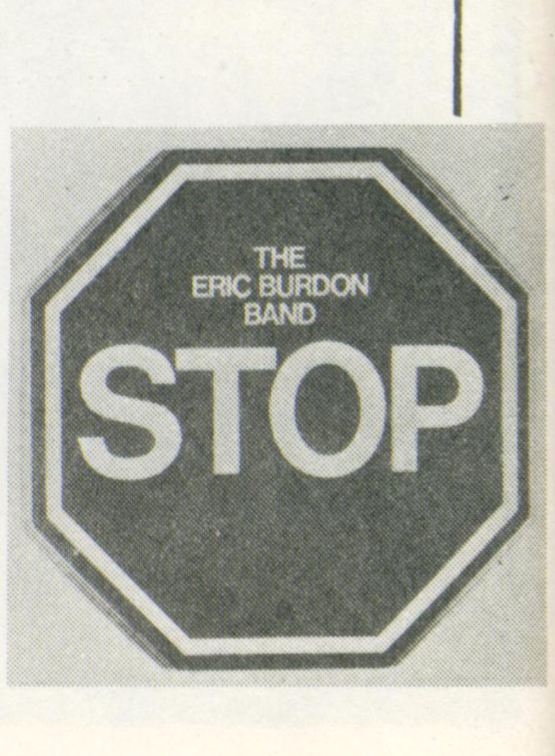
●東宝東和提供・新春ロードショー公開作品「フリックストーリー」の11月中旬の特別試写会へ**先着50名様招待。**

製作・主演／**アラン・ドロン**
脚色・監督／ジャック・ドレー
主演／**ジャン・ルイ・トランティニャン**

「個人生活」「愛人関係」「ボルサリーノ・２」「アランドロンのゾロ」と、今年の上半期に４本もの主演作品が公開されたアラン・ドロンの最新作であり、ドロンのアデルプロの作品でもある。今までの彼の映画と比べると主役のドロンはおとなしく、また一つ違った味を見せてくれる。が相手役のトランティニアンの方が "いい"という感じがぼくには強い。

原作は、フランス犯罪史上、最も冷酷で最も兇悪なギャングといわれたエミール・ビュイッソンを追いつづけた執念の刑事ロジェ・ボルニッシュの書いた実話小説で、1947年から３年間にわたってくりひろげた死闘を描いている。

★ストップ　東芝
エリック・バートン
ＥＣＳ－80301



太郎　太郎、後ずさりしながら、アカハナに、
「アカハナ、お前は行くんだろう」
アカハナ、尻尾をポンポンとやりながら、
アカハナ「い、いくよ。いくとも」

28 森(夜)

月光の下に森が、こんもりと黒く見える。
カーン、カーン、という斧の音が響く。
× × ×
青い月の光が照らしている中で、舟が出来上がっていく。
× × ×
力一杯、斧をふるうスサノオ。
× × ×
その近くで、アカハナが膝まづいて、月に祈っている。
アカハナ「お月さま、どうぞ、わたしたちの旅をお守り下さい」
アカハナの白い身体が、月光の中に青く美しい。
(F・O)

29 海(朝)

(F・I)
朝陽が上る。
海がキラキラと輝く。

30 渚

スサノオ、舟を海上に押し出す。
舳先きにはアカハナが乗っている。
舟は一枚帆のみである。
動物たちが見送りに来ている。
(見送りの合唱)
スサノオ、舟を漕ぎ出す。
アカハナ、手を振る。
× × ×
太郎をはじめ動物たち、海岸を見送りながら走る。

31 海

スサノオの舟、次第に遠ざかる。

32 海近くの小高い丘

見送りの合唱が聞こえてくる。
イザナギと他の神々がじっと立っている。
神(A)「おとめにならなくて、よろしいんですか」
イザナギ「(うなづいて)とめたって、スサノオは夢を捨ててしまうような子じゃないんだ」
じっと海に向かって立っている姿。
(O・L)

33 夜の海

スサノオの舟が行く。
(海上の舟、(O・L)して数カット)

34 舟の上

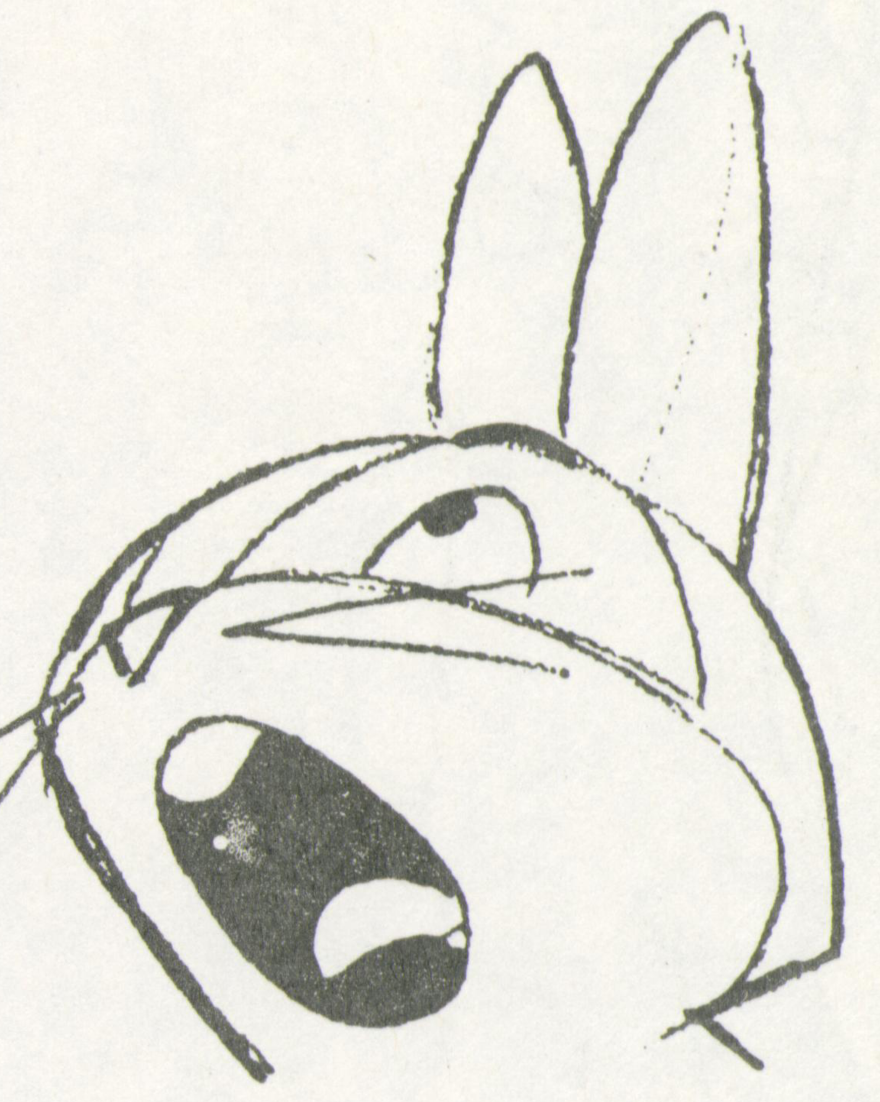
アカハナ「ねェ、スサノオのお兄さんがいるヨルノオスクニって、どこにあるの?」
スサノオ「東の方だっていうけど……ぼくもよくは知らないんだ」
アカハナ「えェ?……頼りないねェ、弱っちゃったナ、聞いてみるにも、まわりは海ばっかりだし……(海に向かってヤケクソに怒鳴る)オーィッ、誰かいないかァー、出てこいよオ」
その途端に舟がグラグラッと揺れる。
スサノオとアカハナ、ひっくり返って船ばたにしがみつく。
同時に、スサノオ達の舟がグーッと持ち上がる。
その下に怪魚アクルが姿を現わす。
アクル、尾ひれを一と打ち、バシッとはねる。
スサノオ達、舟もろともにほおり出される。
ひっくり返った船にしがみつくアカハナ。
スサノオ「やったなァ!」
猛然と泳いでアクルに向かう。
アクル、跳ね上がって逆襲してくる。
スサノオ、アクルを蹴って水中へ。

35 水中

スサノオとアクルの激斗。
アクル、スサノオの真正面からぐっと襲いかゝる。
身をかわしたスサノオ、アクルの腹にしがみつく。

36 水上

スサノオに組みつかれたまま、アクル水上に跳ね上がり、再び水中へ。
物凄い水しぶき。



37 水中

対立して睨み合うスサノオとアクル。
アクル、猛然と襲いかかる。
あわや、一呑みという時、スサノオの猛烈なパンチが飛ぶ。
吹っとぶアクル。やっと立ち直ったところへ、とびかかったスサノオの連続パンチ。

38 海上

ひっくり返った船の腹にはい上がったアカハナ、懸命に水中をのぞいている。
アカハナ「(ゲンコツを振りまわしている)それ! そこだ! もう一発!」
勢い余って、ドボンと落ちる。

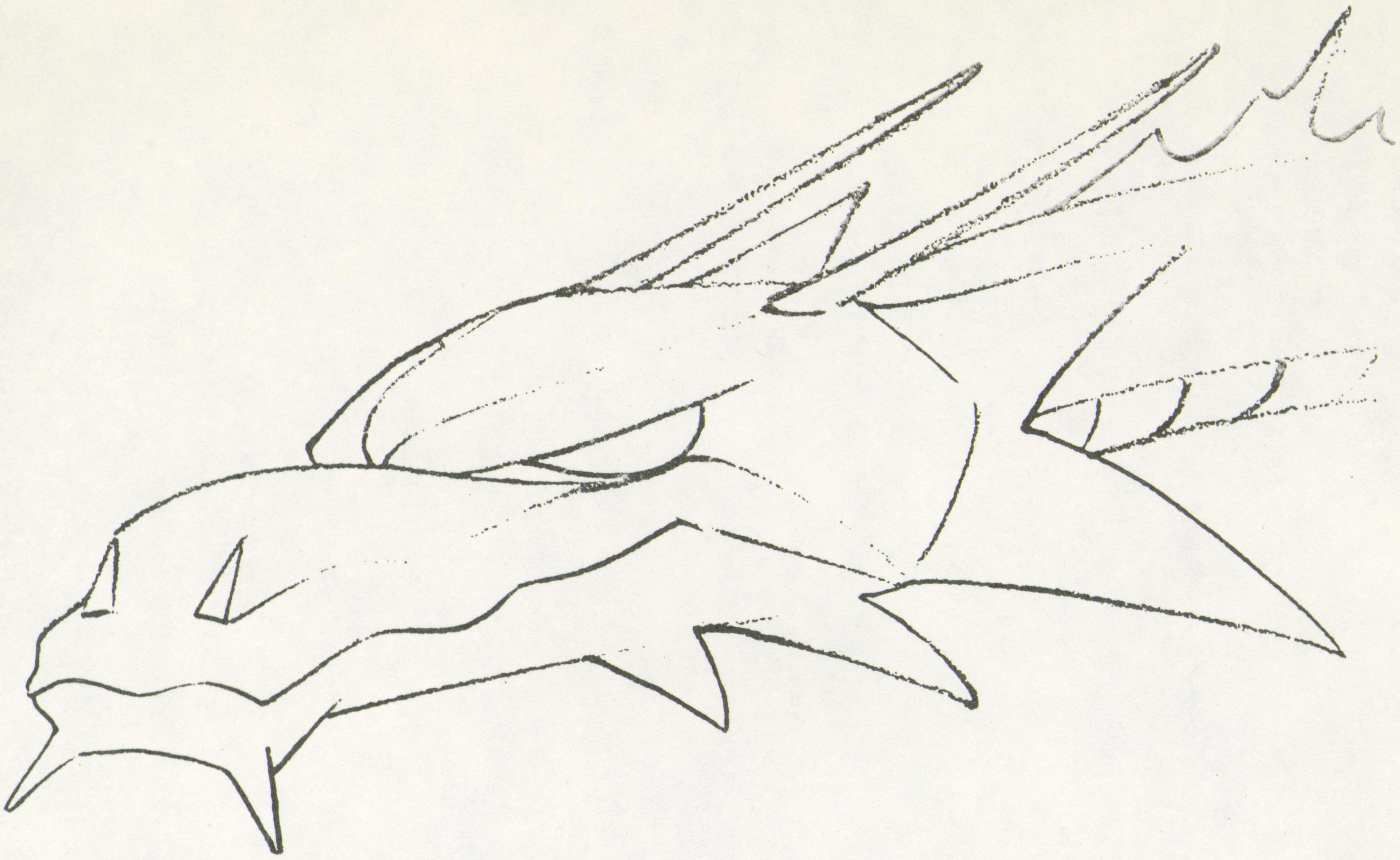
39 水中

敵わじと懸命に逃げるアルク。
フルスピードで追いかけるスサノオ。
右へ逃げ、左へ逃げ、宙返りしたりして逃げるアクル。
スサノオ、ぴったりと後についたまま離れない。アクル、とうとう海底にそそり立つ岩の前に追いつめられて進退きわまる。
スサノオ、剣をぬき放つ。
アクル兇暴な顔になってスサノオに突進する。
突進するアクル。
突進するスサノオ。
両者、激しくぶつかりあう。
スサノオの剣一閃。
次の瞬間、アクルはバラバラになってぱっと散り、色とりどりの泡となって沈みながら消えてしまう。

40 海上

心配そうにのぞき込んでいるアカハナ。
アカハナ「スサノオ……やられちゃったのォ?(泣き声)」
その眼の前にスサノオがポッカリ浮び上る。
アカハナ「わァ よかった」
と、とび上る。
スサノオ「さあ、舟をもとに戻そう」
と、ひっくり返った舟に泳ぎ寄る。
声「いやア、おみごと、おみごと」
スサノオとアカハナ、はっとして振り向いて見ると、杖をついた一人の老人が海の上を地面と同じように歩いてくる。

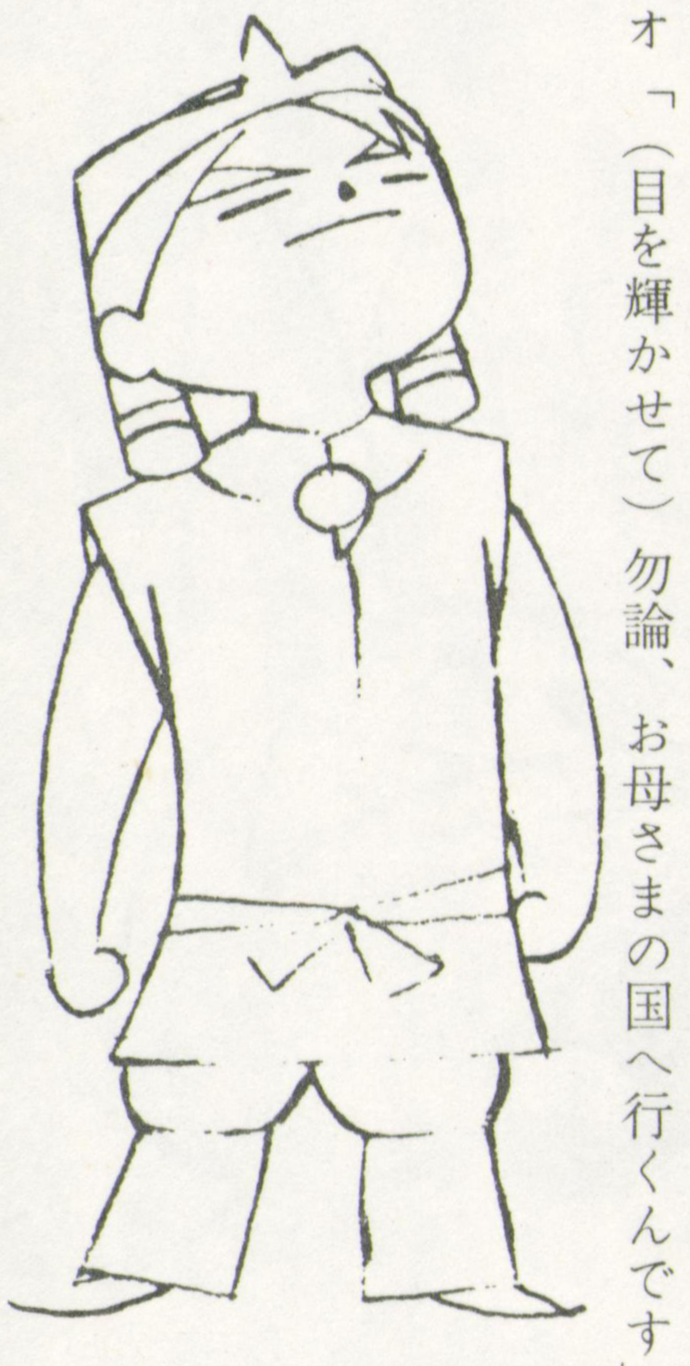
イザナミ「男の子がそんなに泣いてはおかしいわ、スサノオ」
スサノオ「だって、お母さまは僕を置いてっちゃったじゃないか」
イザナミ「ごめんなさい、連れて行く訳にはいかなかったのよ」
スサノオ「おいてきぼりなんて……ひどいや」
と泣きじゃくる。



イザナミ、スサノオを抱きよせて
イザナミ「ね、スサノオ、これからは自分の力で強く生きていくのですよ。お母さまは、遠い国でいつも見ていますからね」
スサノオ「お母さまのいらした国って、どんな処なの？」
イザナミ「それはね、平和でね……静かで……美しい……
…しあわせの国なのよ」
スサノオ「じゃ、僕も行きたいなア。ねえ、どこなの？ そこ、海の向こうなの？」
イザナミ「そう、海の向こうの母の国……しあわせの国よ」
スサノオ「そこにはどうやって行くの、ねえお母さま」
イザナミ「でもね、行こうとしても、なかなか行けないところなのよ」
スサノオ「どうしてなの？」
イザナミの幻、それには答えず、微笑んで、消えて行く。
背景、もとに戻る。
スサノオ「お母さま！ お母さま！」
というなり、スサノオ、海に入り、やがて猛然と泳ぎ出す。
どこまでも、どこまでも……。
次第に小さくなっていくその必死の姿で—
（O・L）

26 浜辺

引き上げられたスサナオを心配そうに介抱しているイザナギと神々。
スサノオ、目を開く。
イザナギ「気がついたか（と、ほっとして）一体なんという真似をするんだ、スサノオ」
スサノオ「お母さまの国へ行こうと思ったの」
イザナギ「………（まゆをひそめる）」
スサノオ「でも泳いでじゃ行けなかった」
イザナギ「当り前だ、二度とこんな真似をするのじゃないぞ」
スサノオ「（素直に）ウン、その代り船を下さい」
イザナギ「あ、船か、よしよし、……船？ 何をする気だ」
スサノオ「（目を輝かせて）勿論、お母さまの国へ行くんです」



イザナギ「駄目だ!!」
スサノオ、一瞬、不服そうにイザナギをみつめるが、パッと森へ向かって走る。

27 森の中

スサノオ、倒した大木を石斧でけずっている。舟を造っているのである。
アカハナが走って来て
アカハナ「何しているの、スサノオ」
スサノオ、斧を振り続けながら、
スサノオ「舟を造ってるんだ」
森の動物たちが、ぞろぞろ出て来て、スサノオを取り囲む。
アカハナ「舟を？」
スサノオ「うん、これにのって海の向こうに行くんだ」
アカハナ「わあ！ ぼくも連れてってえ」
太郎はじめ、森の動物たちも、進み出て、
動物たち「わたしも！」
「あたいもよ！」
太郎「おれも！」
スサノオ「（あっさり）あ、いいよ」
アカハナ「（喜んで）すごいなあ、すごいなあ、海の向こうの……どこへ行くんです？」
スサノオ「（明るく）母の国さ、お母さまのいる処だよ」
動物たち、一瞬、ギョッとする。
アカハナ「は、は、母の国？」
スサノオ「うん、まずヨルノオス国へ行って兄さんのツクヨミに会って、それから、タカマガ原へ行って姉さんのアマテラスにお別れをいう。そうして、道を聞きながら、どんどん東へ向かってお母さまのいらっしゃるところまでいくんだ……」
セリフの間に動物達、顔見合わせて、ヒソヒソ囁き合ったり、うなづき合ったりして、後ずさりして行く。
タヌキ「（スサノオに）あ、あのね、おいら遠慮します。すいません」
太郎「お、おれもです。すいません」
動物たち、こそこそひっこんでしまう。
アカハナ、もじもじしている。

「イザナミがお隠れになった」
　太郎とアカハナ、はっとして顔を見合わす。
スサノオ「（アカハナに）お隠れになったって何だい？」
アカハナ「（モジモジして）さ、さあ、……太郎なら知ってる
　かもしれない」
　と太郎を小突く。
スサノオ「太郎……」
　とうながす。
太郎　「（アカハナを睨んで）う、う、い、いえ」
スサノオ「（二匹の気配がおかしいと感じて）お母さまになに
　かあったんだな」
　と、いうなり、猛然と走り出す。

14　森
　凄い勢いで走るスサノオ。

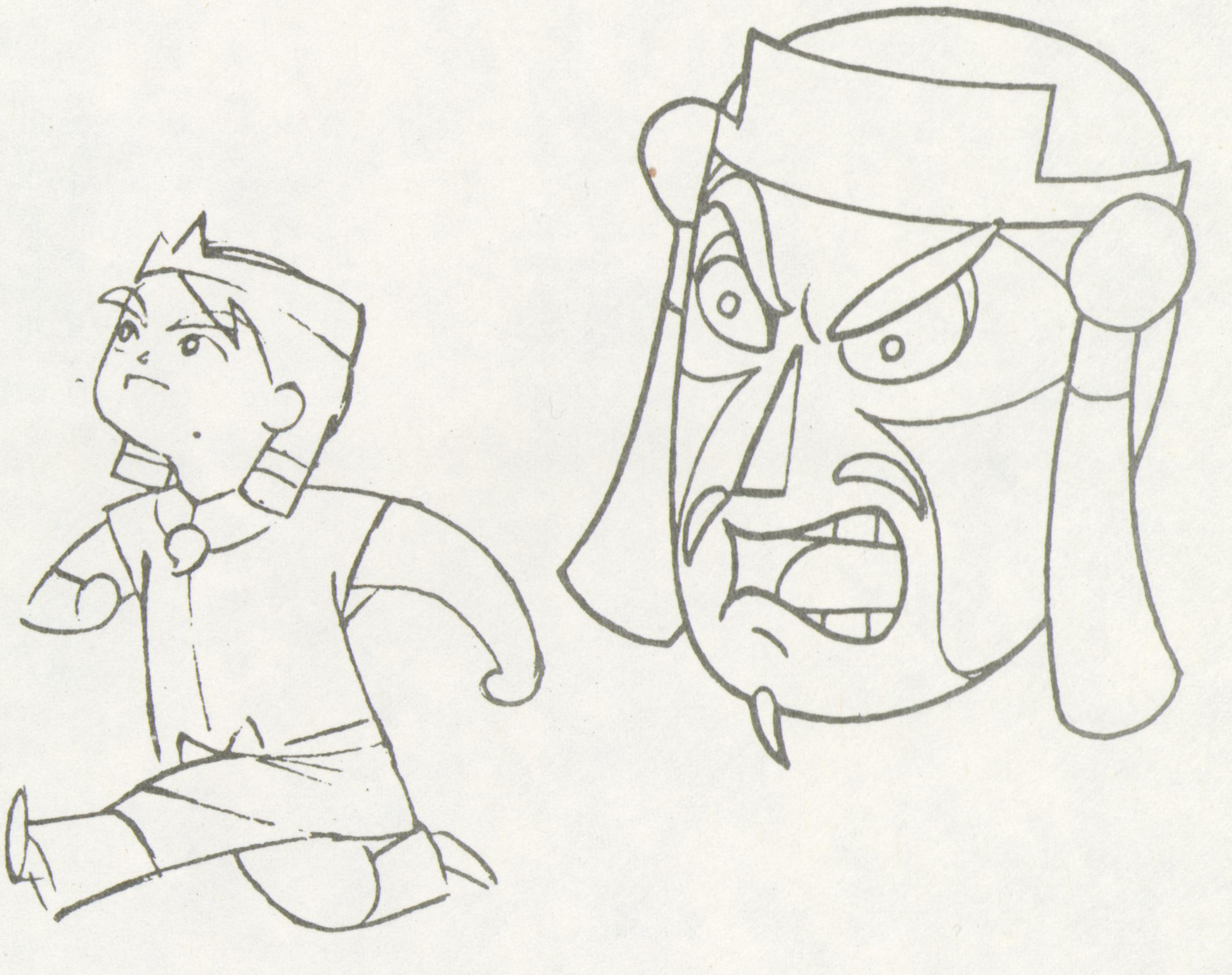
15　小川
　スサノオ、沫（しぶき）を散らして走り渡る。

16　宮殿、表
　大勢の神々が、宮殿の前に膝まづき、悲しみのため頭
　を垂れている。
　スサノオ、走り込んで来て叫ぶ。
スサノオ「お母さま！」
　宮殿から父親のイザナギが出て来る。
イザナギ「スサノオか……静かにしなさい」
スサノオ「お父さま、お母さまどうしたの？」
イザナギ「うむ。お母さまわね……お亡くなりになったんだよ」
スサノオ「お亡くなりになったって……どういうこと？」
イザナギ「それはね、ヨソの国へ行かれてしまったということ
　だ」

17　幻想
　五色の雲に包まれて昇天してゆくイザナミの姿。
　（数カット）
　イザナギの声「お母さまもさぞ悲しかったことだろう。
　お父さまとも、可愛いいスサノオとも別れて、たった
　一人で行かれてしまった……でも、仕方のないことな
　のだ。お迎えが来たのだからね、イヤでも一人で行く
　しかなかったのだよ」

18　もとの宮殿の表
スサノオ「イヤでもだって？じゃあお母さまは行きたくなかっ
　たんだね。それなら僕が連れて帰って来る。」
　と、とび出そうとする。
　イザナギ、慌てて抑えて
イザナギ「それは駄目なんだよ、スサノオ」
スサノオ「どうして？」
イザナギ「（困って）どうしてといっても……駄目なものは駄
　目なんだ。さあ、分からないことをいわずに……」
スサノオ「いやだ、僕は行くんだッ、お母さまのところへ行く
　んだッ!!」
イザナギ「（声が慌くなる）いかん!!お父さんがそんなことは
　許さん!!」
　スサノオ、口をとがらせて暫くイザナギを睨んでいた
　が不意にサイレンのように泣き出す。
　周囲でなりゆきを見守っていた神々がその声の凄まじ
　さにひっくり返り、慌てて耳を塞ぐ。
イザナギ「やめろ！泣くんじゃない！」
　スサノオ、まるで救急車のサイレンのような泣声を響
　かせながら走り去る。

19　部落の中
　泣きながら走るスサノオ。
　びっくりして見る神々を乱暴に突きとばしー
　並んだカメを蹴とばしー
　傍の小屋にとびこむ。



20　小屋の中
　二、三人の神々が埴輪を造っている。
　すでに出来上った埴輪がずらりと並んでいる。
　スサノオ、とび込むなり、ワアワア泣きながら、片端
　から埴輪を蹴とばし叩きつけてこわす。
　びっくりする神々。
　スサノオ、その神々に埴輪を投げつけ、小屋の壁を突
　き破ってとび出す。
　壁が破れた勢いで屋根がガタッと傾いてしまう。

21　森の中
　泣きながら行くスサノオ。
　小鳥は驚いて空に舞い上がり、動物たちは耳を抑えて
　逃げる。

22　海岸
　走って来たスサノオ、砂にチョコンと坐って泣き続け
　る。
　波が驚いたように荒れる。
　（O・L）

23　森の中（夜）
　泣声が続いている。
　太郎がしょんぼりとうつむいている。
　木の枝で小鳥たちが沈み込んでいる。
　木の下では、人参で耳に栓をしたアカハナが、ぽろぽ
　ろ泣きながら、思い出したように栓にした人参の端を
　折っては食べている。

24　渚（夜）
　まだ泣いているスサノオ。
　そのまわりに、涙の池ができている。
　（O・L）

25　渚（朝）
　同じ場所。
　美しい朝焼けである。
　スサノオ、泣き疲れて眠っている。
　スサノオの頬に、ひとしずくの涙が、朝陽にキラキラ
　輝いている。
　優しい唄声が聞こえてくる。（イザナミの子守唄）ス
　サノオ、アレというように顔を上げて眼をこする。
　スサノオの近くで、無数の光がきらめき、それが集ま
　り、母親のイザナミの姿となり、そっとスサノオの頭
　を撫でる。
スサノオ「あ、お母さま！」
　背景が急速に変わり、幻想の世界の中にスサノオとイ
　ザナミ。

「その眼の前に、太郎の尻尾がまるで通行止めの標識の」ようにピンと立つ。
がっかりするアカハナ。
ヤケになって威勢よく尻尾をピンと後に跳ね上げるとアグラをかき、腕組みをし、「どうにでもしてくれ」という態で観念の目を閉じる。
太郎、舌なめずりをして大きな口を開け、かぶりつこうとする。
その途端、物凄いパンチが炸裂して、太郎の体はもんどり打ってすっとぶ。
びっくりして見る太郎。
太郎の前に立ちはだかっている逞しい少年。きかん気そうな精悍な感じの中にも可愛らしさのある顔立ち。
スサノオである。

アカハナ「（喜んで）あ、スサノオ……」
スサノオ「太郎、弱い者いじめはよせ！」
太郎「（唸りつつ）何だとオ」
太郎、唸りながら隙をうかがって、さっと跳びかかるが、軽くよけたスサノオ、太郎の尻尾をつかんでぐるぐるふりまわす。
アカハナ、その動きと一緒に、目をぐるぐる動かして見ている。
スサノオ、パッと手を放す。
太郎の体は宙をとんで、大木にドスンとぶつかる。
大木、バリッと曲がってしまう。
その拍子に木の枝で昼寝をしていた熊がすとんと落ちて、アカハナつぶれる。
太郎、ふらふらになって起き上がる。
スサノオ、とびかかって行き、猛烈なパンチの雨を降らせ、ポンと太郎を蹴上げる。
太郎、宙に舞い上がって、ドタリと落ちてのびてしまう。

太郎「うわー、参ったァ、許してくれェ」
スサノオ、歩み寄って、太郎を捉みあげ、
スサノオ「こいつ！」
なおもなぐり続ける。
と、その時、
イザナミの声「スサノオ」
スサノオ、はっとしてふりむく。
「

母のイザナミが立っている。
スサノオ「ア、お母さま」
とまた拳を振り上げる。
イザナミ「（やさしく）お待ち、乱暴しては駄目よ、太郎は謝っているのだから、許しておやり」
スサノオ「だってェ」
とロを尖らせて、イザナミと太郎とを見くらべる。
イザナミ「ねえ、男の子は力が強いだけではだめなのよ……やさしい心を持たなければ……」
スサノオ「……うん」
イザナミ「さあ、体を洗っておうちへ帰りましょう」

11 川のほとり

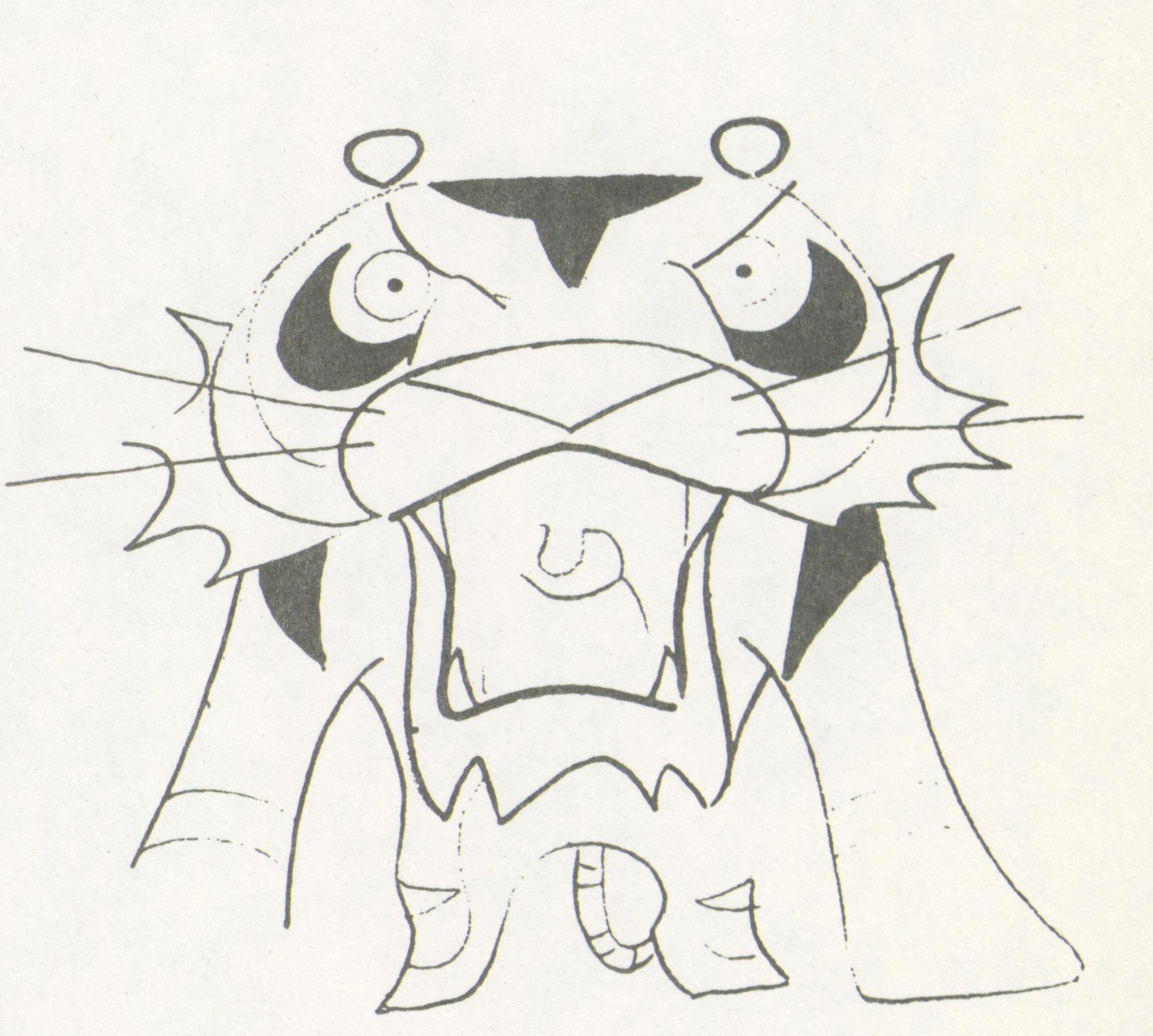
イザナミの子守唄のメロディーが流れて—夕映えをうつして静かに流れる水面。
裸になって川につかっているスサノオ。
イザナミがその体を洗ってやっている。
気持よさそうに水につかっているスサノオ。
蛙が顔を出してコロコロ鳴く。蛙の頭の上には子蛙がチョコンと乗っている。
川岸で水草の花が開き—
水鳥の母子が泳いでゆく。
イザナミ、スサノオの頭からザーと水をかける。
スサノオ、首をすくめる。

12 美しい夕景の府敢　暖暖暇優任作

木の枝越しに、母子の睦まじい姿が見える。
木の枝には肩を並べて眠っている小鳥の影—
（F・O）
（F・I）

13 森の中

スサノオや虎の太郎や他の動物たちの見ている中で、アカハナとタヌキが相撲をとっている。
アカハナ、タヌキを投げる。
タヌキ、ポンポコ鳴りながら転がる。
動物たち、ワッとはやし立てる。
大得意のアカハナ。
アカハナ「さあ、お次ッ!!」
虎の太郎、のつそりと出て、
太郎「よし、俺が相手だ」
アカハナ、太郎の方を見ずに、
アカハナ「あゝ、よしよし、一丁もんでやろう（と向き直ってびっくり）お、お前さんじゃ勝負にならないよ」
太郎「遠慮するなよ。一丁もんでくれよ」



アカハナ「そ、そ、それには及ばないよ」
スサノオ、立ち上がって、
スサノオ「よし、太郎、僕とやろう。」
太郎「え、……い、いえ、いいですよ。（後ずさり）結構ですよ」
アカハナ、我が意を得たりと太郎を突っつく。
アカハナ「キミ、キミ、遠慮するこたあないんだよ」
太郎、困る。
スサノオ「そうだよ」
と、ポンと太郎の肩を叩く。
太郎、尻もちをついてしまう。
動物たち、面白そうに笑う。
小鳥たちも一斉に笑い囀ずる。
その時、急に陽がかげって、不気味な風がさーっと吹きぬけ、草がなびき、木々の葉がサヤサヤと鳴り、不吉に散りはじめる。
葉ずれの音に混って、幽かに聞こえる声。
（この声は、音楽とコラース、及びエコー等を使用して、木の葉の囁きのような感じを出す）
「イザナミがお隠れになった」

東映動画研究・そのささやかな出発として

シナリオ〔前〕

「わんぱく王子の大蛇退治」

脚本　池田一郎
飯島　敬

※スタッフ表は次号にのります。

1　広漠とした雲界
暗い混沌とした絵悌がややもやと動く。
その中の一点が光り輝き、その光がみるみる拡がり、あたりは、霧のような雲が流れる広漠たる雲海に変り、その光の中心に一人の神の姿がロングのシルエットに現われる。
続いてその下の方にひざまづくイザナギ、イザナミの姿が見えてくる。
（O・L）

「これはまだ、世界がはっきりとした形も分からなかった大昔、神様の時代のお話しです。天の神様アメノミナカヌシは、イザナギ、イザナミという二人の神様に地上を固めて皆が楽しく暮せる国を作るようにとお命じになりました。イザナギとイザナミは、早速、天の浮橋の上から、大きな矛で下界をかきまわしました。矛を上げるとその穂先から、しずくが落ちて、いくつもの島ができたのでした」

2　天の浮橋
広い空にかかる霧の橋その上に一本のホコザを持ったイザナギ、イザナミのシルエットが現れる。

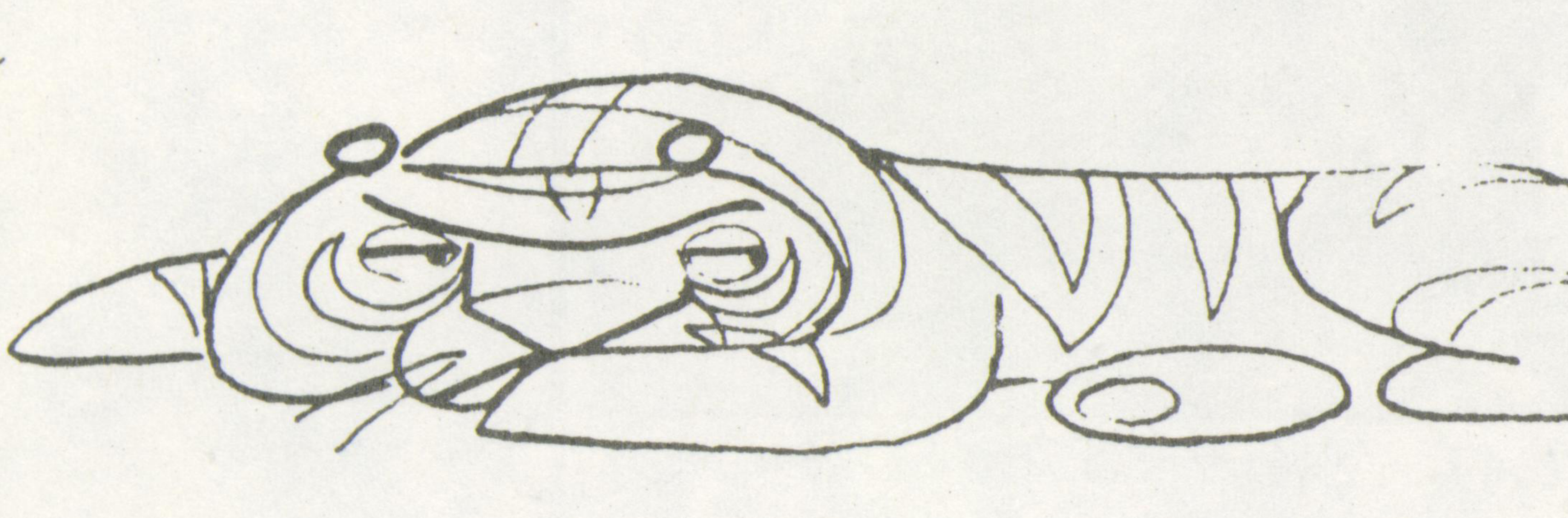
3　天空
雲の中を静かに降りて行くホコの穂先き。

4　地上
もやが左右に晴れて行き、その下に青い海原が見えてくる。

5　海面の府敢　　候修
ホコが上がり、その尖端がキラリと光って、しずくが一滴、吹い込まれるように海面におちてゆく。
落ちたしずくはぱっと拡がり、みるみるその形は、日本列島の姿になる。
『日本神話虹のかけ橋』
以下、クレジット・タイトル続く。
（F・O）

（F・I）

6　オノゴロ島
（オノゴロ島は空想の島である。この島の風景、樹木、草花等はすべて幻想的な扱いにして、現実的のものは出てこない）



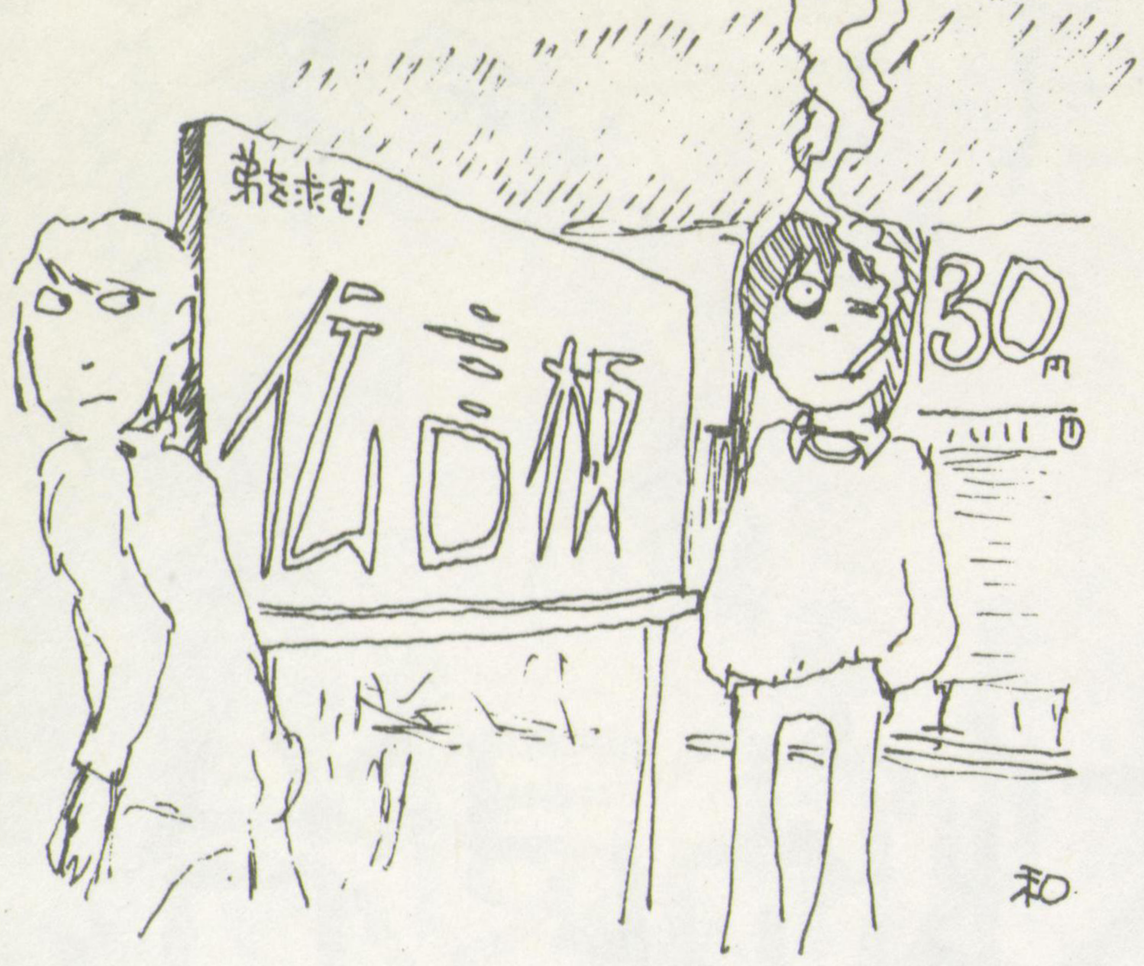
白砂の浜辺の向こうに、緑に包まれた森が見える。
その森にT・Uしながら——
（O・L）

7　森の中(A)
美しい森である。
茂みには花々が咲き、清流が快い音を立てて流れている。
木の枝では美しい小鳥たちが啼き交わしている。
その下の草地をコジユケイ（小鳥）の一族がノンビリと行く。
不意に茂みから兎のアカハナ（鼻が赤いから）がフルスピードでとび出して来る。
慌てふためいて二つに分かれて道をあけるコジユケイたち。
アカハナ、その真中を走りぬける。
再び集合するコジユケイたち。
父親が威儀を整えて歩き出そうとして、仰天して草の中に顔をつっこむ。
子供たちも急いで二手に分かれて逃げかくれる。
大虎の太郎がその真中をつっきって、アカハナを追う。
こわごわ、その後を見送るコジユケイ達。

8　森の中(B)
小川が流れている。
太郎が来て無造作に小川を跳び越すか、目標を見失てキョロキョロする。
ふと気がつくと、水の中から葦の茎が突き出てフワフワ動いている。
太郎、あやしんで匂いをかぐ。その茎が動いて、茎を口にくわえたアカハナがもう大丈夫と顔を出す。二匹の目が合う。
慌てていま来た道を逃げるアカハナ。

9　森の中(C)
アカハナ、クシヤミをしながら逃げる。
虎の太郎、迫る。

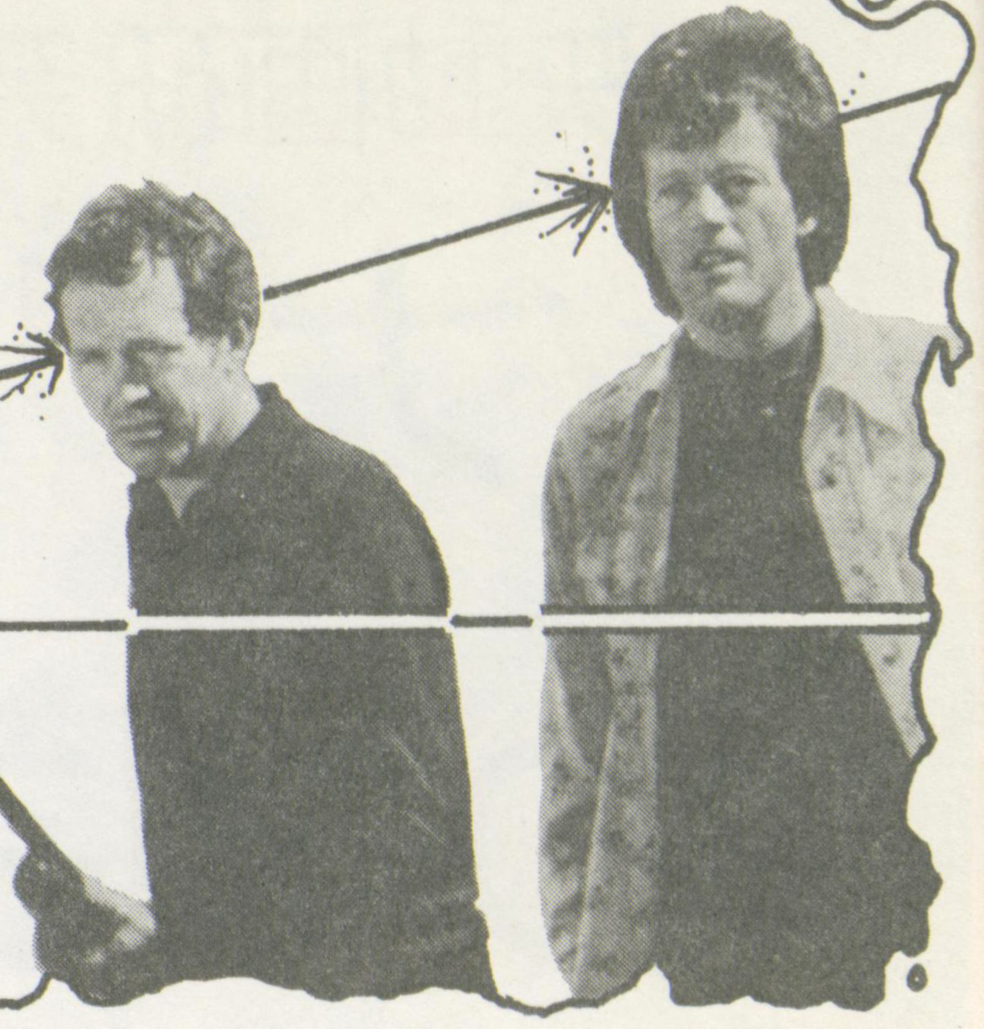
10　森の中(D)
逃げるアカハナ。
その上をひらりと跳び越して、虎の太郎、アカハナの前方にとび降りる。
懸命に下を向いて走っていたアカハナ、ひよいと顔をあげて前を見ると、太郎が口を大きく開けて待つている。
アカハナ、尻尾を使って急ブレーキ。
急いでUターンしようとする。



●東京近効の読者30名様を特別試写御招待●

「悪魔の追跡」 20世紀FOX映画／提供

試写会日は11月20日です。
主演 ピーター・フォンダ
ウォーレン・オーツ



楽しいはずのバカンスに待っていたもの……。それは、血ぬられた魔教地区からの脱出の旅だった。「イージー・ライダー」のピーター・フォンダと「デリンジャー」のウォーレン・オーツのカーアクションまじりのオカルト物。

ウォルト・ディズニーのウの字も……

ファントーシュ、さっそく手にしてみましたけれど、仲々手になじまないんですよネ。めくってみたら全然ないんですよネ、ぼくの名前も、絵も。ウォルト・ディズニーのウの字も！（バーバンク市　ウォルト・ディズニー）

チェコの人形特集などを

あえて苦言を一言。全体にまとまりがなく何を主張する雑誌なのか、わからない。特に怪奇映画の案内など何か。もっとアニメ中心に、シビアにやれ。
部分的に見ると、ハイ・ブローな内容を目指す編集部の気持もうかがえるのだが……。売るための意識的な内容低化なら今後に期待する。チェコの人形アニメ特集など、バカといわれるような、すばらしい私好みの企画をぜひやってほしい。（神奈田　枕連）

大変でしょうが…

今度、バラエティに富んだアニメーションの総合専門誌が発刊されるときき、大変うれしく、期待しています。アニメというとTVのマンガと思っている世の人々に、本当のアニメを知らしめる、そんな本になりますよう大変でしょうが頑張って下さい。
（大泉　東映動画の隣人より）

このペエジは読者の方々のペエジです。ファントーシュに対する御意見、アニメに関する質問など何でもおよせ下さい。
★今回の読者のおたよりは仮空で、いかなる実在する団体・個人とも関係ありません。

第2号を早く

ファントーシュ創刊号、さっそく買って、むさぼり読みました。すごい！というのが、ただ一言の感想です。アニメ界に活躍されている方々がほとんど協力されているんですねえ。それに単なるマンガ映画を越えて人形アニメやSF怪奇映画まで広い視野でとらえるなんて。私自身のアニメの世界が広がるのを感じます。ありがとう、ファントーシュ！第2号を早くお願いします。（沖縄　王城裕子）

信じられない！と頭をかかえる大田区の広瀬和子さん

次号は400円でも

こんなすばらしい本が、私の手の中にあるなんて、持っている今も信じられません。それに300円で買えるなんて。次号は400円でも、買いますワ、キット。（大田区　広瀬和子）

アニメモANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモ

フジ美術センターでは、"テクナメーション"というものを宣伝している。これは立体写真のネオンや滝が動く（？）というもので「お店のイメージ・アップに」というフレーズだ。こりゃアニメかな？

「マンディンゴ」——R、フライシャー、「ドクサベージ」——ジョージ・パル、おまけに「インモラル」——ボロズウィック、実写映画の制作者は最近アニメ関係者ばかりだ。

ANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモ

東京のアニメ・サークル「アニドウ」では新たに、16㎜カメラを購入した。現在は会員内だけで使用しているが、将来は広くアニメ制作者に門戸をあけたいという。機種はボレックスで、価格は中古ということで20万ちょっとらしい。

創元社で、昭和37年に出版した「我が父・ウォルト・ディズニー」を小部数印刷して、希望者に配布する企画があります。助っ人希望は編集部まで。

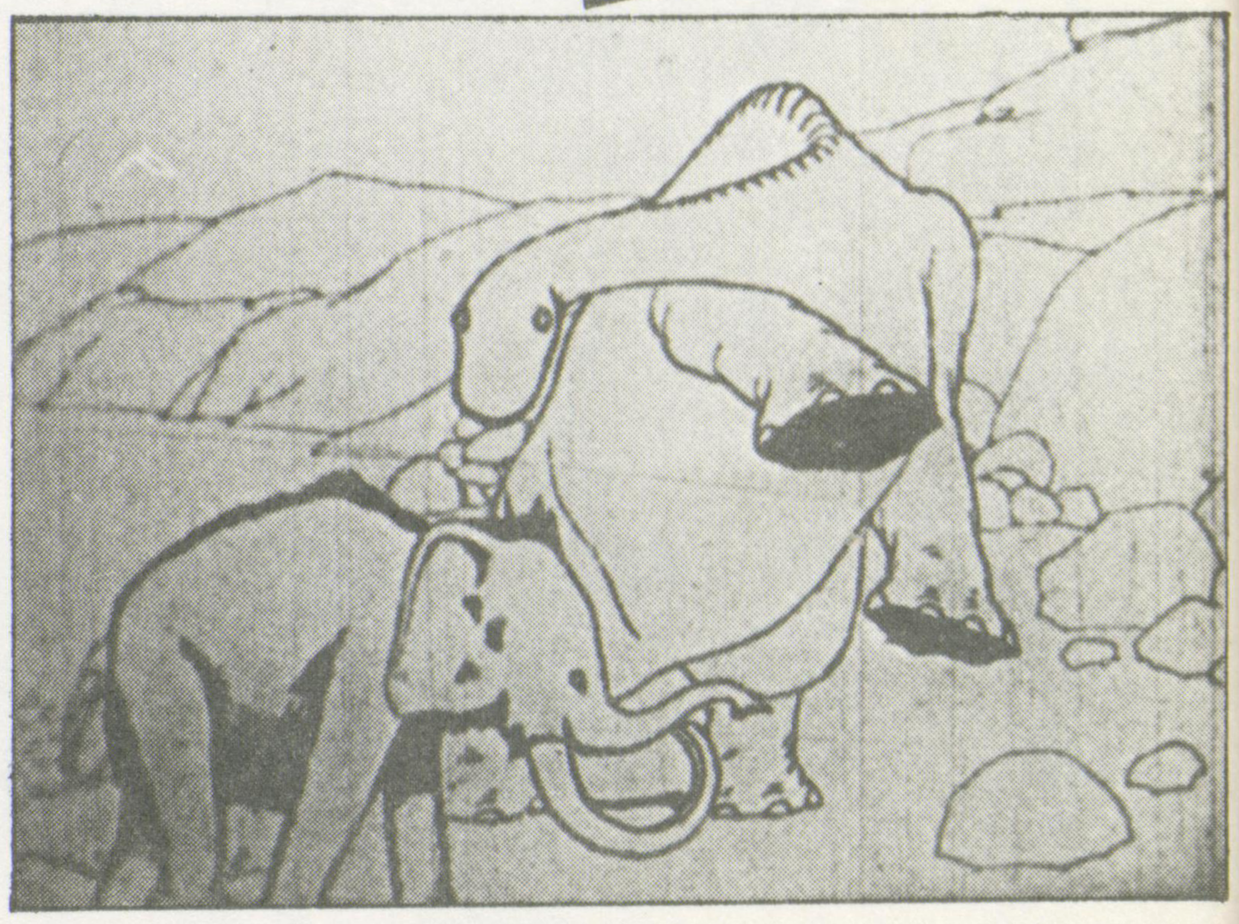
ANIMEMOアニメモANIMEMOアニメモANIMEM

本当のホンモノ ▶ 「ザ・ビギニング～アニメーションの誕生」
★日本初公開　（1908～1922の作品集）
モノクロ・サイレント・80分

ファントーシュ	エミール・コール
恐竜ガーティ	ウィンザー・マッケイ
シネ・カメラマンの復襲	L.スタレビッチ
クレイジーキャット	ジョージ・ハリマン
猫のフェリックス	パット・サリバン
ルシタニア号の沈没	ウィンザー・マッケイ
ココと彫刻家	フライシャー兄弟

12月18日（木）　P.M.7：00　開映
会場　高円寺会館ホール　解説……杉本五郎
料金　1000円　前売　800円　会員　500円
主催　アニドウ　☎03(396)2439夜間・並木

★アニドウ★



ウィンザー・マッケイ「恐竜ガーティ」より

各地サークル紹介 その1

アニドウ

アニドウ（東京アニメーション同好会）は昭和41年に結成されたプロ・アニメーターのサークルです。アニメーションの作品を見たり、アニメについて話しあう場を目的としてTVアニメーションに働く人々が作りました。現在までに的100回の上映会を行い、三年前からは月例として、定期的にアニメを観ることのできるようにしています。未公開や直輸入のめずらしいものを中心にして、リバイバルはやっていません。

又、当会所有の機器を使用して、16%、8%の自主制作も活発にすすめ、毎年行なわれる全国縦断作品発表会・PAFに出品すべくいろいろな作品を制作したいと考えます。

会員は100～200人の変動をくりかえし、現在は180人ぐらいです。プロ・学生中心の集まりで、TVでも自主でも作品のつくり手としての立場で参加する会が目標です。

男は自主制作にやる気があって、ぐうたらな人、女は美人であることが会員として望ましい。

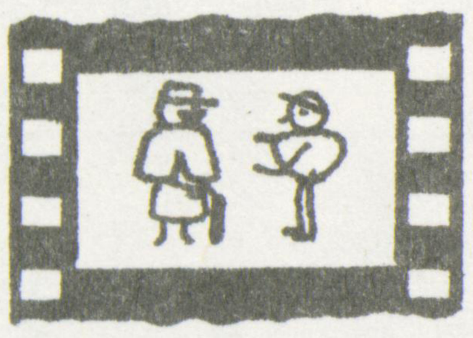
ルーズな会なのでこまかなことをギャアギャアいう人はだめです。

会費入会金はあまりに安すぎるので現在検討中。

▼東中野スナック「伽藍洞」にて毎月旺日7時半より集会。
▼会報Film—を月刊で配布。
▼上映会は毎月月末高円寺会館で。
（月刊ぴあに毎月掲載）

アニメ・ライブラリーを含むアニメーションシアターの設立、諸外国の協会などとのフィルム交換、もしくは交換上映会などが理想。

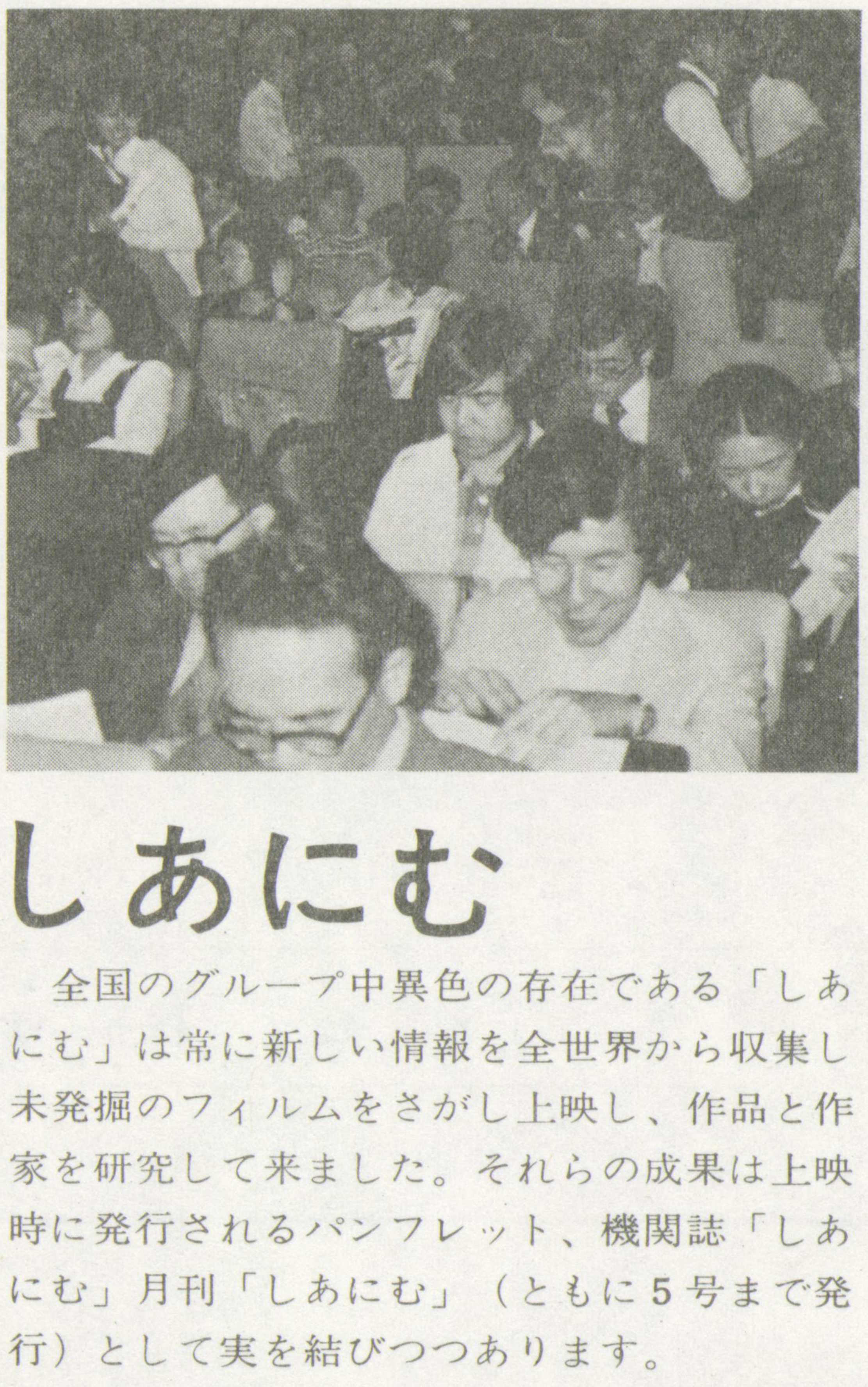
〔代表〕　並木孝
（50年12月まで）杉並区今川3－5－8
TEL（396）2439



日本アマチュアアニメーション協会

アニメーションこそはまさに映画の原点みづからそのキャラクターに動きを与え、1コマ1コマ作りあげてゆく楽しみは、アニメに関わった者でないとわからないダイゴ味といえよう。その魅力のトリコになったアマチュアが、年令生別を問わず10年このかたこれにとり組んでいるグループ――われら日本アマチュアアニメーション映画協会である。年に一度、6月に華やかな「アニメ祭」を展開、新作発表映写会を無料で公開する。月例会もつねに意欲的に進行し、至極ワキアイアイ、みんなで会を運営している。会員数45名、入会大歓迎。（高松）

★代表　小松英人
★事務局　〒103東京都中央区日本橋本町
2－1－7　高松ドラッグ
高松政男　☎241－2459



しあにむ

全国のグループ中異色の存在である「しあにむ」は常に新しい情報を全世界から収集し未発掘のフィルムをさがし上映し、作品と作家を研究して来ました。それらの成果は上映時に発行されるパンフレット、機関誌「しあにむ」月刊「しあにむ」（ともに5号まで発行）として実を結びつつあります。

機関誌は、わが国初のアニメーション専門の研究誌として1972年の暮に細々と発行され、しだいに内容を充実しつつ今日に至っております。これが刺激となって「ファントーシュ」なるアニメ総合専門誌を発刊される事になったのではないかと自負しています。フィルムのコレクションも杉本氏にはおよびもつきませんが増えつつあり独自のものとしては、「トムとジェリーシリーズ」「禿山の一夜」「カバール夫妻のコンサート」「シレーヌ」「バッタ君街へ行く」（全巻）「コッカブーディ」などがあります。

会員は現在の所12名、会費はとりません。どうにか上映会の収益で運営しております。

★〒420　静岡市鷹匠3－5－9
伴野孝司　☎0542(45)1776

T・A・C

名古屋を中心にアニメ狂と自負する連中が寄せ集って来たのがT・A・C（東海アニメーションサークル）で8%によるアニメ作品の自主制作及び上映、国内・外のフィルムの上映などを行ない今年で早や7年目を迎え、地道ながらアニメ活動を続けています。

T・A・Cとしては会員ひとりひとりが自主作品を作れる様にもって行きたいと願っており、その為の一歩として進めていたT・A・C初の共同制作アニメ「怪人20面相」が今年完成し意外と好評なのに気を良くして、これからも共同制作の方も進めて行きたいと思っています。その間に自主作品も作って行きたい。

現在会員は18名で平均年令21～22才と若く、あれも観たい、こんなアニメも作りたい……そんな時「ファントーシュ」なるアニメ専門誌が発行されると聞き、T・A・C一同楽しみにしています。（円法）

★〒400 17　中島郡平和町六輪那古良6－17
平和団地71号　円法　憲生

次回は、
ふうせん、A・F・G・その他のグループを紹介します。

8m/m小映会・2

主催　アニドウ　杉並区今川3－5－8　(396)2439　☆モノクロ・サイレント多し！

東京・池袋区民センター5F映写室
（池袋駅下車3分豊島公会堂となり）
11月23日(日)　P.M.　6：30～

★私は十代の怪奇映画だった
Fの逆襲、十代のF、Fの復襲、
F・恐怖の生体実験、4Dマン、
獣人狼男、十代の狼男、ミイラの墓、
怪奇！ミイラ男、半魚人復活、
ヒューマン・モンスター、五本指の怪物
告げ口心臓（アニメ）、狂える魔術師、
三馬鹿・化物屋敷の巻、
11月24日(月)　P.M.　6：30～

★イカモノSFの出てくる日
TROG. EQUINOX.
コングの息子、絶体の危機、
吸血原子グモ、コンゴの大サソリ、
宇宙からの怪虫群、それは宇宙から来た
月に飛ぶ、紀元前百万年、火星のDデイ
最後の海底巨竜、アリの宇宙戦争、
11月25日(火)　P.M.　6：30～

★16%長編作品
月世界旅行　アッシャー家の崩壊
悪魔のマリ　アルコール患者の幻想
1プログラム
当日　400円、　会員　200円、
前売り・ぴあ持参　300円、
3プログラム
1000円、　会員　500円、
ぴあ持参　800円、

創刊記念［定期購読者］特別プレゼント
各100名様・合計300名御招待！

1 定購＋一般読者
本誌主催の創刊記念特別上映

日時／昭和50年12月９日(火)　６時開場
場所／高円寺会館ホール(高円寺北口下車・徒歩3分)

《特別上映作品》

★アンクルサムの冒険　ロバート・ミッチェル作品 12分
★スーパーマン　フェーマス・プロ作品 10分
★トムとジェリー　ハンナ・バーバラ作品 ８分
★ふろむ・まじっく・らんたん　30分
［ーエミール・コールからノーマン・マクラレンまでの世界アニメ発達史ー］
★その他多数、上映を予定しております。

参加希望者は、その旨をアンケート葉書を明記して編集室まで。〆切11月30日

おくずけ

季刊ファントーシュ創刊号
第１巻第１号　通巻第１号
昭和50年10月31日初版発行
定価300円
編集・発行人……………………並木孝
発行所………ファントーシュ編集室
〒101 千代田区神田１−１−５−905
甲谷勝方

2 定購者のコメディ好きの方
ユナイト映画提供の特別試写会

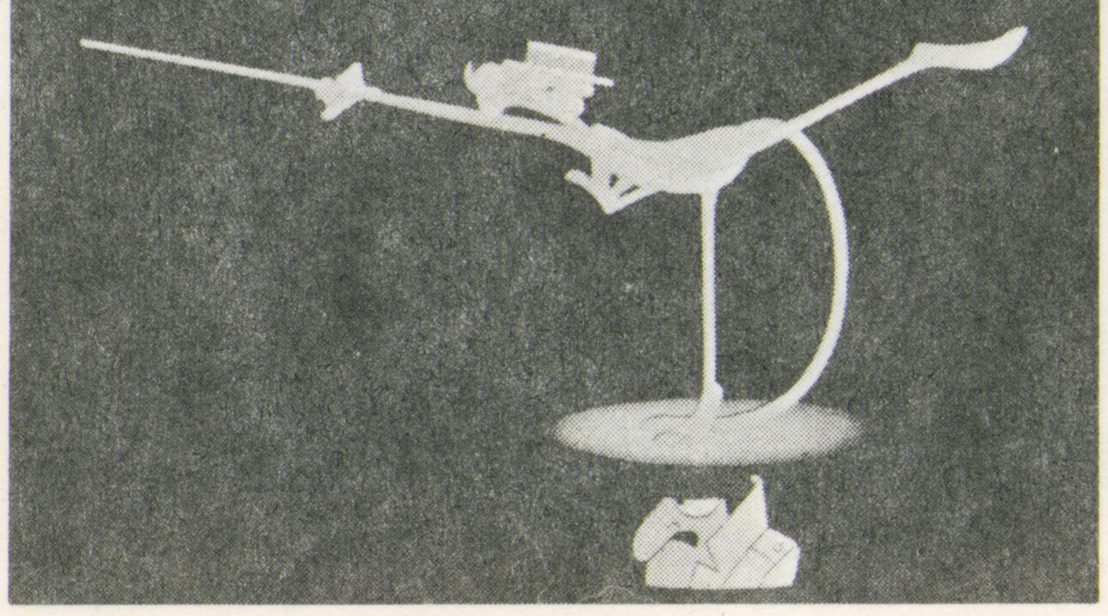
ピンク・パンサー②

日時／場所　未定
11月下旬、６時開場のホール試写
条件／東京近郊の方

この映画はみなさん良く御存知のあのピンクパンサーが、タイトルに登場し、ヘンリー・マンシーニのあのメロディが流れる劇映画の続編で、クルーゾー警部を再びピーター・セラーズが演じている。「ＪＡＷＳ」に対向して、お正月ロードショー公開決定！

ブレーク・エドワーズ監督作品。

入場希望の方は、アンケート葉書に明記の上、編集室まで**〆切は11月15日必着。**



アニメ・タイトルだけでも見物！
映画としてもさわやかなドタバタ！すいせん作！

3 定期購読のＳＦファンへ
ワーナー映画超大作の特別試写会
11月下旬の試写会へ**100名御招待！**

ドクサベージの大冒険

ケネス・ロブソン原作
ジョージ・パル製作
マイケル・アンダーソン監督作品

世界の誰より頭脳メイセキ！最高にハンサム、両眼は金色に過巻き、顔立ちは実に個性的。熱帯の太陽に焼かれ、北極の風にさらされた青銅色の巨体は、内に超人的な力を秘め、弾丸から身をかわし、ハエのように壁を這い上り、水中には８分間ももぐっていられる。さらに一発のパンチで厚さ2.5cmのドアに穴があく。

これがドクサベージなのである！

〆切11月15日

制作協力　小松沢再／丸山晃一／山田けい子／牛込恵子／富沢洋子　森下　一

写植　㈲フクシマ・フォト・タイプ
印刷・製本　太陽印刷株式会社

編集後記

本を出すって大変な事なんですね。小学校の頃から国語の勉強をせず、字もろくに書けない。そのうえ編集の事も知らんのにここまで来るとは…。夏の日の深夜、クーラーの無い部屋で虫が来ないよう窓も開けられずあせだくになって編集会議をしてからもはや数ケ月。まさかほんとうに出来るなんて今でも信じられない。ところで善福寺公園パンツ男はどうしているのか？（甲谷）

秋に公開する映画を先に見て、原稿書いてたら、先に映画が公開しちゃって、今やっと冬に公開する映画を先にみて来た所です。(青)

なにしろはじめての仕事なので、原稿やらレイアウトやらで徹夜をして、熱を出したり、くしゃみがとまらなかったりした人がいる。創刊にかけたんだなあと思った。みなさんも体だけはくれぐれもお大事に………（須藤）

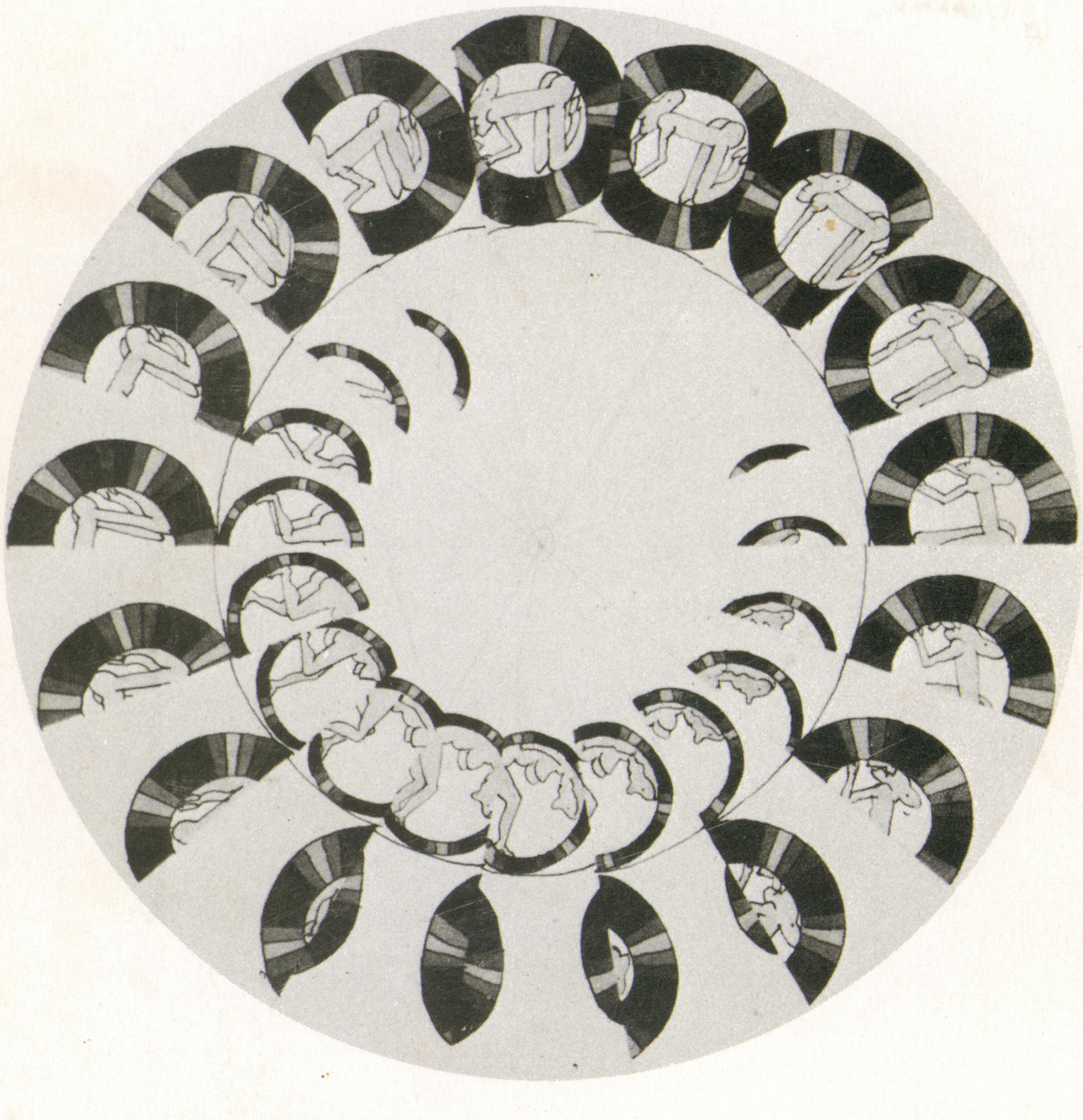
ANIMATION——生命を与える方法の謎、私に残る幽かなやさしさと愛をして、心を満たせ（N・YAKAN）

出た！出ました!!夜の街にウオー！とファントーシュが出た。敵に渡すな、大事なアニメ!!私を嘲笑った人々よ。出きぬ、売れぬと、さげすんだ人々よ。今、貴方達に愛をこめてざまあみろと叫ぶ。（並木）

みなさん！やっと出きました！
心からお礼を申しあげます！
東映の宣伝部の今井さんには「売れないヨ」とソッポを向かれたけど（チクショ〜）
売ってみせます！必ず。（ひろせ）
買って下さい！みなさん。

まんが 日本昔ばなし

テレビで良い子たちを魅了した
昔、むかしのタレントたち総出演！

8ミリ・16ミリ映画名作シリーズ

日本ヘラルド映画株式会社 Herald